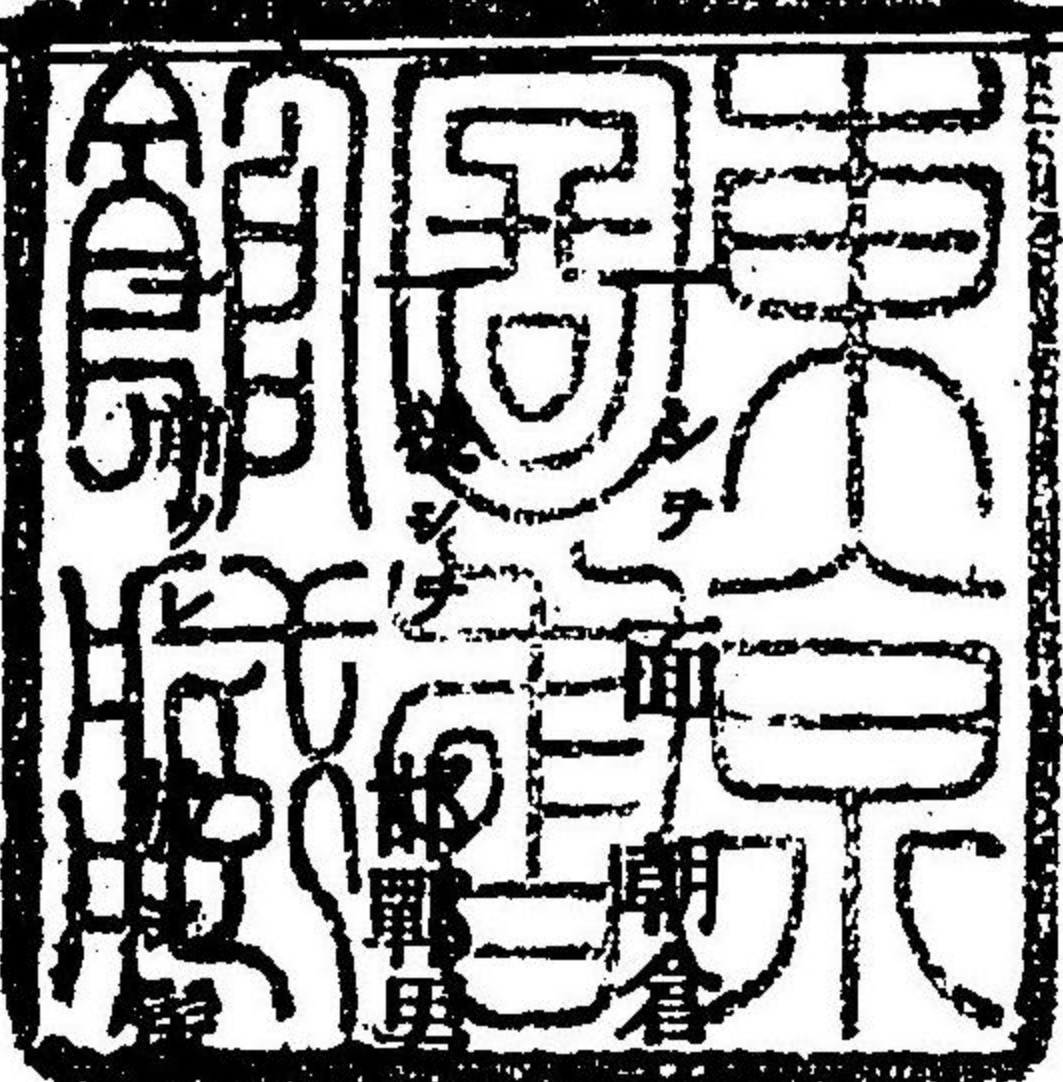


4/25594/23

能樂蒔與集卷之六

觀世清尚傳形付之事

志賀



格子厚板水衣肩上

腰帶 墨繪扇サス

杖 ヲイシヤ腰ノ杖チサス

三日月 原板 大口狩衣腰帶色鉢卷黒垂 スキカシムリ 神扇

イロナシ厚板又ノシメニテモ ヨリ

水衣 腰帶 扇

眞ノ一撃 五ノ段ニ句ヲ聞テ出ル 高砂之通上歌ノ末ニ入替ル 山賤の トニ足 身もて應せ

ぬト正面向 ぬるさむさへトツキ向 迎の思イ出ニ 正へ出杖チ前へツキ花の

りけニ向チ見右ニテトメル 實や今迄モ 左へマツリシテ柱ノキワニテ古へ今ツキへ向返

シニ中へ出下ニ居正面向杖下ニヲキ両手ニテチイシヤノ繩ヲモテ後ロヘチロス チモソウニチロシ



テヨシ 曲の前 曲の中 上の前 曲どめ 右四ヶ所ツキへ向也

時代と々 ツキへ とも此山 正面 ひとり山路の ツキへ向 ともづのーや

面チ下ケ正直シナガラ立 夕へのくも 右へマハリシテ柱ノ側ニテ正へヒラキ中入

後出端本越 二段開テ幕上正面ウケ夫ヨリ直シ出橋掛リ一ノ松ニテヒラキ話 ともてとも同ト

身チ直シ 里も春めくく ト正面チウケ 志賀奇崎 ト身チ直シ ちくちくの春ト

ヒラキ 海こーよ 行カハリ 見のてと ト向チ高クサシマハシヒラキ 年へぬ

る身直シ 是と志賀の ト正へヒラキ 神のーちゆうのけ ト左右ノツニトリナ

カラ舞臺へ入シテ柱ノキワニテ右チウケナカラ正へ出ヒラキ 神舞達拜 トメ左右打込ヒラキ左ノ

袖モトシ打切ニクツロキアト正面向 長閉色や トヒラキ ちりふあーわる 左へ

乗り拍子七ツ跡ヒラキ 實心ーて 正出 撃の ト角チシカト見テヌミ出角トリ おみ

の衣 ト左リへマハリツキザヨリ大小ノ前へス、ミ行 松もくちん ト小マワリ正ヒラキ

のくろや 右へノル拍子七ツフミ 春の山邊 ト正へ出カケ直ニ行カトリ 道ゆさり

あゑや トサレマワシヒラキ ちる花の ト左ノ上チ見ナカラウケ正へ出左右ノ袖チ巻シテ

柱へ行シテ柱ノキワニテ右チウケ 拍子ととろあ ト右へノル拍子七ツ夫ヨリ両袖チロシヒラ

キ袖カへツツキ正へ二足カナテカナ

小 壇

一小牛尉 一中將 今若

作りモノ腰ノ立木 丸臺 囃子方地謡サツキテ舞臺中 正面先置 又作りモノナシニモ

一聲半越 櫻ノ枝右ノ肩ニカメケ正チウケ向見テ身チ直シ出シテ柱ノキハニテトメ諸出ス 人ヤ

見ント二足クツロケナカラ櫻ノ枝肩ヨリチロスニホイミナ右チウケ老ナイトヒソ三足出返シニ正面

又一聲ノ内櫻ノ枝カメケ居老ナイトヒソノ返シニ正面向ナカラソロシテモ

あはれをあらめ心ゆらふ トツキへ向 よーや此身はト正面向 しろもゆも

トツキへ向 左ノ手出シテモ いらすまどわせ ト正面向 都連々ト正向 櫻を

をらぬ ト右チウケ 花衣 正直シツカニ出 月ゆゆの ト左ニテトメ あり

あふふ トツキへ向 寶々大原や ト左へマハリシテ柱ノ側ニテ 神代も思ひ返

シニツキへ向ツキ臨正面

又花衣トレツカニ出ナカメカナトヒラキテモ

又アヒニアフナカメト面ツカイテモ

神代も思イト正ヒラキテモ

又作りモノ有時ハ時モ日モト作りモノ側へ行ナカメカナト櫻ヲ見テモ

神の御代より トツキへ向 しろをの道とあはれゆらぬ 二足ツメ 名残小一は

ト中へ出下居打切ニ櫻ノ枝右ノ側コチク 語も昔男 トツキへ向ナケキテモト左ニテシホル打

切ニ正 花の友あなれて トツキへ向 ぎれや〜 ト正面向キ 心若木の

花の枝 ト櫻ノ枝ヲ見テ持立テ 老わくるやト櫻ノ枝チカメケ どのもト左ノ方ヲ見

らるのも ト右ノ方ヲ見テ しろけあどゆ ト角ヲ見テ行 くる車 ト角トリ足トメ

花のまろ〜 ト見マハシ左へマハリナガラ櫻ノ枝ヲ肩ヨリオロン大小ノ前ニテ 盃の トヒラキ

天も花あや ト上ヲ見 くれある ト右へミマワシマソリシテ柱ノ側ニテ正ヒラキ中入

カサント櫻チカツキカサシノ袖トシテ柱ノ方へクツロキ見マハシナカラ正面向コシ車ト角ト

リ後同断 コノモカノモノ形ナシニモ

又ナレテサヲハト立マシレヤ〜トシテ柱ノ方へクツロキ 花ノ枝ト櫻ヲ見テ跡櫻チカツ

キテモ

ツキ間ノ飄スンテ直ニ車ノ作りモノシテ柱ノ先へ出ス

又車ノ作りモノナシニモ

後一撃本越聞ケ 幕上正面ウケズニ出ル 舞臺へ入サマニ車ヲ見テ出左ノ足ヨリ車ニノ中ニ立
飄出ス

又車ナキトキハ左ノ足ニテチヨト留夫ヨリ左右左ト出テトメ飄出ス

ツキトノモンダンツキヘアシライテモ又アレヲハズニモ

花見車 ト車ヨリ後口へ左ヨリチリチクリニ大小ノ前へ行 正面向立居 シテ車ヨリチリテ後見車
ノツクリモノ入ル 今とささぐら花も雪も ト櫻ノ作り物ヲ見ル 作りモノナキトキ
ハ不見 露一あぐ トツキヘ向打切ニ正面 ありせーゆ 拍子一ツフミテモ

みちのとのーのふ ト正面へ出 乱れんと ヒラキ 我あら ト右へ二足 よみ

ー 左右打込ヒラキ 又ヨミシモト左へノル拍子ニツ跡打込ヒラキテモ 又唐衣ト

角へ行角トリ はるーきぬる ト左リへマハリ大小前ニテ 都なれや東山 トヒラ

キ上ヲ見カ 我も又 左右打込上羽 つまもともねり 大左右足トメス打込ヒラキ

小ーちよつくと正ヨリサン角へ行カサシ左リへマワリ大小ニテ左右トメワキへ向コイ合ニ正

背りあ ト扇メ、ミクツロキ

序舞 序マイヨハクナラヌヤウニ舞ベシ

ト上扇 ありー御幸 ト左右ニテ出跡へ打込ヒラキ 花も ト身ヲ直シ返シニ出ヒラキ

山嵐 ト正ヨリサンマツン ちらせやー ト左ヲ引ニツアフキナカラ出 ちりまーゆ

ニ左ノ手ヲノケ左ノ方ヨリ花ノナルヲ見テ正へ少シ出左ノ 袖巻 まとろめを ト下居

櫻ふ 角へ行ニメカ角トリトメズニ左へ行ワキサヨリサシテシテ柱へ行右へ廻リ正ヒラキ袖カヘシ
右へ二足 のころらん 留スニ足

又山風ト右へクツロキナカラメキ扇シテワキ正へ行カ、リチラセヤ、トハチ扇ニテコノモ
トナカラトサシヌキノウシロチトリアンザ左ノ扇チ面ニアチ 櫻ニ立

頂羽

ツキ秋ノ草花チ竹ニハサミ持出ル

一面 笑尉 朝倉 蹴斗目 水衣 肩 上 腰帶 墨繪扇サス 掉

一後面 アハ男 小ヘシミ 原板 半切 法波 腰帶 黒頭 白鉢巻 ホコ 扇修羅サス

一正面 上着 唐織 上着ノ上ヘツハツキ 懸置 帶 舟ノ作モノナシ

一腰半起開テ出舞臺ノ内ニテ柱ノ側ニテトメ置

秋毎、右ヲウケ 萩のわらわら ト正面向跡へ二足クツロケル とくのりこま

人、ト二足出ナカラ掉ヲ見テ右ノ手チカケルワキ舟ニノルヲ見テ右ノ手チハナシ正面向 葉毎小

陰や ワキノカツキタル草花チ右ノコシ引テ見ル 天の河 直レ 秋風吹と波の

音 ト二足出テモ みまね掉 ト掉ヲ見テ右ノ手ヲカケル此形ニテワキヲ見舟が着てイト颯

ワキ出 恐れくゆ ト謠ナカラワキサへ行チ見テ手チハナシワキアラヤサヤト颯ナカラ中へク

ル時シテ掉チスタ小シ出左ノ手ニテ竹チ持右ノ手ニテ美人草チ見テヌキ見テサラバ此花ト颯 語

チ聞セトワキへ向少出下ニ居正面向花ヲ右ノ下ニ置扇ヌキ颯出ス一度も高祖ノトワキへ向 式時

項羽 ト正向 のつとせんとワキへ 又わううんすの 正面 名やあけ

よや ワキへ向 呂馬童と正 つらさをゆのて 右ノテチ上ヨリ前へ出シ見テ

我と我首 扇チアゲ ちりちりト 扇チガタムケ 此原の露 ワキへ向 ちりちり

ふすの 正面

ふのゝ語れをソキへ向

昔ふふふるイダナ

今もつとま

立シテ柱ノ方ヘクツロキ左ヘトリ

頂羽のゆふれのソノキニ足ツメ直ニ中入

又頂羽カワキヘヒラキ返シニ右ヘトリ中入モ

間ノ舞スモテ正面先ヘ一疊臺ヲ出ス

後出端連先ヘ出舞臺ヘ入大小ノ前ニ正面立居

シテ連ノ跡ヨリホコヲカツキ出一ノ松ニテヒラキホコツキ

らんらんきりふりー右ヲウケ

みけあんー 身ヲ直ス

又古松下トヒラキ紫の雲間ト左ヲ引正面ヲシカト見ル紫の雲間ト右ヲヒキ左ノ手ニテ頭ヲ

トヲ上ヲ見テモ

天津乙女 正ヘヒラキホコツキ

そのく妓樂を 拍子六ツナシモ打切ニ身ヲ直ス返シモ

リホコヲカイコミ

琴琵琶の ヒラキ

四面よとまの サシワケ右ヘマハリ

又執

心 幕ノ方ヲシカト見アラグルシ一ノ松ノ邊ヘ行ホコツキ跡ヘ引左右ノ手ヲホコヘカケ肩ヘ當テ面

ヲフセル

ツレクシハ思イニノ返シヨリ正出臺ヘ上リテツルハト面ヲサケ涙ノ雨ノト左ニテシテ身ヲナゲ正
ヘタイヨリワリ下居夫ヨリワキサヘ行ワキノ上ニ下ニ居

シテ身ヲナゲト云時ヲトロキタル心ニテ橋カトリノランカンノキハヘ出左ノ手ヲカケツレノヲチタ
ル跡ヲ見テ夫ヨリアトヘタラートシテ舞働 身ヲカヘ舞臺ヘ入タイヘ飛上リホコノ石ツキニテ

左ヨリ右ヘ連テサガス心持 夫ヨリワキサノ方ヘ飛下リ大小ノ前ヘ行小マハリシテヒラキ 二段 夫

ヨリタイヘ上リヒラキホコツキ 働トノ頂羽ハト拍子六ツフミ直シホコチカイ込タイノ角トリ左

ヲヒキキヘ果シ下ヲ見テ思イト左ヘマワリ正向ツルキモトホコチ下ヘキメテトクト見ホコモト上ヘ

アケテ見皆ナケ捨テト右ノ方ヘホコチヌテ 身をたく左へ組カヘリ下居 ゆめもの語
ワキヘ面計シカトムキスクニ左ノ袖返シアツレナルトアンザ あこれくらゝき 面チアゲテ
カラ扇チヌキヒラキ持 立あがり立 味方を 橋カ、リノ方チ面斗シカト見直ニヒラキ
高祖よ 拍子六ッ あらき聲々 ニウケンニツ めいもの見せん ムチサシタイヨ
リヨリ 切なきを 左右ニチシテ柱ノ方ヘ出ナカラニツ三ツアツキトツテハ右チ先ニ左右ノ手
チノハシ人ヲトラエルヤウニシテナケ捨 其チ正ヘニ足ナカラ打込又引フセト右チヒキ下居左ノ
袖返シ キチフセト向ヘグワツシ跡角トリ左へ行ワキサヨリサシ橋カ、リへ行左ヘノリ拍子ニツ右
へ飛返リ下居トメ

通 盛

一レテ面笑尉 朝食 ノレメ 水衣肩上 腰帶 掉

一後面中將 今若 原板 ヒトエ法後
一 女 面 宿 上着唐織 髪 髮帶
一聲ノ前ニ舟ノ作モノチ出ス シテ柱ノ先ニ置也
一聲半越開テ幕上連先へ出ル 一間程間チ置テ出ル連ハトチノ間ニルシテハトモニル 後見
掉チ渡ス
連舟ニノリ向チ見臨出ス 今も面白き ッケ見マツシ 鳴戸の沖を雲のくく 少々高ク
正ノ方ヘ見廻シ 淡路の島や 角ノ方ヘ面チムケ 浮世の業 正ヘ直レ心持編過テ向テ
見チアントウト諷 嵐よのれを ワキノ方ヘ心チ付チカシチトチト掉ノ跡チ見テ 切ら

ろぞ 爰ニテ右ノ手チ出シサチサス 此所心持肝要工夫スヘシ 今もゆん 正面ノ向開心持
とよりさだめぬ 右ノ手ハナシワキヘ 仰よーさかり サチ見テ右ノ手チカゲサヲサス
ツレ下ニ居ル

ヤウシタワキチシカト見ル

有難や 經ヲ見テ右ノ手ヲハナシ

鳴戸の海の サラスナ

合掌尤經ノ方ヲ拜ム

實有難や 手ヲヲロシ

ともしぞ 扇ヲヌキヒラキ持

芦火

のつけ 箒火ヲ上ヨリ見テ扇ニテニツ三ツアツギ

てうもんずるぞ 開心ニテ下ニ居

有難き 左ノミ、ニテ能開打切ニ正面扇ヲム

猶々御經 左ノ手ニテワキヘサシ返シニ手

チヒク瀧濟テ正面

仰のととく ツキヘ

中よも小宰相のつぢね

正面向ツレヲナ

ヨト見テヤト諸諸共ムト能コトハルツレ 去程にト直ニ諸

主従多く〜 二人共シホリナカ

ヲ立 ツレハ右ニテシホリ シテハ左ニテシホル ツレ

去よてもあのみみ 右ウケ

涙の

かねて レホリ打切ニ正 レテ めのととく〜

ツレヘモノユツコ、ロニテ右チヒク心持ニ

チツレチ見込

思召とまり〜 ト少シイテ

御さぬの袖よとりめく〜 カナ

レケニテツレノ右ノ袖チ兩手ニテトリ引トメルフリキリトツレフリキルトヨロ〜トシテ直ニトナ

ニル心ニテ左ノ舟マタへ出左ヨリチリ中へ出ソコノミクズト下ニ居返ニ立中入

ツレフリキリト

フリキリ直ニ早ク舟ヨリチリ下ニナヨト居立後見サへ行下ニ居ル

後出端本越二段開テ幕上レト建立テ左へトリ大小之前へ行正面立居ル

シテウケ出舞臺へ入ツキノ方へ向合掌スル 薫ノ如シ ツキニヨガレヤクシヨクハント又謳

りのりやう入佛 正へヒラキ 通盛夫婦 角トリトメ左リへ行ツキサヨリシテ柱へ行小マ

ハリツキへヒラキ合掌

ツレ 名斗ハ ツキへ向 小宰相の局 ト謳ナカラツキサへ行ツキノ上ニ下ニ居 シテ是は

是は

生田の森の ツキへ向是迄アラツレヒラキ 抑此一の谷 中へ行床木ニカゝル

通盛

其今の一 ツキへレカト向 一のんを我陣 正面へ直シ立小出

小宰相 連へ向下ニ

居ツレモシテへ向 打切ニ正

〜や御身 ツレへ向名残ヲシミノト扇チヒラキシヤク

ノ心ニ持立連ノ前へ行居立　たどらぬ　正面扇々、ミ　月の光よ　連へ向會第ト正
よれをりー　ワキ正面ノ方イ立テ見　あらそつわいや　面ヲ下ケ正へナチシ　我第
面ヲ直シ　他人より猶　連へ向イトマヤナト面ヲサケサラハトナト立シテ柱ノ方へ向クツロキ
所りト須摩の山　正面へヒラキ　うーる髪右引ル、拍子一ツカケワトメ小マハリ正ヒラキ
但馬守經政　ワキへ向ワキノ颯ニ正　討死せんと待所ゆ　正二足出　今はあれを
角ノ方見ヨキカメキニトヒラキ　近江の國の　拍子フ返シ　木村の　正ヒラキムナチ
上テト扇ヲ頭ノ上へアゲ　通盛少も　右へマハリナカラ扇ヲヒラキ左ノ手ニツマミ　ぬき
ゆるけたる　ワキサへ向テ太刀ヲヌキ一重身ニ成テワキサ方へ行チヤウト打トニツ切ナカラ拍子
ニツ　らん今太刀よて　太刀ニテサシ右へフ返　さーちらんクミツリカヘリ太刀
サステ下居アンサ左テ袖返シワキチサシ尤扇右ニトリテ袖返スナリ　とくとゆの聲　ユウケ

ニツ　惡鬼心　立正面先へ出　わさつものこも　ムチサシ拍子一ツ　成佛　右へ
マハリシテ柱ニテ正ヲ合掌シ返シニ右へ二足アリカメキスエ足トメ

殺生石

一ツテ面　増　近江女　祐　唐織

一面　小飛出　修羅扇

ワキ道行濟ヲ狂言トセリフ有テワキサへ行時幕上ヨヒカケ出ル

なすの　とらあ正　とけよくらあー　右ヲウケ　執心の　正直シイテ　草の

原　ヒラキ　物すまあー　角へ行角トリ　枝もあさつれ　左へマハリ　秋の夕

部りも　身ヲ直スクリニ中へ行下ニ居正向

曲ノ前　上ノ前　曲ノトメ　右ニケ所　ワキへ向

あらしのーツキへ　ひろのあさの　イヌチ　立ちへのり　正直ニ立返シニシテ
柱ヘツツロキ　きんけの姿　ワキへ向　面ヨリ　夕やみの夜の　ワキ正面ヲ面ツカイナカ
ラ出　とゆーびトメ　我らけあり　ト左ノ手コテワキチサシ出ヒラキ　待たまへ
ト右ヘマハリ作りモノ右ノ角ニテ小マハリ正ヘヒラキカヘレニ右ヘトリ作りモノニ入
後二つよるれを　石ノ作りモノチ左右ヘツルシテ床木ニカノリ居ル　くまゆい　左右ノ
手チアケテ扇チ左ノ手ニモチ左ノヒサヘツケ尤扇ノ中ヲモツ　ゆがて五鉢やくるーめを
スエノ拍子ニツ返シニ拍子六ツ　へりどくと追取り　扇チ右ヘトリ　とぶそらの盛
ヨリトヒチリ一重身ニ成テ上チサシ直ニ右ノ手チヲロシ正先ヘツカノト出トメ　海山　右ヘ
マハリシテ柱ノ側ニテ正ヒラキ　其後ちよくー　颯返ニ正ヒラキ　三浦の助上總之
介　右ヘノル拍子返シテ　那須野の　角トリ左ヘマハリ　野干と　中ヨリ正先ヘ出

犬も似たれを　フミヒラキ右ヘマハリシテ柱ノキハニテ小マハリシツキヘヒラキ正ヒラキ
兩介　角トリ左ヘマハリ中ニテ　草を分ち　左右ヘサレハケテ右ヘキリトマハリ目付柱ノ
方ヘヒラキ　身を何　左右ノ手チ上テ出扇ヲ左ニトリ尤扇中チトル弓チ引タルヤウニシテ左ヘ
キリトニツ三ツマハリ跡目付柱ノ下チチライ　せつとまぐつ　上下チチライナカラ出左チ
フミ込　矢の下あ　左右ノ手ニテ扇チモチ上ヘアゲ直ニ扇チハラヘアテ左ヘソリカヘリ
ゆめせられを　一カイニ下ニアンザ　即時よ命　立右ヘマハリ一疊ニトヒ上リ正面向左
右ノ袖カヅキ　殺生石　拍子フミ返シテ　今あのかたき　盛ヨリトヒチリワキヘヒラキ
下ニ居　有づゆらざト平伏シ　御僧よ　ワキチ見テ　ゆくとくと　マチサシ右ヘマ
ハリナカラキリノトニキカノリ右ヘマハリ跡ノリ込拍子ニツ右ヘトヒカヘリ下ニ居　矢よけ
り　ト右ヘニ足

半 蔀

一面 小面 袴 上着 唐織 ツマ紅扇 髪 髪帯

一後面前同シ 紅大口 長絹 腰帶 扇

アシライニテ出橋カ、リ一ノ松ノ邊ニテ正向トメ飄出

せろろの御僧の ツキへ向 去多りら 舞臺へ入シテ柱ノキワニテ 是夕顔のツキ

へ向 五條あり 正面 せらめせー多 右チウケナカラ正へ出ナキ跡ノト正チンカト

見ヲトメ たて花の アトへシサリヒラキ返シニ中入

後作りモノシテ柱ノ先へ出ス 一聲 一段

舞臺ノ内作りモノへ左ノ足方入中ニ立飄出スロンキノ内皆正面ニテ飄 跡とふんぎのツキ

へ向 夕顔の ツキ上ノ竹ヲ見テ右ニテ持 草の

半蔀 ツキアゲナカラ正面へ出左リヘトリ大小ノ前へ行正面向立居

作りモノツキ上ルトキ後見出竹チ柱ヨリ臺輪ニトメ置

とありを聞シ 右チウケ みたけーやうー 左右左ト出 南無當來導師 開心ニ

テ立居 唱ける 内ヘトリツキへ向 今も クワラリトシ 合掌一 下ニ居 せと

ろよぬるー 左ニテシホル打切ニ立 猶それより 角へ行角トリ 源氏此宿 左へマ

ハリ中ニテ 雅光 橋カ、リチ見テ左ニテトメ まねもてよせ 左チヒキ あの花 ツキ

上メル蔀ヲ見テ右ノ手ヲ出シ のたまんを 扇ヲ引見テ 白き扇 クツロキナカラ扇チ

ヒラキ扇チヒラニ雨チニモチ左ヘトリ正面向 此花を 右チ引メコ雨手ニアゲル 源氏の

くー 扇ヲ下ケ見ル うちびんす 大左右打込ヒラキ あゆ扇を 角へタキ扇

手らふるる 左へマハリ うれーち ツキ正向へ行カ、リ をりー 扇子扇ワキノ方

へ出 定めぬ 扇右へトリサシ角へ行カサシ左へマハリ大小ニテ左右ツキへ向トメ
とりの
てこそ 扇タノミナカラシテ柱へクツロキ 序ノ舞

又カサシ左へマハリ大小ニテ正面向ヨルベノト右へノル拍子六ツ

跡ツキへ向テモ 舞ノ内作物ハツシテマフ

舞トメ上ノ扇 羽のく 左右ニテ出 花の夕顔 拍子ニツ跡へ打込ヒラキ けいの
やどりのツキ向 つねおぼツキヒラキ とはーませ 身ヲ直シ ゆうつけ
の 正直シ出 鐘トメ右ノミ、ニテ開 ーきりよ 東ノ方ヲ見テ つけ渡るー
のくめ ツメイロノ扇 あさきよめ ツキへ向 あけぬ ツキノ方へ向キ出ルヤウニシ
右へマハリ作モノ戸チ 夕顔のやどり 左チヒキ見上ル 又半部ノ 作モノ、側行
ツキ上ノ竹チ左ノ手ニテトリトメタル竹チハツシ作モノへ左ヨリ入戸ヲチロシ作モノ後ヨリ出扇

メハミナカラ入

鶴 龜

シテ 唐織 半切狩衣 腰帶 唐冠 鉢巻 唐團扇 子方ツル

連ニテスル時

同 カメ 連ニテスル時面 郡邸男

始ヨリ一疊臺大宮チ出ス大小前ニチキ引立ル 狂言出口明ア、濟ケライ序ニテシテ出ル跡ヨリ大臣
出ル シテ舞臺へ入シテ柱ノ先ニテトメ夫ヨリ左へトリ臺へ上リ右へトリ正面向床キへカ、ル
とものくもどららゆへ 面ヲツキへ 出端ニテ鶴龜イッル
ツル先カメ跡ヨリ出橋カ、リ一ノ松ニテ二人共行カ、リ足トメル地ヨリ龜ハト颯時二人ツユトリ舞
臺へ入両方へ立ワカレ足トメ重ヲラントヒラキメツハイ三段ノ舞 二段目ノチロシニテ入替リ三

段目ニテ又九ノ如ク入替ル

トメ左右打込ヒラキ 千代のとまりー 左右ニテ出跡へ打込ヒラキ

鶴の仕形 ひりこまつの 正面へ出 舞遊ぐは ヒラキ

鶴の仕形 舞遊ぐは 正へ出 さんちうのつるも 行カ、リ

一千年の 二人共ニサシ右へマハリ よととひと君よ シテへヒラキ ちりーやうめ

さんこう 下居 君も 笛ノ上行角カケ下ニ居

シテ君モ涉カント臺ヨリチリ少レ出トメフカクト正ヒラキメツハイ樂

又臺ノ上ニテ床キニカ、リ居テホヒトメツハイシ臺ヨリオリ舞

トメ左右打込ヒラキ 月宮殿 左右ニテ出跡へ打込ヒラキ 色々妙なる 正面へ出ヒラキ

秋々時雨の 角へ行 又時雨サシ行テモ角ニテ右へマハリ角トリナカラ 雪の袂 左ノ

袖返シ頭ニイタ、キ左へマハリ中ニテ 雲の上人 ヒラキ けのーやううの 拍子六ツ

山河草木 サシワケ右へマハリ中ニテ 舞々まへも 正ロラキ 官人駕與ちやう

正出左右ノ袖ナ卷ンテ柱へ行小マハリ正へ打込袖モトシヒラキ左リノ袖返シ右へ二足 めでさけ

ね 留

又ツルカメ始ヨリワキノ跡ヨリ出橋カ、リニテ下ニ居

地へトリ ツニトリナカラフタイへ入

阿 漕

一面笑尉 朝食

一後面 ヤセ男 三日月 カハズ 大口ニテモ大口ノ時コシミノナシ

一聲半越 釣掉右ニカタゲル 又掉始ヨリ右ニ持テモ 舞臺ノ内シテ桂ノキヲニテトメ颯 殺ス

事ノ悲シサヨト面ヲフセツタナカリケルト面ヲアケ浮世ノ業にてト釣掉肩ヨリチロン白樂天ノ如ク
右ニ持今日モ又ト右ヲウケ左ヨリニ足ツメル

物の名も 正面向 難波の芦 右ヲウケ正直シ出 瀨萩 足トメ 音を替々ツキハ

もーややく 正直シ 月見ん 左ハマハリシテ柱ノキツニテ ぶきーまよりくる ツキ

へ向 ツキものわくりひん 飄テ中へ行下ニ居正面向釣掉ヲ右ニツキ 御膳調進の綱ツ

キハ されど神の 正面 堅く禁々ツキハ 阿漕正 此浦の沖よツキ ぶきま

たよ正 うくるやツキハ ーやとふ々正 せめめ ツキハ くらわーや 面ヲフ

セ正此飄ノ内面フセテ居ル 錦木の 面ヲ直シせめ一人トツキハ度重ル右ニテシホリ打切ニ正

御身ゆきまのよツキハ 日夕暮正 ーわけむり 釣掉トリ右ニモチ 立とう方

や立 わけゆきのの 右ヲウケ 海邊ゆはるる 正面ツツカイ見テ 今はやてくり

右掉ヲノベテ左ノ手ニテ釣イトヲホトキアミノツナト 左ノ手ニテ糸ヲヒツハリツリカヘント右ノ釣

掉ノ上へ左ノ手ニテ釣糸ヲ打カケ直ニヒキ返シクリカヘシニテ右ノ手ニテ右掉へ釣掉へ釣糸ヲカラ

ミウキヌシツムト右ハマハリナカラ掉ヲヨコニシテ兩手ニモチヨシノアメリニツケヨリモ正行カハリ

あひわあはやくふき 中ニテツキ正テ面ヲツカイ 海くらくらく 正面ヲ見テツツカニ出

こほをゆ 正面先ニテ掉ヲ前へ打捨 けわよと向ヲ見テ さけぶ聲 左右ノ手ヲアゲミ、

チフサキ面ヲフセ 浪ゆきこへへ 右ハマハリシテ柱ノキツニテ右ヘトリ正ヒラキ中入

後出端不越一段 四手綱ヲカマケヒモヲ前ニモチツへ幕上テ 正面ヲウケ向ヲ見テ身ヲ直シナカラ

面フセテ出ル橋カハリ一ノ松ニテ足トメ飄 今宵は少 向ヲ見テ 御膳のよくの 心持ニテ

右ヲウケ向ヲ見テ よきひきあり 面ヲフセル心ニテ正 道と替人目を 舞臺方へ出ルヤウ

ニシテ向 忍びくく 跡ヲカミテシツカニ正面へ四足半出テロシテノハシ 沖よゆ 正面

ヲ遙ニ見テ 磯よも 内へトリテワキ正面ヲ見マハシナカラ幕ノ方ヲ見テ 唯我のみ 正面向
阿漕のしをき 舞臺へ入サマニ 執心のあま 太コサニテ向チシカト見テツカノト出目付
柱ノ手前ニテ居アミテ両手ニテ前へチロシ下ニチキツナチタグリ四手ノ竹ニカケテ カケリ 四
手ノ竹直ニ直シツナカケナリ

カケリ仕形 アミチ見ルウチニワキ正面ノ方ニテ物音ノスルチ聞テチトロキ立レツメテ向ヲ見人ニ
テハナシト定メテ又アミチ見夫ヨリ右へトリ橋カノヲ一行一ノ於ニテ正へフミコミ頭ヲトリアミチ
見テ跡へサカリ舞臺へ入サマニ太コサニテ下ヲ見両手ニテニツ打左ノ手チウツシナイ又右ノ手チウ
ツシナイテ出アミノキワへ行下ニ居アミノ竹チ左ノ足ニテフマヘツナヲ両手ニ持アミチ見テ

伊勢ノ海ト風 耳よと聞とも 右ノ耳ヲ上聞ク心 猶心あは アミチ見 くらとくもの
み アミヲヒキ右ノヒザヲヒキテカヲ入テヒキ上ル 浪とくものて アミチ両手ニ持ウシロエナ

ケ捨立 めうくも 正面ヲ見 あらあつや 下ニアンサシテ たぐたや 面ヲンセル

又ソウクハト右へマハリナカラ扇ヲヌキ正面

アラアツヤトユウケンヌルモアリ

うーみつたぐら ヒキスニル拍子 みよや 先へ出 りんくはのめくりくら 足トメ向
ヲ見テ 欠車ゆ業を 正面下へアツクヤウニシ めのおへのトサシ右へマハリ正面へヒラキ
實こ 両手打合 をそろのの 正見テ 思おも 身チ直ニ返シニ右へノル拍子六ツ 又ナ
レニモ ーやはの名をき 正へイデ 猶執心の 正ニナトメ 心ひくあみ 二足出ナ
カラツマニ扇シ扇ヲアゲタナレシト下ヲ見サシウケシテヒラキ くれんだりの 右へノル拍子六ツ
身のため チカラ入テサシ出角トリ足トメ あねを碎と 扇チチヘマテ ぶけふの
あど 面ヲアケ をうねり 左へマハリ 右のを 正へ向ヒキ頭ヲトリ くものさり 上ヲ見

テ 立居よ 右ノヒサツキ下ニ居又左ノヒサツキ扇ヲ前へ出シ 夫ヨリ立左へマハリ たち
けたまへや ツキムチサシ出フヨヒラキ右へマハリシテ柱ノキワニテ左へノリ拍子ニツ右へトリ
ナカヲ扇ヲ左へトリ正へヒキ下ニ居扇頭へイメ、キ夫ヨリ立右へ二足 イリニケリ留

玉 葛

一面深井 荷 腰巻 水衣肩上 色ナシ扇サス 腰帯 髪 髪帯 掉
一後面 マスカミ 荷 上着唐織 ヌキサケ 扇 髪左右へ少別ニハナシテク
一聲半越開テ幕上出舞臺ノ中ヲ柱ノキワニテ飄出ス
猶浮舟の 右ヲウケ左右左ト出 つまてこのな一き ノ返シニ正面向 物の見くく 正面
さそまけ一き 右ヲウケ さめめまて實面白の マテ角カケ見マハシ 川音 開心持ニテ
正面向 つらまらのき 正出 せりあよのこき ヒラキ打切ニ掉ヲステ先へ出下ニ居

かくて御堂あ参りつゝ 合掌 ふたらとくせん 立角へ二足ホト出左へマハリ大コノ前ニテ
二本の杉あ着よけりノ返ニ正面

又フメラクセント立四方ノト右ノ方へ少出トメ二本ノ杉ト左へトリ大コノカメへ着ニケリ
ト出テトメ返ニ扇ヌキ正面

ツキへ向トモニマハレト中へ行下ニ居クリニ正面向

曲ノ前 上ノ前 曲ノトメ 右ニケ所ツキへ向

唯たのむそのりの人 ツキへ とむらひのまへ立 我とをど 二足ツメ 多みだ
のりゆ 右へマハリシテ柱ノキハニテ正へヒラキ中入
後本越ニ段開テ正ウケ身ヲ直シ出シテ柱ノキハニテトメ飄出ス りかふるまぢを ツキへ向
たりねくも 正面向 そのまらで ツキへ はらかーや 面ヲツセ正面向 つくも

わみ 左ノリ拍子四ツ跡ヒラキカケリ

トメ小マハリシテ正へヒラキ たりや 扇ヒラキ少先へ出ヒラキ くらんとく 先へ出ナカ
ラニウケンニツ 黒わみの 左ノ方カツラ左ノ手ニテトリ見ル ありぬや 持タルカツラノ下
へ扇ヲ入レテ右へ小クマハリ角へ行直ニ角取りカサシ左へマハリシテ柱ノ前ニテ左右打込ヒラキ
けりもうーの 跡へヒラキスエル拍子ニツ 人をとつて 正へチロシ扇正出トメ はけ
ーく 跡へタラト下リ 露も 左チヒキツユ見ル心左へマハリ大小ノ先ニテ くらんとく
チリナカラ下居 恨と人の 返ニ右へノル拍子六ツフミ返シ くらんとくのうきあま立一
ワキへヒラキ ありひと サシ角へ行角トリ せせび 扇顔へアテ あるのくらんとく
や 左へマハリワキサヨリ 玉と見らるや シテ柱ノ方へマキ扇右へ行カ、リ くらんとく乱
れゆる ハ子扇ワキノ方へ出トメ くらんとくのや 左ニモチタル扇カホへアテ 此のうーの

角へ行ナカラ扇右へトリ角ニテ小ク右へマハリ直ニ角トリトメズニ左へマハリワキサヨリシテ柱ノ
キハニテ眞女ノト拍子ニツ右へトリ正ヒラキ右へ二足 さめにけり留

兼平

一面 笑尉 ノシメ 水衣肩上 腰帶 挿
一聲ノ前ニ舟ノ作モノ出スシテ柱ノ先ニ置
一聲ニテ出舟ニ左ヨリノリ正向後見挿ヲ渡スモナ露出ス
くらんとく 二足クツロケ 是と山田 ワキへ 叶廻一正 げまゆー、ワキへ地トリ
マナ向ツ、ケ是ハヌト正 見あひゆ ワキへ向 とくー、右ノ手ニテワキヲサスワキ舟ニノ
ルチ見ナカラ正向 くらんとくみみま ワキチ見ル右チヒク心 向のり當て大山 正面ノ向チ高ク
見ル くらんとく山王 右ツケワキノ諸ニ正 くらんとくたり 右チヒキワキチ見ル くらんとく

ん中堂 正面ノ上高ク見上ルヲキ臨ニ正 さんゆふもとよ 右ヲウケヲキ臨ニ直ス 御僧
のツキミル 我の正直ス あのとよーくまんの 右下ヲ見マハスヲキ臨ニ正 月のよ
うくの 正面ヲ見ル心ニテ二足出ル きて又あゆくとと 右ヲウケ みゆきのこまあレカ
ト見ル さんまき 正ニ直ス あゆつのもりは 正ニ足出 跡ととあき橋カ、リノ方ヲ
トホシ見 ゆのりーあけら 面ヲ下ヘトリ上見上ツツカニ正面ノ方ヲ見マハシ うつり行や
右ノ下ヲ面ツカイ見テ ーと舟 正ニ直シ ひとまををーき ヲキヲ見ル よせよく
掉ヲ見テ右ノ手ヲカケ向チミテ返ニ掉ヲ捨テ舟ヨリナリ中入
後一聲本越開テ幕上正ウケ身ヲ直シ出舞臺へ入シテ柱ノキワニテ正へヒラキ諸出ス せんせり
をやふり 身ヲ直ス 雲水の 正行カ、リ 粟津の原 正サマハシヒラキ 時作りをう
右へ二足出 聲と左へノリ拍子四ツ跡ヒラキ

あゆふのあらゆ 二足ツツ 武士の 正ヒラキスル拍子ニツ打切ニ身ヲ直シ返シニ正へ
出 見へーは我そのーツキへ向 同トくと 正面出 ひと替て ヒラキ 我を又左
ニテサシツキノ方へ出袖返シ左チヒキシカトツキヲ見ル 實や 左へマハリ中ニテ正向床几ニカ
ル 又二百よきよ ヲキへ 其後 正曲ノ前ツキへ打切ニ正直ス 又ひきのくーとち
んまうツキへ打切ニ正 あゆつつの原のあなまき 目付柱ノ方ヲ面斗ニテ見テ ころ
とむつと 正面直シ さんゆふのり 目ヲ下ケ右チヒキ正ノ上ヲ見マハシ あやーや 面ヨリ
正面向 ふかたよ馬を 拍子ニツツミ夫ヨリ下ヲ見右チ引 ひけともあゆのらす 左右ノ手
ニテ馬チヒキ上ルヤウニ左ノヒサノ傍チ引 打てとも 右ノ手ニテ右ノヒサチ打ニカスト始ノ所
ヲ見テ 望月の 面ヲアケ 駒の頭 始ノ所ヲ見テ こと何とならぬ 面上ノトクトコ
カケル せんかゆもまき 正面ニ向 ひとなぬ 太刀ヲ見右ノ手ヲ柄ニカケ さんまて

正面向 せちかこの 橋カ、リノ方ヲ見テ づづより 正面 矢一つ 右ヲヒキ右
ノ手ヲ上テ づらりと 扇ヲカマケ面フセ づづより 立正出 馬上より ヒラキ
遠近 下ニ居 づらとある 右へマハリシテ柱ノ側ニテ小マハリツキへヒラキ打切ニクツロキ
夫ヨリ正面直シ づらとあるのうツキへ向 御とゆを ヒラキ かく其後よりツキサノ
方へ出 づたきの方へ 目付柱ノ方ヲシカト見出ヒラキ 打れとあるの角へ行 よむ
とある 角トリ 今と何ぞの 左へマハリ大小前ニテ 是ぞさうとの 小マハリ正ヒラキ
あふとふんどり 拍子ニツ 大音上木曾殿の御内々今井の四郎兼平 左へノル拍子
七ツ打込ナカラ扇ヒラキ左ニツマニ扇太刀ヲヌキ 兼平 右ヲヒキ一重身ニナリテ角へ行 わり
そのれを 角トル ほとより 左リへ行ツキサニテ橋カ、リノ方へヒラキナカラ右ノ方へ見廻
シ橋カ、リへ一重身ニ成テ行 追つめとあるのまくりより 拍子ツミナカラ太刀
右 左
太刀 太刀

ニテ切ナリ づめて サシ右へマハリ一重身ニナリ舞臺へ入 づけとあるのシテ柱ノ側ニ
テ正へヒラキ 其後 右へノル拍子六ツ 太刀を 見テサシマハシ くとる 左ノ肩へ太刀ヲ
サシトホシソリカへリ下ニ居太刀ヲヌテ ら多めとあるツキへ面斗向 兼平が 右へマハリシ
テ柱ニテ小廻ハリ正へヒラキ袖返シツキ正へ二足 ありとあり
志 賀 ツキ大臣 語間
シテ面小尉 着付小格子 白大口 水衣 扇サス 杖ツキ 柴左ノ肩ニオフニイタルとモ左ノ手
ニモナ左ノカタヨリサカリタルヒモト右ノコシヨリイタルヒモト左ノ手ノ上ニテモナヒキテ左ノ
手ニモツ也
一ヤナカシニテスル時ハ面朝倉ヨシ尤小格子原板水衣ノカタ上ル大口ニテモ肩上ル クリニ肩ヲ
ロス也

一後面 郡邸男 三日月 アツ男 着付段原板 大口 狩衣 スキ冠 黒タレ 色鉢巻 扇モツ

一一七イ橋カ、リツレ先へ出シテ跡ヨリ出サシ舞臺へイリシテ柱之キワニテ語也 今身の上

ツレシテ入替ルナリツレ舞臺ワキ正面ノ方中柱ニ立テ居ル 人間ざんぐろ ムカイ合テ語

杖ツキヤウノコト 長サ千マテノ高サニキルツキテ手先ウカサヌヤウニ少サガルカヨシ左ノア

シテ出シツユチツキ右ノアシテ出ス立テイル時ツニ出過テワルシ杖ノ方足モ杖モヒキ左ノ身出シア

シト杖トカナワニツク杖ノ下身ノ方へ入過ハワルシマツスグニツク一ツキテ向時ツエノウシロヘノ

コラヌヤウニツクベシアマリ杖足ニ心トラレハミグルシキナリツイブンツキテホヘテ老人ノ

本意チ心体ニ持ヘシ

山ツツの ツキヘニ足ツメ 身おも正 ゆゑにせんまへ ツキ向

又身ニハト正ニルサセタマヘト正出テモ

とてものより出花のゆけふ ヒツキテモ ゆゑに今まで 左へ大キクマハリシテ柱ノキ

ワへ向少ヒラキテ返シニ舞臺中へ行下ニ居

一下ニ居ル時ヲモニチオイタルモノノ下ニ居ルヤウニチモク居ヘシカルク居ルハニアイ不ヤ口傳有

ヘシ下ニ居テシハチウシロヨリチロストキ後見テツメイレハ杖ヲトモニトルナリ肩チロス願ヌキ持

クセ前 シセノ中 上ノ前 クセトメ ツキヘ向

神とも人やツキヘ 山ちのどあの ツキヘ あゆみみいつる ツキヘ立ヤウシ

とづのーや 正向ナカラ立 ゆゑの 右へ大キクマハル時正面一ハイニウケ たちゆく

れ コノロナクシテ柱キツニテヒラキ中入 祝言ノ心カンヤウ也

後橋カ、リ一ノ松ニテ 里の春めく 右チウケトホク見ル のどけいよ 身チ直シ 海を

一より行カ、リ 鏡山 高クサシマツシ せーへぬる 面直シ 志がの ヒツキ 神のち

らぬう 舞臺へ入サマニ左右ノ袖ノツユトリ入ヤテ柱ノキハニテ右チウケ正ヒラキ禮拜 五段マイ
高砂ヨリ少シツカナリトメ左右ツツカリトメル打カヘシニクツロキ袖チナチサセ正向 のとけき
のろや 少出ヒラキ ちのよ 拍子七ツ左へノリヨモヒラキ げよころろーて 出ふるく
ら 角トリ左へ大キクマハリ大小ノ前ニテ小マハリヒラキ くるるや 拍子七ツ右へノリ込正見
テ出兩袖卷ヤテ柱キワニテウケ拍子ヲソロヘテト拍子ヲミ兩袖チロヤ左ノソテ返ヤ けよよも
えろや イウケン右へウケ拍子トメ

二人靜

一ツテ 着ナカシ面ツカ女

後 腰巻 長絹 ヲミエホシ

一ツレ コシマキノ上ト上着チ着ナカレ物キノ時カラチリト長絹ヲヨモホシキル

ツレ 山もの今みく 右へウケカヘレニシツカニワキサノ方へ行モンマイノウチ中入ニテシテノ
方向立イム

シテヨヒカケ出ル綱カノリニテイウカケト正ウキミツクキト右へマハリヒラキ中入

夫ヨリツレシテ柱キワへ行カ、ルト 颯りりや ツキヘ 櫻や ウメヒナカラ中へ行下ニ居アラト

シテルツキ是チメシテ御マイト長ケン上ニダミエホシチノセ渡ス立兩手ニノセクツロキモノキ長ケ
ンニホレキル レテノコシラヘキ、合夫ヨリ立シテ柱ノキワニテ實ト颯今三吉ノ、ト颯ナカラ小鼓
ノ前へ行シテ幕上ウメヒナカラ出ル りゆなろろーき 舞臺へ入 袂のる 二人共ニヒラキ 扱

ゆよーのね 向合身やうらひ 二人マホル打切ニ正 次第くろ道せとら 拍子一左ヨ

リ出 比と春 ヒラキ 所マサマワシヒラキ のとけ 右へノリ拍子左右打切ノウチニ角

トリ まことや 左へマハリ左右ナレ向合扇チ上ル時正へ向大左右 ふとまよりの 拍子一ツ

雪のころけ 扇上ナカラ出 櫻木の宮 打込ヒラキ 正上チ見テ 我

とそやち行 扇上カラチロシナカラ正へイアヒラキマテ左右ノアレーアシツヒキナミト下チ

打込サシ扇シ身チヒカスカヘルナリト右ニテ拍子一ツ夫ヨリ角トリ左へマハリ大小ノ前へ行 月と

おぢろ 左ヒキ上見ル 猶あひひき 左右打込ヒラキ けうけう 大左右 今身の上 打込

ヒラキ 花をふんでと 扇ノエヤホ子チツマミ上ヨリチロレ右ヨリニツ拍子フミ込扇直シナカ

ラヒラキ ちぢりーさサシ角トリ 嵐カサシ左へマハリ大小ノ前 あとをのみ ハシ

カハリへヒキ見アト左右打切ニクツロキ けうけうーワキハ けうけうーさシテ斗拍

子一ツフム

トメ上 けうけうー今 左右打込ヒラキ けうけうけうを 向合シテ扇ナカラツレノキツへ行

ツレノ右チヤウケンノ袖チトリ けうけうけうせさノカハニ左ノアレーアシ出シ右ニテ拍子

一ツフミ夫ヨリ右へ一アシ出シ左ニテ拍子一ツ又左一アシ出シ右ニテ一ツ夫と二人共正出シツカニ

尤袖モハナシ

今もうらみの衣河 ヒクヤウニレ下ニ居 ちぢりーけうけう 向合 ものふのもの

ととふ サシ角へ行 山櫻 カサシマハリシテ柱ノキツニテワキチ合掌トメル

ツレモノコトニトシテノ前チトチリ橋カハリへ行ワキへ合掌 トメル

一ツレモノコトニトサシナカラシテノ前チトチリシテ柱ノヨホト先ニテカサシ左へマハリ夫ヨリス

クニ橋カハリニ行左ニトリワキへ合掌トメル 尤トメノ拍子モ二人共フムナリ

一舞ノアトノワカクセノ初ノ上ノヤウニ向合テシツヤ〜ト臨シツメト正ムキ上ル

マイノ内二段目ノチロシニテ入替リ 三段目チロシニテニルノヤウニナル

思ひのくせぞり^{△拍子}も^{△左}戀^{△右}くもな^{△右}う記事の

安達原 ヲキ山伏二人

作モノハギニテカコイ正面ニヒラクト左へ戸アケルヤウニツクルヤチナシ作モノ中へ入テヒキマハシカケ後見持テ出ル舞臺ノ大小前ニ置也ヲキノ道行濟セリフスキテヲキサへ行時ニヒキマハシチロ

ス 道行安達原ニツキニケリノカヘシニヒキマハシチロス方ヨシ 一面 近江女 深井 着附花イロノシメ 上着厚板段ソソウナルカヨシ 扇持ズ

作モノ中ニ下ニ居ルヲキサへ行テ纏出ス アラ定テノトシホリテモ

ヲキトノモンタイ向スギテ悪シ面斗向ヨシ尤ヲキト面アハセズイカテカト正サスカオモへハヨリ立テ左ノ手ニテ左ノ方ヘチシアケテ出アトチ又ヲキニ作モノミセサルヤウカクシ戸ヲ立ルナリ舞臺中へ行ヲキ見テ下ニ居正向 こと草のまゝのうやむい アメリニテ後見ヲクカセ両手ニモテ出テタイ先真中ニカセ左ノヒサ先ニチクツク右ノヒサノ方ニチク

ワクカセマワス時糸ノモツレタルチヒカヌヤウニ時々左右ニテ見ナカラマワス カゼノフリカ又後見持出タルトキ糸ノホトケヌヤウイタシ有之チワスルチキタルトキ見ズニマワシテハテウホウ也

ヨク見テモシモツレバ纏ニカマワズ直スベシコ、ロニベシ 御見セムヘト立ワクカセノキツへ何ノコトモナク行テ下ニ居臨 月もさゝ入 正面ノ左ノ方上月

チ見ル ねやのうらみも 糸ヲ見テ左ノ手ニテトリワクノツノチ右ニ手モチ右へマハス 糸の糸をとりマク 糸のうけれ ヤメイトチチヨトカセノツノニカケチク かなーさよ 右ニテシオル ぶつゆのゆくと ワキへ うらみく 〇ワキへ

又ウラミテモトシタル シチリナシニクモラシテモ 〇とけの車 ヲクカセ見テ糸マハスツガニシロくトマク 月あふらさをや ヤメ正上見ル 今また又マク 思ひあわいの ヤメ糸ハナス あらあらす キチチトレ右ニテシタル

系クリムテ井レヲノアルヤウニイヤシキハワルレイトノワキナレハシツノワサニテモワンシヤウ成
ガヨシ

さらさらやめくゆりゆり〜云ナカラ立レテハツラノ方ヘクツロキ作モノ、カトアメリコテ
作モノニキチ付ヤト諸モトリイカニト諸 此方の客僧も御らん〜ゆ多 心チワキ二人ニコ
シ中入スサマシキ心アリ

後扇修羅サス 打杖持 面 般若 カスラ 着附段力 アカキウロコカヨシコシマキ丸ツクシナ
トカヨシ 柴 志賀ノコトシ

出端ニテ出ル下掛ニテハ法被半切赤頭ニテ出ルニニハヤフユナリ當流ハカツラハンニヤコシマキ也
ツツ立タル出端イソグハワルセコ、ロチハヤクスヘシ

マク上テ正ヘツカ〜ト出テワキチタツヌルヤウニ右ヨリ左ノ方ヘ正ヘ見マワシテワキチ見ツケ夫

ヨリハシリ一ノ松ノキワエ行中柱ノイカニトヨヒカケ行トマル むねを〜ゆす 正向跡ヘ少サ

カリシバチステル の風山風 右チウケ出ヒラキ 空の〜くもる 上見テ せよ一口〜

とん ワキチ見打杖アケ あゆ〜 左ヨリアテウホウニ足ヲ高クヲトツヨクノリコミ 鉄杖の

フニコミタルツエチヒキサマニ上ケ あ〜りを〜ら〜て ワキチ見オイカケテ舞臺ヘ入 ハマ

ラキ葵上ヨリハリコウニハヌラクベシ トメワキチオイツメテ右ヘムキツクリモノ見テ作モノ、

ソバヘ行右ヘ飛歸リ左ノ手ニテ戸チオサヘ打杖アケテワキチニヲミマワリツヨク見ル うん〜

ら〜ゆんまん 右ノ手出シヒラキ打杖ニ左ノ手チカケ けんか 拍子ヲミ返モンヨリ出角ト

リ左ヘマハリサマニワキチキメテシテ柱ノキワヨリ打杖上ケワキチオイカケ出アト〜ヌラ〜トサ

カリベタリト安サ面モフセ 今ま〜は 面上ケ打杖ステ扇ヌキヒラキテ持立 心のり〜を〜

つら 出天ト上ヘムチサン地ニト其扇ヌクニ下テ角ヘ行 身を〜ゆり右ヘ左フニコミタル身ヲ

ヒキサマニ まなごころみて 扇カチニアア あいゆとぞ ソリカヘリ 正面向テラくト
サカリスクニ角へ少シ出作モノ方ムキヒラキ 黒つゆ見上ケ あぞまらなりぬ ワキノキ
ワへ行 とろろー 扇カチニアテ角トリワキサへ行身カヘテ橋掛へ行 をどあ トントニツフ
ミ飛サマニ扇左へトリ下ニ居扇ヲ頭へ上ケトリ直シトメ

櫻川

一キナカシ

一後 腰巻「水 衣肩ヲトリ アミモツ 扇サス

ツレワキ幕ノ方ムキ櫻子ノ母ノ渡ルカトウタヒ幕上 謡ナカライツルハシカ、リマンナカホトニテト
マル ぬまぐんぐんーのゆ ツレフミワマスフミトイ あらそもりのうらやや 正ムキナカ
ラフミヒラキ 先々文を ヒロケ末マテ見テ始メヨリヨミクマス あらまの方へ下りゆ キヤセ

チツフシテ あうそのこは 男ノイタル所ヲ見 ゆめらゆあーや 面ツカヒヨク見ル

これぞーゆりの フミチ又アケ見ル まごり 文ノ中ヲ見ル 已わるらん 打切ノウチニ

フミマク慢ニ入ル ひとりのあせや 此内心モチ ちのこは我たのむ ヨリソロく出

御氏子成者 正面 櫻子とめて 正ヲ合掌 さあさだあ シツカニ舞臺へ入シテ柱先

我子のゆぐん正へニアシホト出 なぐんーまよりのゆぐん 左ニテシオリ夫ヨリ右へ
トリ中入

又我子ノ右ニアシニテトマリナクマヨヒト左ヨリクツロケシホリナカラ右へトリ中入

後一聲本越開テ出 アミカツキ 橋カ、リ行カ、リ向見テ足トメズイカニアレナルト 何ぢ

りゆぐん 左ヲ少シ引 こあーや 正面ムク となちれるみりの アミチロシナカフソロ

くフタイへ入 花よやうとく雪のいろ ヒラキ 櫻花 拍子ニツ又右へニツヒキカケリ

まのなま 正面へ行カ、リ 空よ浪を立 アミニテ正上チサシマハシヒラキ せのりゆ
 左へヒキ拍子ニツ又右へ出ノリ込 ちるるも 上下ヲ見 多とたの 面ヲツセ左へマハリ太コサ
 前正ヒラキ身ヲ直シ 春げきさびをのりあよせむ 面ツセニ足クツロケ ことよ又 右ウケ
 わのれーこのあゆ 正直ス みつうらは多衣の春の形見 三足程出 花とりの
 二重ヒラキスニル拍子一ツ身ヲナチシ 行ゆゆーらて 右ウケ ゆるのながー 正面出
 ことりあゆゆゆ 左へノリ込 面とすねをさ ヒラキ うちたてや 左へマハリシテ柱ノキ
 ワへ行 どのこの花のま 正へヒク うれをさのれー 正直シ 又此河ゆ 右チウケ
 名ゆまのあーま ワキへ向ニ足ツメル かねより ゆアト正ヒラキスヘル足拍子ニツ
 あまのまことう 中ノ方へ出 かななく 右チウケナカラシツカニ ことなも雪も 正へ出
 くるま各のみ ヒラキ 櫻川 正サシマハシ下へヒラキ

かゆみうあがゆ 右へ小クマハリ正へムキ うちめー三ろの花 左へノリ込ヒカスニ
 アミノニニ左ノ手チカケ右ノアシチ少ワキへヒキ けよをもーろき河をゆ 正少スミカケ
 下ヲミテ少チモヲチツカイ返ノ 河せゆ イトキ橋カ、リへ左ノ手ニチモチユクヨツテノホ
 ウ跡へシ うちめー アミニ左ノ手チカケハチ其マ、ニアミヲモナハシカ、リへユクトキスダ
 ニ左ニモチ行シツカニ行ワキノ靛ヨクツモリ 櫻川ゆ花のちりゆゆ イウ聞テ左へトリ正向
 ナカラアミ右へトリナカレヌ先ニトフタイへ入 ちれををまみゆ 正面返シニ出 ちゆるる
 花を ヒラキ地次第ノトキクツロキアミ後見ニワタス扇ヌキ正へ向 雪をうけるまのをで
 ヒラキイロエ曲前ワキへ打切ニ正 うちめーのあらん 拍子一ツ まことちりぬれぞ出
 をゆりーる身ゆ ヒラキ うちめー 右チウケ思イヤリ 我ゆ左右 打込ヒラキ
 又ハナノミト見ルト左ニテシオルモ 打切ニテモ ちゆるるまより 正面上チ見手チサダ

あだよちりぬる見ルマ、正へ出 はあまねが左ニナトメ をちて水の 下チ
 見テ左ヲヒキ くららまみの 面チ上へマハリ くらりのやちさひ 大小前ニテ正ヒ
 ラキ となよなれ 右へマハリ大小前ニテ うらやまねをワキ正へ行カ、リ かすこを
 あまねを 正上チサシマハシヒラキ くらゆを下チ見テ 心多り 打込扇ヒラキ上扇 思ひ
 きたりー 大左右 ひたちをひの 拍子一ツ あだよあざとを 打込ヒラキ ゆさを
 くらら 正面下チサシマハシヒラキ となのーのくらみ 面チアケ右へマハリ くらとて
 正面見テ このとあまねや 高クムナサシヒラキ とななれが 正行カ、リ 風の
 下チサシ角トリカサシ 水ゆ 下チ見テ くらゆとを 面アケ左へマハリ大小ノ前ニテ ぬす
 こそを 正向 となあまね 右へノリ 水せきとめて 左チヒキ扇ニナトメルヤウニ先へオ
 シテ出 櫻川よ ヒラキ あだらさくら 正向直シカへシニテシテ柱へクツロキ扇サシアミチ

モチ正向 はあまねー 正出 くらゆのくらー 角カケテ行 くらら はそちる 角トリ足
 トメ はあまねのくら 左へマハリ大小ノ前ニテ くらゆのまよえ コマハリ正ヒラキ くらも
 と見一を 正行カ、リ みよのー サシマハシスグニアミチカケ左ノ手チアミニカケ
 みよのーのー 拍子ヲミ返シ右へノリ くらゆとくらら 正へ身チナチシ出 となをさす
 はら 下チ見テアミチオロシスクヒ下チ面ツカヒ見ル かくらまー 右へマハリ きくらもあ
 くらーや 右ウケ くらゆの 正へサシワケヒラキ となゆくらら 正面中へ行尤上チ
 見テ出ル ゆきもあみゆ 下チ見テシテ柱ノキワへ行アミニテスクヤウニシテ正へ出スクヒアゲ
 あつめもたらねとも 左ノ手ノ上へアマミヲノセテ見 くらゆまのとも アミ左ノ方
 へスタ くらことは 正面直シ くららくらら アトへサカリシホリナカラアンサ尤兩手ニテシ
 ホルロンキニ扇ヌキモツ くららひとわ くらキへ面斗向 ゆめりとみゆわかす 面ヨリ向子

方ノ中ホト見 しのれをこの子ノ面ヲ見 もとの分わらぬ子方ノ下ヲ見ル
 み多れ一子方ヲ見上ケ くららの扇ヒラキナカラ立 ば多のりあはせ 兩手ニテニ
 ツマチキナカラ子方ノキツヘ行子方ヲ左ノ手ニテカ、へ見ル うれしきなみぶ右ニテシホル
 くのくともなるくらわへり 扇チ子方ノムチニアテシツカコイメハリ右ヘトリツレテ行
 佛くはのゆんをまりよけり 子方チハシカ、リヘヤリ扇ニテセテウケ 二世あんなく
 カサシ正面ウケ左ヘマハリ正ムキヒヲキ右ヘウケトメル

朝 長 僧ワキ

一面 深井 シユズ右ニモツ 若ナカシ但シコウトウナル 唐織 厚板ニテモ 先ハ唐織
 女ツレ二人 男ツレ二人但シ太刀持 男ツレノシメスホウ 男ツレナシモ先ハ在カヨシ 次第舞
 臺内ニテ立向ミエモセテノ打切ニ入替ル諸イツハイニシテ柱ヘ行左ヘトリ正面向直ニワキヲ見
 ぶ

一ぎやあ 諸 あどの 右ヲウケナカラシツカコイデ くらわらあまのあまらうら
 ワキ をさの 正ヨリスミカケ下ヲ見少チモテチツカイ くらぶんのくもとあり 上見
 きへー チモテサケナカラ右ヘトリシテハシラノキワニテ左ヘトリ なまあをそ 正向
 又カヌナハマテ見テ居ナキアトソト正直シ後ヘサカリ立居ル

中ヘ行下居語る 是をさのこの ワキヘ向 よーとの 正 あはれさをいつのひ
 れん シホリ あうとんいれゆれゆ ワキヘ打切ニ正 くのくをきやうけ 西ノ方上
 チ見ル ニシノ方見ニクキトキハミヌカヨシ
 カクテセキヨウノカヘシニ立大ツ、ミノ先ヘ行 あどののくら右ヘウケナカラ少シ出 りの
 くらひ人を ワキヘ向大小ノ前ヘ行ミチニキノトメノヤウニカヘル ワキシハラクコレニハヘシ
 ト諸過テ太コノ方ヘムキタレカアルマカリ出テ傍僧ニミヤ仕ヘヤムヘト 中入 ツレ立入

タレカアルト狂言ニ向諾ハズ

後木コノ出端シツカニチンモリト出ルシテ柱先ニテ諸イダス
まことあふり多ッキハ
この
ゆーや 左へ ときんぶんてん 左へノリ込
のけん ヒツキ ーんおと 出スミトリ左
へイハリ あらふつとの ヲキ合掌 あれれとゆ 正ヒラキ
まぐまぢーヌエル拍子
ニツ まぐまぢ ウケ夫ヨリ正シツカニ ーんや ロラキ
月も 上チミテ 光のんの
まぐまぢや ヲキへムキテ袖カヘシテモ けあや 左へマハリ
みのりをとりせむ
まぐまぢ ヲキヒラキクリニシヤウキニカノル曲マヘッキへ
をみくー ヲキへムキ打切ナリ上
ノ前ッキへ うけまろとび ヲキへ

又ヤミくー 両手先へ出シ両手ニテ橋弁慶ノケニキトクナルモノカナノウチ合スヤウニスル
どたははくうん けうようの 正ヨリスミカケサシ
ちりまーり 見マハシ うんの

ロウの 拍子ツミカヘシ ひさのくちを 扇左ハトリ
のさせて 左ノヒサへ矢ノマチ
タルヤウニ扇チヒサへ立 馬のふとはらふ
シヤウキニコシノツクヤウニスル 馬どーま
りまはねあわれを 右ノアシニテ拍子三ツフニ尤アマヲサヤウニ間ヘフム
たらののてあ
れを 左ノヒサチ見テ のりのんよ
シヤウキヨリチリ右へ少シクツロキ ぞうのやうの
てようくらんぶりのん ヒキテ下ニ居
まらふちもんちふらふらて 願政ノヤウニハ
ラキリヲッキヘアシライ
のち 下ヲサシ右へマハリシテ柱先小マハリヲキへ合掌右へウケ拍子留

紅葉狩

シテ キナカシ ツレ同断 ツレ三人ガヨシ
舞臺ニテ立ナラヒ地次第ニ正ムキ
げよやあがらんと 向合
あまのらみー 正面
とものあ 向合
先とのゆとよ 左へトリヲキサへ行
ーざらく下ニハ
ーのあも

ちぎり ヲキへ向 いらかの タチ大小ノ方へヨリメニ行ヲキノウシロへヨリメニスヨリ上
へ見上ケ ふうもとよ ヲキノ左ノ袖ヲ左ヨリトリ右ノ手ヲカケトリトメワキノカチ、イカニモシ
タノルクワキチバカスヤウニヨク、スベシ さらすグ 入り替リワキチモテ通リシテウラ通リシ
テ柱先へ 行立のへる ヲキへ向 ところのやまー ヲキへコトハリ ちよりとくら
ー 中へ行下ニ居又所ハ山ナト中へ行下ニ居テモ

クセノ前打切ノウチ扇ヒラキサナキタニトサケチシヤクニ立テワキノキワへ行下ニ居テサケツキ
むらゝはのゑら 扇タ、ミ打切ニ立大小ノ前へカヘリ正ムキ みちと 出角へ行 こととめ
アシトメ ーやのん 左へマハツ けらるるがらとと 大小マへニテ正ヒラキ しくひ 拍
子右へノリ 山さくら サシマハシヒラキ打込上扇大左右 いらとくと 拍子一ツ くら
どのらゆの 打込ヒラキ右へマハリ ちぎるゆ 正サシ角行カサレ左へマハリ大小ノ前少大ッ

マミノ方へヨリ 立とくらへらけーきゆあ 正ムキ心持アルハ くらよあらーの見
付柱ノ方上ヲ見 ちるる 正向 神のちまり シツカニ少シ出 月のさかすまヒラキ
ゆきとめくらす クツロキ序マイ舟辨ケイノヤウナルマイ
トメワカ上カヘシニ左右大キクシナカラ出打込ヒラキ あめうち 扇ニテフタツマチキナカラ出
ヒラキナカシ ちあらーの サシ右へマハリ作モノへヒラキ 月まらほどの 扇ヲ左へヨセ
上見ル くらーと ヲキへッロく出 ゆめとーとまーのゆうちとよ ヒラキカヘシニ作
モノへ中入
後 ゆんやうきう 諸時分作モノ右ノ方へアカリ あまりてそのとけ 打杖サカニモテ両手
ニテツクヤウニスル尤両方ノヒヤハリ まるごと日月 目ヲクハリ 面をむくべき 左ノ
手ヲ作モノニカケ打杖フリアケワキチ見ル拍子ハヌラキ

働飛下り角トリワキサへ行ワキヘキメ真中少シテ柱ノ方ヘヨリメニ小マハリワキヘガツシ右ヘマハ
リ左ノアシヨリタイヘ上り作りモノニ手チカケトメ尤ワキヲ見ル打杖アゲテ居ル みちんよ
拍子三ツ臺ヨリトヒナリ とひちの 打杖ニテカラウチ飛チカイ こつてを 左ノ手ニテワ
キノエリチツカミ打杖フリ上ケ あうらん 見付柱ノ方ヘマハリワキチヒクヤウニアレチツカイ
せりまの 見付柱ノ方ヘトヒマハリ下ニ居夫立タイノキハ一行作モノニ兩手カケワキカ引
テロストアチケニナリワキトメ入ルワキアトヘツキ入
ワキノエリチツカミ右ヘマハリ目付柱ノ方へ行

天 鼓

一面 アコフ小斗 着付小格子 桂水衣 緞子腰帶 尉髪 墨繪扇 エリ淺黃
一後面 慈童 童子 着付袴 半切 唐織坪折 腰帶 黒骨爪紅扇 黒頭 黒地鉢巻シロユリ

囃子方座付後見喝鼓臺正面先真中へ出ス

一セイニ出櫓カハリ三ノ松ノ前ニテ正面向アシトメ

橋掛リ長キ時者心得可有

残るらん アシクツロケル 思ふおもひあふむのぬる レナル おもハ一 面ナチ手
ヲ下ル ののちの 面ヲ心持 此やの内ニ王伯かあらり 聞テ誰ニテハタリ
いとトワキヘ向少シ出アシトメ さくも 天とグつみ 正面開テ居心 仰畏テ ワキヘ
のや 是も 正面 あうあげ まーヤワキ のや 左よりの 正 ことひ
らみよとの 返シヨリタイヘシツカニ入 レテ柱ノ先ニトマリ 勅定めてハ程よワキヘ
老人のことも アシクツロケナカラ合掌ヲ下ニ居立 申す所をことまりなれども
手ヲサケトクト下ニ居ル聞ク さくも 面ヲ上ワキヲ見 勅應トテ 正へ

しめて立上ル　のきてあるみも久初たの　カヘシニ少シ出　あまのつと　作り
モノ見ル地次第ニ右ヘトリクツロキスグニ大小前へ行作りモノヲ見テ中へ出下ニ居

○先一通りはアマノツ、ミナトヒラキタルカヨキ也

くまーそのうみよーぐむとわや　面ヲフェル打切ニ直ス　時のつゝみのうつと作り
モノヲ見上ル　思とれぬ　左リコテシオル　實々それば　面ヲ直シ手ヲ下ル　急ひをつと
ミツキ　うのゆるたりや　正向立　うんりうらくの光りさす　少シ右ヲウケ　玉
のまらとー玉の床也　正面ノ方面ツカヒテ見ル　老の歩行也　扇コシニサシナガラシヅカ
ニ作りモノソバへ行　心もあやうき　鼓へ左ノ手ヲカケ右ニテバチチヌキ見テアシクツロケ
ナガラハチ左右ニツケモナ　此のくま　ハチチ左右トモニ鼓ニツケテヤチハウテト右ニテ一ツ打
ハヤクバチヲヒキ　うてと鼓を見て　三足斗シサリ　其聲の心耳を澄す　左ノ耳ニテキク

げよも親子の　ツマミヲ見　思一召て　面ヲナシシ　龍顔の御泪を　アトヘタラくトシ

サリナガラバチ片々ツシテ兩手ニテシホリナカラ中程ニアンザスル　ののあ老人　手ヲサ

ゲ面フセキ、ヲ居ルワキ狂言ヲヨビ出シ老人ヲ私宅ヘチクリムヘト云テ狂言ヲソソバヘ來リ下ロ

居イサオ立ツヘト云腰ニ手ヲ掛ル時立テ面ヲフセテ手モサゲズイブンツカニ歩ミ中人

一聲本越　幕ヲ上正面ヲウケ向見ヲ身ヲ直シ出ルシテ柱先ニテ正面ヘヒラキ身ヲ直シ謠　思は

ざる外の　ワキヘ　とむらひよ　右ウケ　浮と出たる　拍子ニツフミ正ヘノリヨミ　くも

くぬ御代の　左ヘノリヨミ　拍子ニツフミ　有難はらゆ　ヒラキ後身ヲ直シ　是も天のウツ

キヘ　これまぢあらとれ　二足ツメ　まてと天のウツ　正　うれーやとてとワキヘ

夕月のゆるく玉座の　正面ヲ面ツカヒ見　玉の笛のね正　わさのゆくととワキヘ

ゆまくととワキヘ　扇コシニサシナカラ中へ出作りモノ、キワへ行左ニテハチチヌキ見テ左右

ニワケヲモチ ありのりとも 右バカリニテニツ敷チウチ 打鳴き其聲の 手チサゲ跡ハ

シサリ 呂水の波も 右チフミ込正面サシ廻シヒラキ 滔々とうのりうつまり跡四ツ

拍子右ヘノリ よりひく 左右ノヨウニ左ヘマテ正ヘヒラキ ひとたけの 敷チ見テ出作モノ

ソバへ行 手向の舞樂もありうたや ^右ホヒト敷チ打アトヘマラトシサリ引タツハイシテ

左右ノ左へ行テバチチ二本共ニ右ニモチテ右ヘサシマハシマフ 初段打込バチ右ヘ捨ル左ヘ捨テモ

扇ヌキヒラキ面ニカザス 樂ノトメアトヘ小廻リ左右打込ヒラキ身チ直シヤアト開テ面白ヤト語

秋風樂あれや 三足程出右ニテトメ 松のこけ 橋カ、リノ松ヲハルカニ見ル 柳葉を

正ヘスグニ出ヒラキナガラ黒頭ヲ左ニテ持 月も涼く星もあひあふ 上ヲ見面ツカヒ

うとやく橋のもとよ 左チ引サシツメ右チウケ正ヘノリ込 紅葉をいさ 扇ツマエ打込拍

子ニツフミスクニ扇トリ直シナカラ角ヘ行足トメ 風冷ゆゆ 引立正面チ見 夜もあけて

左リヘ廻リ笛柱ニテ目付柱ノ方ヘ 人間の水も南 左ノ手チサシナカラ目付柱ノ方ヘ出 星も

北よ 北ノ方ヘサシテ右ヘマハリシテ柱ノ邊ニテ 天の海ゆらゆものあみ 右チウケナカラ

正ヘ出 呂水のらゝとの ヒラキ 月ようそむき 上チ見 水よゝのむれ 正ヘ打込拍

子ニツフミアトヘトヒ返リ下ニ居立右ノ下ヲ見 なまをうりち 両手ニテアチグヤウニニツウ

ガチ 袖を返をや 左ノ袖チ見テサシ左チヒキスグニ立角トリアントメズニ左ヘ廻リ中ニテ

夜もあけいらむ 東ノ方ヘクモノ扇ニテ見 時のゆらぎ 正向ヒラキ 心ゆく六らのち

またのこえ 右ヘノル拍子六ツフミ まごうちよりち 作りモノソバへ行 右ヨリノリ込

拍子ニツフミ扇左ヘトリスグニ左ヘキリト廻リナカラナゲ扇ノヤウニシテ敷チニツウチ うら

りのゆめ シテ柱ノ方ヘアトシサリシテ右ヘ飛返ヘ扇頭ニアケ下ニ居跡ツキ正向立ニ足ツメナリ

ニケレト拍子ニツフミトメ

返シノ又ウチヨリテトナケ扇ノヤウニテツ、ミチニツ打スクニ右へ廻リシテ柱ニテマホットコソト
扇カ、へ頭ニアテ下ニ居立テモ跡同断

観世清宣傳形付之事

弓八幡 弓袋カツキ 小尉 阿波男

一セイ上歌トメ入カハリ 是と當社よ ヲキ 又是お持するを直シ 今日御参詣と
ヲキ 捧物もて候ニツメ 是と御言葉 ヲキ 神の御代 ツレ向合 直なる ヲキ
能々奏一 ヲキツメ のや〜 ヲキ 夫之周の代 ツレ向合 名にも ヲキツメ 桑
の弓 少シ出下ニ居 弓 フロシ兩手ニモチヲキエツメス 打切 マチ扇ヌキナガラ真中ニモト
リ直ス 誓ひの ウケ 君と船 スミトリマハリシテハシラキハ ヲキヒラキカエシマンナ
カ下ニ打カケ直シ 高良の神 ヲキ 此御代を マチ 來り〜り ツメ 八幡 右へマハ

リシテ柱キハ正ヒラキ中入

ノチ一ノ松正ヒラキ 高良の神とハ ヲキ うたあや〜 正ヒラキ 神の 入ウケ正ヒ

ラキ遠拜神舞トメ左右打込クツロキ 本よりの定め 正ヒラキ 殊りの 拍子七ツノリ込ヒラキ

ゆ〜 スミトリ 此山上 上ミル右マハリ大小前小マハリクモノ扇ニ重引 ちくる 拍子

六ツとと吹左ノ手ヒロケ正出左袖マキ右小クマハリ右袖マキシテハシラキハ小マハリヒラキトメ

同祝言

出羽内ニテ 働かす〜を ヲキハ 高良の ヲキヒラキ ち〜の 右ウケ 諸へ

ゆ〜 拍子ニツ正ノリ込ニツヒラキ 袖の 兩袖ツニトリ 右エマハリ右ウケ正ヒラキ遠拜

神舞三段切前同シ又ノリ込直ニサシマハシヒラキタモ大小前小廻リナシヒラキタモ 袖巻所左斗巻跡
前ニ同シ

白 髭 シテ扇前ニサスツレ扇コシエサスツリサオカメケ出ル

シン一セイ高砂ニ同シ
さんゆははッキ 又御婆 二足ッツロケ
もー都より ニツメ
實よく正 有難やッキエ
ゆやーき ツレエ 直成御代ッキ
殊ららッキエニツ
メ
まのうらま直シ 神のウケ
ゆららさのけり 正出ヒラキ
我と心と スヨトリ
マハリレテ柱キハ 生れあふ身と
ワキヒラキ返々真中下ニサヲ直シ扇ヌキ持直シ
今の大
宮権現ッキエ 正お見たりー
ッキ 歸らんとッキ 二佛東西
兩手上ケナレニモ
今の白髭のッキ 不思議直シ
今と何とウッキエ 暫く待せイ立
ゆあふ
イ立 ゆあふ直シ 老の波ゆ立
釣のッキ 我白髭のツメ
神どとと 右ハマ
ハリ扇開 玉の アケル様ニシテ扇ヌ、ミ其マ、入ツレライシヨニテ入
ノチ 神の御婆 引廻レヲロシ 勅使と 面ハカリッキエ
樂達拜作り物ヲヲ直ニ角ニト

メ左右ヒラキ 松風は ウケウエ見 心耳と 直シ 天津 サシ右ヘニキ地ノ方カウケシテ柱
キハマク方エクモノ扇又行カ、リ左ヒキ見ルモイロエニ作物ニ入 各明神よ 左右天女龍神ヲ面
斗ニテ見ル直シ 善哉く 扇ニテニツマネキ 龍神とと水 ノアマリヨリタイヨリオリ
明行 サシイテ小シマハリ正出左袖マキ右マキレテ柱キハ小マハリトメ

天女 イロエ一段イッル笛ノ上直シ早笛ニナル
御燈の光り龍神ト一所ニ燈明タイヘノセ扇ヌキ開直 日夜のヒラキ 勤龍神二人舞角トリマハ
リ正ヒラキ段サシ右ハマハリ龍神ヘヒラキ下ニ居龍神向合 各明神 シテエ頭サゲ 歸れを正
直シ 善哉く トメテ入

龍神 打杖逆ニ持燈明持一ノ松ヒラキ 天地の 拍子打切入 神前ヒラキ御燈の天女ト一所ニメ
イエノセ打杖トリ直サシ右ハマハリシテ柱小マハリヒラキ勤常之通天女ハ一所ニマウトメ小マツリ

天女エサレトビ下ニ天女向合各龍神ヲテ頭サゲ歸レハ直シ龍神ハメチ右ヘウケ上ニかけつて正ノ
リ込飛上リ下ニ居向ヘガツシ神返シ入

養老

一セイ高砂ニ同 有難やニサカリ下ニ杖カメニモテセカツシヨモ 扱ム此立直シ さんひ
ツレ見 朝夕直シ ヨのつねツキ ぶるがら直シ ヨのねぎめツレ向合 絶
今ゆツキ ゆありンメ 御らんひん 左ヨリニ出正先ヲ見 少一此方の 右ヒラキ
扱ム直シ まのあよりツキ 養ふありツメ 老をたふ直シ まーてウケ 藥
と正出カケ 泉をツキ 實や スミトリマハリシテハセラキハ 豊ゆツキヒラキ返ヨリマ
ンナカ下ニ直シ杖を下ニチキ ちすりをツキ りぎや ツレ打切ニ直シ くらめやツキ打
切ニ杖モチモチモトリ直シ 藥の水とツキ ひめや直シ ひらけーウケ 其折々

直シ 花の 正出カケ 養とれてトマリ 此水も 下見下ニ居杖カメニモテセ右ノテカケ
のけさへト見込 實も マチ真中行ツキ向下ニ杖ステ扇持 翁ゆツキ 勅使を直シ云モ
ヨリメチ 天より ヒラキ上見ルモ 龍の 右ヘマハリシテ柱正ヒラキ入
ノチ出羽一ノ松 あら有難の ヒラキ 我と此山ウケ 神とのひ直シ 唯是 ヒラキ
方便の聲 行カ、リ 峯の嵐 サシイデ上見 谷の 下ニサシマハシ見マハシ 拍子々
内に入ウケヒラキ達拜神舞 ツカとどり哉 上ル ぶらめ 左右打込ヒラキ 水とうーニ
ツマチキイテユキカ、リ 波のふー ー サシマハシヒラキ 治まる 左ヘマハリ大小前ニテ正
直シ 臣能 正ヒラキ 幾久ーさも イウケン 君ふ ツキ くらめや 右ヘマハリ大小前
下も 正ヒラキ ぶきたの サシイデ 右ヘ小クマハリ左袖マキ右ノ袖にマキシテ柱キハ小
イハリトメ

祝言等ニ同様ノ出立有時替裝束形モ出端カサフリ拍子を添へて進ム舞進ムトメニレマリ君ハ舟カ
次第ニ進ム

和布苜屬コシニサシサオカメケ

真一セイチクリ込ノ時サオヲロシ右ニサケ 我々又ワキ 中々直シ 和光のワキ 曇
りも直シ ッメ あらう直シ のやまーワキ打切ニ直シ 塩引嶋 ウケ 早共の
ツカケ 切れ立や ヒラキ 春秋の スミトリマハリシテ柱サキ トもー心 ワキヒラキ返
シマンナカ下ニサオ下ニオキ扇ヌキサシケセ常之通 天地共の ツレイルシテ後ヲトヨリ 翁
ハ マチ右へ廻リシテハシラサキ正ヒラキ入 天女出羽内入ヒラキ ともー心 左右ヒラキ
光月 ツユトリナガラ右へマハリウケヒラキ進拜トメ左右打込ヒラキ 諸風早とゆ ヒラキ 龍
きんぐれ サシ左方へ行ハシカ、リエ向右へマク方へ雲扇ヒラキ早笛ニ笛ノ上ザス

ノチ一ノ松ヒラキ 龍神 拍子七ツ返シ入 和布苜の上ヒラキ のをなつむ スミトリ袖
カニシマハリ 夕塩を 大小先正ヒラキ 屏風を 右へマハリ小マハリ働一通リトメ飛降り下
ニ居正向 歸り玉と立 程あく正ヒラキ 之のこく拍子 浪白砂 サシナカラ正出
天の 正身上見左足引左ヒサツキ下ニウシロエカツン袖返シハシカ、リマクギハノリ込トビ下
ニ袖カツキ立トメ シセ 忍たつとワキ 龍宮の イダチワキ見 天地共 直シイ立ナリ
ニアシ其マ、正 翁と マチ 夕塩を 正サシ込フミヒラキ右へ廻リ マメヒツカズ右見廻シサ
シ右廻ルモ小マハリナレ袖カツキ 平々たり 下見廻シテモ
嵐 山 シテホウキツレ杉ホウキカメケ
一セイ常之通 さんふ ワキ それ直シ 實御あーん ワキ 人こそ直シ 此花よ
ワキツメ 實や直シ それとを ワキ 實あのもーや ツレ向合 名あを ワキツメ

花々直シ 夫婦ワキ 人よなツメ打切正 實相のウケ 今は嵐の正ヒラキ ち
のこのスミトリ 眞女のマハリ 其水上 シテ柱サキ正ヒラキ いかゞツレエ
返シニツメル打切ニウケ 春の風々ウエ見 庭前の 右大ッ見廻し正ヒラキ 雲もハッ
キリ正ノウエ見 千本の 作り物向見 吹共 左ノ方見廻シ 此日も 直シ西ノ方面ハカリニ
テ見 どのまをワキ あすもワキサエ行 山櫻 ハシカ、リ方向 立くら 下見 雲
ふ打のり ノリ込テアゲヒラキホ、キステ、サゲ 行よけり シテハシラサキ正ヒラキ中入
ツレ二人サカリハ橋カ、リ左右ヒラキ 神遊ぞ ヒラキ 色々 返入ナラビ めぐまなれ
やヒラキ 青ねが向合 小倉山 正へシツク出正見 向ひ 正へ身入 下ひ 右下サ
レマハシヒラキ 龜山も 右へニツクイテ見 萬代と 拍子七ツノリ込ヒラキ
とやせ〜 ニツマキナガラクツロキ花ステ扇ヌキ持直シ 千早振 ヒラキ連拜三段舞入替

ル 神樂の 左右返ヨリスミトル ひる返一 袖カヅキマハリ ちんのかう正ヒラキ ち
〜とや サシ右へ行ワキサ橋カ、リ方向右へウケシテ柱サキマク方へ雲扇早笛ニ笛之上ニ座ス
早笛一ノ松ヒラキ 和光利物 拍子七ツ 我本覺の入ル ちりふ シテ柱先正ヒラキ
金たぬ 正へ出扇左へトリヒラキ ちりさけ 扇左足一所ニエル 惡染の 左へマハリ扇持直
シ真中 扱又 正ヒラキ 御手々 兩袖カヅキ たちまち 拍子六ツ ばらひ 袖ヲロシ
惡魔 右見廻し見右へイテ 光明 袖カニシサシ分右マハリ真中正ヒラキ 木守勝手 拍子六ツ
ささう 正直シ おの〜 右ウケ正出ノリ込拍子ニツトビ 花のガッシ さあがら
ツレ二人立 ツレテ入ル 左袖マキ右組マキシテ柱先小廻リトメ
おの〜 とノリ込右引左袖カへシ右へ廻リトビ下ニ立出左袖返し右へ行 ちんかう權現 ツレ
立シテノ先エナラビ おの〜 ツレ作り物キハ行 花よ 花袖カニシ さあがら入

代 主 杉ホ、キカメケツレ男扇持

一セイ入替ル時ツレ直ニ座付
 又ツキ 御神拜々々ツメ 實々正 恐れツキ 實々正 御代もツキ 曇り
 あきツメ よと迄ゆ 直シ 御代とウケ 四海の正ヒラキ 國富民 左へマハリシ
 テハシヲ先ワキヒラキ返ニ真中下ニハハキステ扇ヌキ 事代主の翁ツキ ともや正 葛
 城のツキ 旅宿をメチ 葛城や 右へマハリヒラキ中入
 ノチ一ノ松ヒラキ 只今ツキ あら面白 正ヒラキ 夫は正 是ハ卯
 月ヒラキ 雪々ツネトリ入 ウケ正ヒラキ 神舞 トメクツロギ 上下萬民 サシマハレ
 ヒラキ 扱萬秋 ウケ左ヨリミアシ出 どのり天 拍子七ツノリ込ヒラキ 春立 スミトリマ
 ハリ真中 秋くる小マハリヒラキ くらくくと トコトン拍子 どのゆ 正出袖マキ左モ

マキシテ柱先小廻リトメ

東方朔 扇ヲツレ同断

一セイ常之通 千年の秋の初りあ 入不替正三足出ツレ笛ノ上 どのゆ ツキツレエ 参
 りゆへ マンナカ下ニ 此程三足の正 則西王母ツキ 大聖世尊ツキ ぼりり
 あきツキ 仙薬をツキ 東方朔とツキ 重ねて イダチ 庭上 マチ
右へマハリ正ヒラキ中入
 ノチ出羽内ニテヒラキ 彼桃實ツキ どのゆや サシシリマクカメ見サカリハ大小前ヤウキ
 系竹の マチ少シ右へヨルナラヒヒラキ樂 舞樂も 左右ヒラキ 夕陽 ニシ見 各々
 ツキヒラキ下ニ 御のとあ 面サグ 歸らん マチ二足ハカリクツロキ 帝王ツキ下ニ 宣
 旨をツギ 二人あ マチヌミトリツキサニテ袖卷シテハシラキハ小廻リトメ
 ツレサカリハ一ノ松ニテ どのりやう 入シテハシラニテトマリ返ヨリイデ 彼桃實を 下ケ

見ワキエ行ダイノ上ニノセ 糸竹の たち大小前シテトナラビ樂初段迄舞扇ヒラキアケ扇左右ノ
様ニシテ笛ノ上ヘシヤウギカ、ル 夕陽 シテトナラビ 西ノニシ見シテ通り 二人と
ナ扇ヒラキハシカ、リ行 ゆらりと 左袖返シノリ込 とももの マクギハサシツケガニシ左ヘ
カサシマハリ正ヒラキ袖カエシ拍子ナシトメ

金 札

出羽内入ヒラキ 萬代のつと ヒラキ 只重くせよ神と ヒラキ おゆく 真中へクリ正
ヒラキ 四海を 拍子七ツ あらうよ ヲキ 八百萬代 スミトリ 惡魔 マハリ 扱又
りぎ 真中小廻リヒラキ たも 正出弓出シ見 右の 右ヒキ矢出シ見直ニシテ柱先弓矢ツガヒ
の 橋カ、リエ向矢とるし直ニ弓右ニモナ柱キハ小廻リヒラキ 舞働 國多ねぞ
拍子 く スミトリ 中々 マハリ 治る代 正ヒラキ 東西 見付柱キハ行下ニ居

弓のつとー弓ノ先柱ヘツキアテツルハツシ下ニ置扇ヌキ持扇ヒラキ右ヘ廻リ直中正ヘ身入
御札と ム子サシヒラキ 影さーサシ右ヘマハリ小廻ヒラキ拍子トメ

蟻 通

橋カ、リヨリ松明フリナカラ出一ノ松ニテ諸 社頭を 松明アケ正見 すふーめの 松明ヲロ
ンキン よーく 松明フリナカラ内ヘ入トメ 此邊り ヲキ 御通りあね直シ 扱下
馬ハ ヲキ をゆゆ直 荒勿躰 ヲキ 御命と ツメ 是と直シ 此森の 松明上正
上見居 蟻通の マテ見居 神の 真中へ行 めりくも 左足引松明上正面見 實の 面斗
ヲキ 馬上にクツロギ松明傘後見ニ渡真中ヘ行下ニヲキ向諸 思ひながら ヲキ直時シテモ直キ
、居 面白く 顔直シ 我ら ヲキ 心よ直 荒面白 ヲキ 凡歌直 六の色
を ヲキ 直成道 ヲキ 心よ叶ふ ヲキ くるる直 誠と ヲキ 宮人よて ヲキ

承りゆ 立シテ柱キハニテ下ニ扇ステヘイ持兩手ニシテ柱ノ向ニ出下ニコイ合一ツ聲誦
拜ヘイフリイタ、クヘイ右ニ持ヒサエツキ誦 有難や イタ、ク又右ニ持ヒサヘツキ 思ひ
出られてヘイ持直シ マチイロエ スミトリマハリ正サレ込フヒラキ右ヘマハリ大小前ニテ正
ヒラキ誦 せのよくサシ込ヒラキ 天地 サレ右ヘ廻リシテ柱先正ヒラキ金春太コハ一拍子
観ハコイ合 今つら ワキ返シヨリ正少出 切りも ワキ 見ゆる ッメ 鳥居の シテ柱
ヘカエリ 立隠ヘイウシロエナケ其マ、入

輪 藏

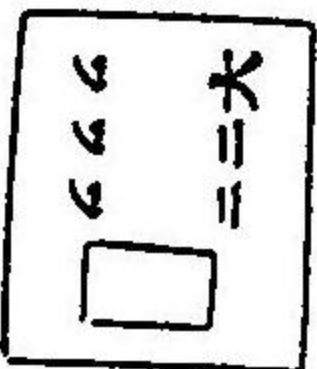
ツレ呼掛 あとつわ知く ワキ 是迄参りより ワキ さまざま ッメ
ごき置一 直シ ぎんぎん右ハウケ ざとりぞ 直シ 唯一心 正ヒラキ 所も直
北まゝ 左ヘ廻リシテ柱 輪藏と ワキヒラキ 五千餘 ワキ 佛道修行 真中ヘクリ行

下ニ直 ちう夜 ワキ打切ニ直シ 都の北 ワキ おさめ 直シ 上人の ワキ 我も姿
イダチ見込 ろならず マチ右ヘマハリシテ柱先正ヒラキ中入
シテ 四方へ開けて 引廻シヲロシ 御法の御箱 打切ニ子經箱キワノ前持行扇ヌキカエリ
ダイノ前シテノ両方にマチナラビ正 座を立て マチヌキヨリ下リ真中エイア 膝と ワキエム
カヒカセツエカタエカケ下ニ 上人禮一 頭サゲ 彼御經 經ヲ見込 善哉 マチカエリ大小
ノ前ニテ正ニ 樂 鐘拜ナシ直ニ左右 子方二人初段迄笛ノ上ザヌ尤子方拍子ナシ シテ拍子濟
テ杖ステウチハヌキ上扇ノ如ク 何れも 左右ヒラキ 月の中 サレ右ヘマハリシテ柱ヨリ橋カ
、リ見込又雲扇ニテモレヤウギ早笛ニ子方ノ前ニ 早笛一ノ松ヒラキ 火天の婆 ヒラキ
火天忽 拍子七ツ返シヨリ入 顯れ出で ヒラキ 上人の ワキサシ込下ニ 廻ら一
左ノ手イダシ 各々 マチツクリモノ右ヘ行下ニ 輪藏ノ御手 輪藏左ノ手ニテ廻ス シテ各

々立寄 マチツクリモノソハエ行子方シテニ付ワキ作りモノ、左ノ方エ行 忝多一ッキシテ子
 方二人火天 ツクリモノ正面ヲ一ヘン廻ル シテモトノザエ行子方同斷 ツレツクリモノマハ
 リ直ニシテ柱先小廻リ 働向グワツシトメ小廻リヒラキ 守護神ふれも 拍子 各御箱子
 方ワキノ前ノ箱元ノ如クダイノ上置其マ、ダキノ前ニテ正向イル 傳大士 マチ 神より
 置 ツクリモノ内ヲ高ク見 彌當社 子方ノ前へ行正へ ツレ 彌當社 正イデワキエ向 崇
 め給へッキエヒラキ 天部 橋カ、リヘヒラキハシリコミ 七寶 正出左ノ袖マキ又右ノ袖
 マキシテ柱ノ先小廻リヒラキトメ拍子

感陽宮 ツレ三人

ライツヨニテ出ル
 ダキへ上レ シウギニカ、ル ツレ
 シテシヤウキニカ、ルマチ橋カ、リナラビテ下ニ



何と燕の 大臣の 上らふ備立のけむト下見 不思議や多

すてよ立たり マチウチハヲトシ 御衣の ヲキヲサエツケラレ下ニ安サ けり判り

ワキ 泰舞陽の ツレワキエ けり花陽 ツレエ 君きけやアタリヨリ別段キク面サゲ

判りも ヲキヲカヲ斗コテ見ル 引切で 左右ノ袖ハヲヒマチ兩袖巻 おとりとダキヨリ

トビヨリ少シワキ方エ行ヲキヲキツト見ル ヲキキリツケル其マ、橋カ、リヘ行マクギハノ角下ニ

左袖カツキ 帝又 劔持舞臺入 ゆりさきよ 劔ニテ切拍子共一所ニツ拍子六ツ 失ひサ

シ右へ廻リ真中ニテ正ヒラキ 泰の御代 ヲキサ方へ行左袖巻シテ柱小廻リヒラキ拍子 マ

カンくウチハヲケイカノケンエノセカヲ見ルカタアル也

皇 帝

諸ノ内出ル一ノ松トメワキエ 是と伯父の ヲキ 是迄参りツメ 實よくヲキ 必

姿を ツメ打切ニ正 我通力を ワキ さそふ風をワキヘヒラキ 巾着 右へ廻リヒラキ
 ツレ早笛ニテ出ル 真中鏡ノ前ニテヒラキ 糸のけて ニツ拍子 笛を 少シ出扇左へトリ
 ヒラキ さー上て 扇上ル 勇を 拍子六ツ 鏡よ 扇トリ直鏡ニ向 帝ハ足を左へマハ
 リ正ヒラキ 天を サシ込イテ 地よ又 ウシロエトビ下ニ向エーソグハツシ左エ廻リ 帝よ
 サシ込扇ハチヒラキ けりりを 拍子四ツ 切給へ 左へグハツシ下ニ直ニワキ柱ヘクツロギ
 ノチ大ヘシ一ノ松トメヒラキ ころろと ヒラキ ツレ 惡鬼を マチ正出返ニシテ向衣アケ見
 彼卷柱お 又カツキ正へ直シ 馬より 右ヨリ二足チリル 利劍 右ノ手見 袂を 左袖カ
 ツキ内入真中鏡ニ向 鬼神の 右へ廻リツレエヒラキツレ衣捨シテエヒラキ 二人の 働 拍子常
 之通 おきり ツレ脇正へニツクツシ袖返シ立左ヒキマキへ正ヨリ上ルレテ柱方ヨリ橋へ行
 マツギハノ柱ヨリニツ目ノ右ノ柱へ上ルシテツレノ如クマキへ上リ下リ橋カ、リへ行ヒキヲロシテ

中入

ニアヲノケニタヲル、 利劍 フリ上ケ 今くくくニツキル拍子ニツ 庭上る 正へ左
 ノ手ニテナゲルツレ其マ、入内へ入シテ柱先ワキヘヒラキ下ニ 玉躰をワキ 橋カ、リ
 へヒラキ袖卷橋カ、リへノリ込トビ下ニ袖カツキマチトメ 貴妃地ノ前ノマキへ小ミヤワキヲ
 イソヨニテ脇正ノマキへ上ルト引廻シテロス けりり 貴妃 ワキ きのぎやう 直シ○マテ貴
 妃ワキト入 鏡ハ後見橋カ、リヨリシテ柱キハエ出し置 鏡脇正ノ臺地ノ前ノ臺ト入ル大ヘシニ
 ワキ貴妃ノ臺ノハシヘコシカケル

小鍛冶

呼掛 汝よ仰 トマリワキツレヨリ入 地よ ツメ けりり 直シ 隠と ッケ 雲の正
 イデカケヒラキ 只頼め 左へ廻リシテ柱先ワキヒラキ返シヨリ真中下ニ正 サシクセワキ 遠
 山あ 見付柱方上見面斗 尊ハ劍を イマチ扇出シサゲ見タチ あまりを 正ヒラキ 立知

り 正先へ行カ、リ 四方の 扇アゲ左右へウチヒラキ 劔の 右へマハリ大小前 吹返さ
 れて サン正へ出 天よ 身入上見 地よ 下ニ下見左ノヒサツキ とやう火と マチ左へ廻リ
 シテ柱小廻リヒラキ 失てけり 拍子 其後 スミトリ 人家 左へ廻リシテ柱 只今ワキ
 ムチザシ出ヒラキ けりて 右へ廻リシテ柱 傳ふる ワキヒラキ 心安く 真中へ行下ニ出
 よ、誰連もワキ 我を イマチ 通力の マチ返シヨリシテ柱先へ行 参り合てワキ
 けりて サシ込ヒラキ 夕雲の サシ右へ廻リ小廻リヒラキ中入
 早笛竿右ニ持内ニテヒラキ けりて 拍子七ツ打切ヨリワキエム子サシヒラキ 打ぶさ
 シ右へ廻リシテ柱先小廻リヒラキ 働童男たんの マキへ上リ 宗近ふ ワキ向下ニ面サゲ
 扱御劔 左手出シ ちやうと打 一ツ打 ちやうとちやうとと打 ウシロユ下リサカ
 リトヒ袖カツキ 天地よ 上下見 神躰時 上リ△あさやのよ 一ツ打竿下ニ置劔持ウ

シロ向下リ真中 見出ー サシ正身入 天の 劔上を下ケテ見ル表裏ヒラキ返シヨリ拍子六ツツ
 ミ返シ 四海を 袖返シサシ分右へ廻リシテ柱 此時多れや ワキ身入 則汝が ムチサシ
 イデヒラキ劔アト先ヲ持替両手ニ持 勅使 ワキツレニ持行下ニ置サカリ 又村雲 ウシロエト
 ビ下ニ 又村雲 左へトビ下ニ橋カ、リへ行ノリ込トヒ袖カツキマチトメ

西王母

一ヒイ内ニテ けりて 花ヲロシ けりて 君々たれを 出カケ返シヨリ
 正直シ けりて とも三千歳よ 直シ 春のさくらワキ 送りワキツメ 二
 千年よ 直シ 花さくウケ あつさ國土 イテヒラキ 桃花 ワキ 打切ニクツロキ 花捨
 扇持正 月の陰 正イデヒラキ 雲の上見 あまねきワキ うろろ物とスミトリ
 身と 廻リシテ柱先 隔なく ハスニイデ 誠と 左ノ袖イマシワキ向ナカラ出 分身ワ

キヒラキ 先歸りて 右へマハリシテ柱先ニテヒラキ中入
ノチサカリハシテ柱先左右ヒラキ 來りん 少出 く〜や〜 右ノ上見マハシ 立舞ふや
左右ヒラキ 色々の 返シヨリスミトリ 光り廻り真中ニトマリ 光錦の御衣を 正直シ
袖アジラウモ 劍を コシ見ル 眞多の 少シ出扇ニテ頭サシ 玉ーやう シテ柱方へ行桃ウ
ケトリ 君よ ウタヒナガラワキへ持行下ニ居テタイニノセ 花の タチクツロキハカハリ
花の 左右ヒラキ 手先 正イデヒラキ 三〜の 下ヲ見ナガラ下ニ居 たりむれ 向エ
グハツシニツ くらやめ 左へ廻リシテ柱 袖の 袖カエシサシ分スミニテ小ク廻リ 春風
よく〜 スミエノリ込袖カエシ廻ル時袖ヲロシ 雲路よ 廻リワキサヨリサシ よ〜登る
シテ柱ニテトマリ 王母の カサシ左小ク廻リ正ヒラキ拍子トメ

羽衣

呼掛 元のとくよ ヲキ たりとて返 ヲキ ちのら ヲキ 及を命 ツメ 涙の
正 天人の 二足出ヒラキ 淺き〜や 面クモラス 天の原 ウケ 行雲の 二足出上見打
切ニ直シ 聲今更 スミエ行 天路を 上見 千鳥左廻リシテ柱先 そらよ吹迄 右ノ上
見廻シサカリシオリテモ 荒嬉〜や ヲキへ少シ出ル ーとらく サカヨ正 嬉〜や ヲキ
よろこびあ 正 世のうま ヲキ くらや此衣 正 くらやたのの ヲキ 荒もづ
〜や 少シ出衣ウケトリクッロキ物キスミテ正 雨よ ヲキ 舞とのやツメ 東遊び正
此時始成るらん ヒラキ正出別ニ二足ツメテモツツロキ〜打掛ニ大小前行 世よ傳へ
扇ヒラキイウケン ○類の波の 拍子ニツ打込直ニ見廻シ 有様 拍子ニツ打切ニ二十引右へ
廻リ片左右 くせとめ 左右ナシワキエヨイ合ニ正扇、ミ右へシワシヨ 東遊 クツロキ直シ
シヨノマイ ほとりの 上扇 又い 左右ヒラキ もゆを 右一二足出袖カエシサシハケス

ミトル うららの 扇カサシ上 天の廻り あびくも 正サシ込両手右へアゲ 返すの
左袖カツキ 舞のそで 拍子正ヒラキハノマイスミトリ廻り大小前ニテスミエ向イ拍子ニツ正打
込ヒラキ段サシスミトリカザシマハリマノナカアトエ小マハリ左右ヒラキ 東遊の 左右ヒラキ
其名の スミトリ そらら又 上見 あん月 マハリ 国土成就 正ヒラキ 七寶 扇ニ
アマチキ正出ヒラキ 国土の 左エ扇持ヒラキ めどとろー 扇イダシ 去るどよ 左へ廻り
シテ柱先 浦風も ナゾ扇シナガラ正出 三保の ヒラキ右見廻シ 浮島の 扇持直右へ廻り
スミ あー高 廻りワキザ高根 シテ柱先へサシツケ ろうけり カサシ左へ廻り正ヒラキ
トメ
杜 若
ヨビカケ 色の一り トマリ 荒心多の ワキツメ 實々 内エ入 たびの心を ワキ
唐衣 正 是在原 ワキ 荒面白 正 事新敷 ワキ 國々所々 正 思ひ渡ーワキ

三河の 正 主とワキ 今爰の ワキヘツメ 在原の 正 澤邊の ッケ 契り 正エ
イデ 思ひるくヒラキ 今どくもワキ 昔と 左へ廻リシテ柱先ワキ 参りひへ
クツロキモノキ過テ正へ出ワキエ 不思議 正 是社 ワキ 又此冠 正 形見の ワキ
誠と我 ワキ 又業平と 正 草木迄 ワキ 佛事々 ワキ 普く濟度 ワキ 遙一
ツメ 遙々 正 さつと 正ヒラキ地返クツロキ正出 袖を 正ヒラキイロエ うる冠と
は イウケン △ クセトメ直シ 柳上も クツロキヨノマイ ワカ昔の宿の杜若 扇
ケル 色斗社 左右打込ヒラキ 紗うー男の スミトリ廻り大小前 花橘 拍子ニツ打込
ヒラキ 杜若花あやめ 正出ヒラキ 梢よ 上サシ廻シヒラキ 蟬の 左袖ヒログ見 左ノ
ツユヲ右へトリ見ル 袖白砂 袖カニサシハケ右へマハリ 夜も 東エクモノ扇 朝紫 直
シ正出カケ 花の 正先へ出扇左へトリ 心開けく ヒラキ扇モチ直 今どくや ワキ 草木

シテ柱方へサジツケカサシ左廻り正ヒラキトメ

誓願寺 數珠右ニ持

アシライニテ出橋カ、リトメ 心と誰の一聲の打切ニ入 疑ひの ヲキ 有難や ヲキへ
行下ニ居 うけ悦ぶや 左ニ右ソニ持見イタ、キ マタ左ニモナ真中へカエリ下ニ居 〴〵
〴〵 ウタヒスミテ札出シ見ヲキ向謠 此御札 札見 扱々 ヲキ 此御札の 札出シ見
唱ふれむ 直シ打切ニ札左ノ袂へ入ル 耳よそそとて キク 悟りをも ヲキへ打切ニ右へ向
夕陽 上見 夜の念佛 直シ 生れ行んぞ ヲキ 又ハ餘經の ヲキ 有難や
直シ 佛と上人 ヲキ 一跡よ ガツシヨ その御本尊 直シ 童ら栖ハ 右ウケ あ
の石塔 見付方見ル さのさあ ヲキ 我も昔 直シ 春あゆ ヲキ よー 直シタチシ
テ柱へ行 我どとて ヲキへヒラキ 光りと共う 正ヒラキ入ル

ノナ一セイ内入真中ノ上見謠ママハ正面上見ガツシヨ謠 佛前ヨ手ヲロシ頼見ル右モ 我も正

直シ 歌舞の ヲキ 二十五の 直シ 紫雲たる引 ヲケ 影さあぐ ヒラキ さあ
がら ヲキ 生れけるウと ガツシヨクリニ真中 マタさながら真中へ行 生れける
ウと 正へカツシヨ右ニテモ おおーあす ヲキ 聖衆來光す ヲケ 前とらや 拍子
昔在靈山 出カケスミトル 慈眼視衆生 マハリ 有難や 左右打込 世の人の アッ扇
我が 大左右 行難き 拍子 さても 打込ヒラキ 至りくミカエリ右へ廻リシ
テ柱先 十惡 ヲケ正出 空晴 クモノ扇 眞女の サシスミトリカサシ廻リ 此誓願寺
ヲキ正直シ謠 佛事 右へクツロキヲヨノマイ ヲカ各歸る 左右ヒラキ 數々 出カケ
とくうゆ 上見 音樂の キク 異香 サシスミトリカサシ 花ふる 上見 雪の 廻リ
袖と 左袖返シサシワケ右へ廻り真中行 面々ゆ正ニキカハリ 御堂よ ムネサシ上見ヒラキ

皆一同 サシ右へマハリ正ヒラキトメ マタ袖を返すや 左袖カエシサシ右へ廻リ 上人の
利益 ヲキヒラキ ほろの 正直シ 御堂の 左手イダシ上見 皆一同 サシ右へ廻リシテ
柱先真中ノ正面カツシヨ カツシヨナシニモ

雲林院

諸ナカラ出ル 人のトマリ 夫の入 散らるる花や シテ柱先ヲキ見や 迎ゆるヲキ
左様も ヲキ 春風と正 實と思ふ ヲキ 我とやさや ヲキ のろづーツメ
實枝と直シ少シイア 見ぬ人の ヲキ おいゆゆ 左へ廻リシテ柱先正直シ のろよッ
キ 扱ひ ヲキ 其花 ヲキ右ニテサスモ 其様 ヲキ のや 正 花おー 正出 顯を
れぬ ヲキ 一枝の ヲキへ出カケ 我有様 ヒラキ 夕部の 右へ廻リ正ヒラキ中入
ノチシテ柱先 本の身よりて サカリ 今も ヲキ 花の ヲキ 語りけりツメ

抑此 大小前行正 共よめくろりヲキ △のひ取テ 袴トリ少出 信濃路や 扇ヒラキ
大左右 打のりぎ 袖カツキ 糸のび 扇カオニアテ右へ廻リ △クセトメヲキ 返すクツ
ロキ扇タ、ミシヨノマイ 夜遊の 左右返ヨリ出 山間の羽袖 クモノ扇 返すやゆめ袖
カエシサシハケ右へマハリシテ柱先へ行ヲキエ向直中行 語ら共下ニ 松の 正直シマチ
松の葉の 拍子六ツ 末の スミトリ廻リ大小前 古への ヲキ 伊勢 サシ右へマハリシ
テ柱先ヒラキトメ

艸紙洗

アシライニテ橋カ、リ正 題や給をりたり 考心 面白や 直シ さあらとん 中入ノチ
王へ立衆女のり立衆女のり貫之 ヲキト出ルマチナラビ向合 地とりよ王をささぐ
ーやうさ マチ衆地ノ前座シテ女ツレヲキ正下ニ王ノ方へ向 時一もツラユキ後見サへ行文臺

正先へ持行下ニ居少シサカリ安座シ謠　のりり貫之　王へワキ　畏く候　文盛ノキワへ行ケイ
 サンノケタンザク上テ謠シマイテ元ノ如クノセル　皆々　ツラ立衆ワギ　恨めしの　王へ　既
 正　それよ　ワキ　まじく　正　もい　ワキ　思ふべし　打切ニ直シ　我身あ
 ツレ王ノ次へ座ス　あやうき心と心持　恨めし　シヲリ　此草紙　左ニテトリ両手ニモチ見
 如何様　草紙サケ顔直シ　此万葉　草紙見　餘りあ　左ニテモチツラへ　とよ　のくよ
 面サケ正へ　悲し　さよ　レオリ　あく　　マチ橋カ、リへ行ツラマチ大コ前ニテ小町まをら
 く小町トマリツラへ謠濟テ下ニサウシ下ニヲキ　の　の　小町ツラエ　りん言あれを　直
 既小　草紙持内へ入　洗いん　シテ柱先ニトマリンドリクツロギ直ニ正　梅の香や　左右
 正直シ　厂金の　ウケ上見　額川よ　直シ　舊苦の　少シ出カケ　洗い　トマリ　河原
 右ノ下見廻ス　冬の歌を　スミトリ　袂も　マハリ　戀の　真中ニテ正　涙を　シオリ

神祇の　正サシ込よと火よ　ヒラキ　の　の　柱へ行正　住吉の　ハスニ出カケトマ
 リ下ニ　岸あ　右之方見廻し扇開　さつと　両手ニテ持上ケ見ル　あつとん見　洗ひ
 二三度カケ扇タ、ミ　取上テ　両手ニテ持上ケ見ル　浮草の　ワキ　文字を　サウシ出シ
 見セル　有難や　マチシテ柱先マテ下リサウシ下ニヲキガツシヨ　悦ひて　サウシトリ直シ両手
 ニモチ王へ行下ニ居　さう　上りや　上テ見セル　能々　マチカエリサウシ左ニモチ直中へ行
 なあ　謠　此身サシ　の　社　サウシ下ニナゲ出ス　のかよ　ソノマ、正へ直ス
 實有難き　マチシテ柱へ行王へ向下ニ　奏せよと　面サケ大小方向物キツラニキシテウシロへ
 行物キ濟テ正　も　色の　拍子ニツ打込ヒラキ　霞たり　右へマハリハカ、リ五段　日蔭よ
 左右ヒラキ　四海の　ニキカ、リ　四方の　サシ廻しヒラキ　堯舜の　スミトリ　大和廻リ
 そらの　の　正へヒラキ下ニヲギ　なれど　王マチ入サシ王ノアトヘツキシテ柱方へサシ

ツケカザシ廻リ正ヒラキ拍子トメ

班 女

狂言ヨヒタシ 静よ出 シテ柱先下ニ居狂言扇トリステ入 アトニテ扇トリ少レ上ケ見ヒサヘ直シ
實や本よりのゆ 左シオリナカラ颯シオリ返シ 野上の宿を メチ正ニソク出ル 近江路ウ

ケニソク出正ニソク出 袖の露 トマリ 其まゝもえぬ シオリナカラサカリ橋カ、リ方向返

シニシオリ返シ諸濟テ入

ノチカラヲリ替ルカタヌギ一セイ一ノ松トマリ よーあき人ゆニソクケツロケ 夕暮のウ

ケ うその空少 正ヘニソクツメ 夫あー入ル 此神々 シテ柱先ニテ下ニ居ガツシヨ

戀すくあ ヲチ 人知れ余社拍子ニツ出左ヘニソクノマ込サカリ拍子ナシカケリ 荒うらめ

ーレホリ 心だも ヒラキ 叶ひあを 拍子一ツ 神々 出カケ 我等迄 トマリ 眞

如の ニソクツメ ーらで 左ヘ廻リシテ柱先正ヘニソク出 うたてやウケ 風の上見

一葉も ニソク出下見ル ぶよー 正 荒りあーや^{ツキ}ッレヘツメ うつろあやッレ

へ よーく 夫ゆ 正 何れゆ 少出サシ 床下見廻シ 獨りの 真中へ行下ニ居 又

ゆとりぬあ 面サケ 今の世迄 面サケ 去まても ヲチシテ柱先ヘモドリ正ゆ らんゆ

んよ、シテ柱ヘモツレ 其方の 正ノ上見 夕暮の 真中へ出 あゆの松 三ノ松扇ニテサシ

我々の 正ヘ直シホリサカリ 筐の扇 少シアケテ見 手ふあひて アケ扇大左右 思

く共 拍子 雪あれを ヒラキ 名を聞ゆ 見カヘリ 秋風 右ヘ廻リシテ柱先 よーや

ウケ出ヒラキ 其ゆくら 拍子六ツ 世どゆ 少シスミトリカザシ廻リ大小前左右 繪もク

ツロキ扇メ、ミ 中の舞 ツカ懐よ 扇斗アケ 持くる ニソク出扇見 取袖ゆ スミエ扇左

トリ左廻リ 重あり シテ柱先右エノセ 秋風ハ ハネ扇正出左ヒキ扇右ノ手ニノセ おさの

葉の右ノ方見廻し せよとの 扇右ニサカニモナ右へ少ク廻リ 鹿の音虫の音も 角トリ
下ノ向へ扇サシ見左へマハリ大小前 ありウチ合 形見の正へ くも 拍子六ツ 猶
うら 正エニ足出扇上裏ヲ見 おもて 扇下ケ表見 人心 サシハケ右へ廻リ正出 空言や
トマリ あらてぞ シホリナガラサカ大ノ前下ニ居ル 是ハ ツレ 形と社 正 扇と
る間 扇フトコロニ入少シ右へ向 ロンギニ出シ如前正へ 何の御爲 ワキ 野上との 面サ
ゲ 波越て歸らざりー ワキ 形との扇をなす ワキ とりの内 ツレも扇渡ス左ノ手
ニトリ立正出 物のく 開上ケテ見 此上も 三段目ノ様ニ左ニモチワキへ行下ニ居ワキ
エシテノ扇渡スワキモヒラキシテノヤウニスル 有のる扇 ワキノヲ見ル 御らんやよ マチ
カエリ真中ニテ 夫ぞと ワキへハチ扇ノ如クニシテワキへニ足出能見セル四段目ノ如クニ右ニ
持右へ廻リ正ヒラキ拍子とめ

三井寺 數珠右ニ持

囃子方座ニ付テ出ル正先ニ下ニ居ガツシヨシテ ありてや テオロン 思ふ心ぞ 面サゲ打
切ニ直シ返シニ二度面サゲ 荒不思議や 直シ 哀來りゆくの マチシテハシラマテ行
狂言ニ向合トマリ夫ヨリ真中へ行シヤウキニカハル 只今少一狂言 荒うれいと 狂言
三井寺とやらん マチス
ノチ一ノ松トマリ 志賀の サノヲロシニ足サカリ ありめの ウケ あらてら 正 荒
有難の カツシヨニ足出ル 加様お ニ足サカリ手ヲロシ ありの ウケ上下見ル ありてや
正 子行衢内へ入 乱心や 拍子ニツ左へノリ込ニツサカリカケリトメヒンキナカラ 諸 住
や 三足出 ありてを サシマハシ見マハシ あり 大小前へ行 田舎の 正ヒラキ のぞ
古さと シテ柱へ行 歸れを 正 志賀 ウケ 松風よ 三ノ松アメリサ、ニテサシ正へ

松風 拍子七ツノリ込ヒラキ 里とゆウケ 秋の水 三足出 三井寺と 大小方へ三足
正 所つらさへニツク出 月の山 ヒラキ 海 拍子一ツ 波の 大小前行 月の 正へ
ハツキリヒラキ見ル 山田 サ、出シ見廻シ 夜と 右へ小ク廻リ正二足出 月の 拍子七ツ
ノリ込直ニ左ノテサ、エカケ見廻シ 舟人も サ、左ニサカニモチ橋カ、リクツロギ狂言言葉ノ
内ニ正狂言三聲言テ 話 せらとゆ 内へ入ル 月もや シテバシラサキトマリ 鐘ヲ見二足出
ル地トリクツロキサ、ステ正鐘見ツカくト行ワキ話ニサカリ 夜ゆとやがワキ ゆらさ
ーめワキツメ 夫ハ 正 今宵のワキ 有ーよ 正 加程のワキ ゆるーカッシ
ヨナガラ真中へイア 人々よ 拍子四ツ右へノリ込手ヲロン 先初夜 スミトリ 諸行 廻リ
是生 大小前小廻リヒラキーやくつめ 拍子四ツ 右へツカくト出鐘ノ前行両手ニテ綱モチ少
シサカリ鐘見 百八 ニツ打右斗ニテ尤左モモチタルマ、ねありの 二足出 驚く 拍子七ツ

早のき サカリ左ニモチタルハシノ方ヲ右ニモチ 後夜の又一ツウチ 我の 右ノ手ニ綱モ
チタルマ、チアケ其下ヲ通り右へ廻リ綱ステ真中へ行下居 りらぬや 面サケ 音信の 面サ
ケ 波風も タチシテ柱先へ行正へ 鐘ぞ 鐘見ル正直ス 是ハ ワキ 荒珍ーや 二足出
暫 三足斗サカリ正 あふ ワキ 是ハ 子方へイデワキヲサレ真中へサカリ安座 あのちと
よ 頭斗子方 子故よ 直シ面サケル もりて餘れる シホリ 縁は シホリ返シ 廻子
も 手ヲロシ子見 何ゆへぞ マチ 此鐘の 鐘見 おとがめ ワキ 常の 右へ小ク廻
リ扇ヒツキ 親子の 両手マチキナカライデ左手出シ子方へツカくト行抱へ右ニテシホリカへ
シ 斯く 扇片手ニテヒラキ抱テシテ柱先マツレ行 成よけり 扇ニテ一ツアホギ 實有
難き カサシ左へマハリ正ヒラキ拍子トメ 又月落 ト扇ヒラキマナ左右ヒラキ りくの舟
小や サシ廻シ ねうそや サシスミトリ廻リシテ柱先ニテ 三井寺の鐘が 鐘見ル

住吉詣

一セイ 源氏 立衆 立衆 舞臺真中上ノ如ク 浦邊成成ノワキサヨリツ、キナラビ下ニ源氏
 ズイワン 源氏 立衆 立衆 舞臺真中上ノ如ク 浦邊成成ノワキサヨリツ、キナラビ下ニ源氏
 ズイワン 二人童立衆三人惟光 ゲン氏シヤウギ 聞一よウケ 日本ノ返ヨリマチ真中へ出
 下ニ 誰のハ ヲギ返ヨリザツク 神主よウキへコレミツケンシニヨギ 折節 童扇ヒ
 フキ 隨身 メチ源氏へシヤクワキへシヤク扇タ、ミシテ柱先へ正 皆是 正ヒラキクツロギハ
 カ、リ 三段舞 扇ホントウニ右ニモチサシスミトリ 三段目扇ハチ直ニヒラキ アト定リノ通り
 ワカ岸の 拍子ニツ正出ノリ込拍子ニツヒラキ 千代萬代 左右ヒラキ 有明も サシ右へ廻
 リシテ柱先 物の〜 橋カ、リ見込元ノザへ 舟出ル ッレシテツレサヲサシ ッレ真中ヨリ
 ノリへサキへ出ルシテ真中サホサシトモへノル後見サチモタセル 山嵐 シテシヤウキニカ、ル
 先ノツレ下ニ居アトノツレ其マ、 着よけり 先ノツレマチアタイ向イ一人諾 コレニワツレノ

ツレノ諸ノ内マチシテ柱先へ行ツレへ向ウ 荒はづの〜や ッレ下ニ地ニコレシツ元ノサへ下ニ
 入江の サホサス先ノツレ真中ヨリ上サホチトシ上リ二人後見サへ下居シテ上リシテ柱先 あり
 源氏シテへ向 頼めを 源氏に 岸の 少シ出下居 實猶さり 正 有 源氏に 度
 重ねむ コレ光扇開源氏へツキシテへワキサへ おのゝる タチツツロキ正へシヨノマイ ヲ
 カ廻り 左右ヒラキ 數ならで 小クスミトリ廻り正 ながの 源氏へ 入江の サシ少シ
 出右見廻シ 人目 の 真中迄出源氏へ下居 早とぎ マチ扇タ、ミナカラ入ツレ二人シテノ
 アトヨリ入 昔よ 源氏立スイシン弓矢持皆々ダツ 舟影も 橋カ、リ遠ク見 船や 左足ヒ
 キ面サケ

富士太鼓

橋カ、リ向合次第 世よ隠り 向合 跡をれや ウシロノ方見打切ニ直シ 笠をぬき 笠ス

立
キ左ニ持 下ニ合掌 うつとも逢や 二三足出 着ふけり 定リノ通り跡二三足歩 向合正ッ

キセリフ 入替一ノ松キハニテシカクアン内シカクスミテコウケンサエ笠ステレテ柱ノ先子方
シテ柱ノ向へ出ル 是ふゆツキ せづらゝあがら 二足サカリ うたれたると 二足出
されむ社直シ 煙ととも ウエ見ナカラツカト二三足出 今ハ サカリ あとよ残る

子方へ 今もむ シホリ 心と多くさめ少シ出下ニ居兩手ニテチヨウケンウケトリ正直シ諸
誠よ チヨウケン見 のたどーや直シ 忘り形とを チヨウケン又子方見ヲモ見打切ニ直
多けくを アンチチヨウケンニテシホル諸濟ヲチヨウケン下ニ置物キ濟ヲ太コ見諸 のぎ ヲチ向
へツカくト出ル子方トメ諸 思ひの餘りよ トサカリ子方モサカリ 浅あーや シオル

うたての 子方へ けよ理り直シ 童ソ子へ 男の直シ 恨との 子へ うのあ
んとて 子へツメ よするや 扇サマナカラ小方ノウシロヨリ右ノテチトリ作物前ツレユキハ

チヌキ渡ス 又うのあんとて 扇サシテモ 秋の風より シテ柱先へカエリ扇持此内子太

コ打 うてや 子方へ向拍子ニツ せめ鼓 向へ出右へニツ拍子サカリシホリ 又荒扱 サカ

リクモラシテモ 猶も 正ヒラキ拍子ニツニテモ けーたる 出カケ 引替々 トマリ

とくろ 拍子七ツ打込直ニ 富士が 橋カ、リ方向見 よーあ の 扇サシ子方ノ方へ行ハチ

トリ もとのーと 左ニテ子方ツキノケ太コエ向イカツコサカリ達拜左右左へ行ハチ二本共右へ

持サシ右へ行直ス跡同断 持たる ハチ見 太鼓の 正ヒラキ 天よ 上見 又あう火の

ユキカ、リ 天よ ムチサシヒラキニテモ 誠の ウケ 富士おあーよ 上ヨリ正出打込

たんす サシ右へ廻リマハリカケハチ兩手ニ持 四方へ 兩手ハチ合 はのど 兩手ハケ見廻

ちるのと 拍子四ツ 花衣 左ノ袖カへシ左へノケ見 引ても サシ右へ廻リ真中へ行

太鼓の 作りモノキハエ行 名のーた トマリサカリハチチトシホリ打切ニ半クツロキ扇ハ

ラキ正 此君の ヲキ 千秋樂 ヒラキ 又打めよ ヲキへ二足ツメテモ 扱又 出カケ
 安おんよ スミトリ 泰平樂 廻リ 日也 西へ雲扇 ちねき 両手ニテマキイデ う
 れーや 右へ廻り大小前ヨリツクリモノへ行 打たれ 扇ニテツクリモノチウチ 出今らん
 サカリナカラ 我うい ヲウケン 涙をシホリ下居 又打たれ ウチ 打れて 四五
 足サカリ 出すらん 左ノ手ツクリモノエサシ 我うい ヲウケンシナカラシホリ下ニ居ニモ
 是迄 カエシニ後見カサチシテノ右ノ方へ出シ置 是迄多るや ヲキ ねる人の 少シ右ノ
 方兩手ニテ長ケンヌギ右ノ手ニテ鳥申ヒモトキ兩手ニテ下シ少シ左ノ方ニチキ 我 心 カホハ
 ツキリト直シ 乱笠 笠兩手ニテトリ左ニモチ橋カ、リへ行 忘ーと トマリ 又立歸り一
 ノ松キハニユキ太コ見 見置ぐぐ カサ兩手ニテアゲカツコ見 跡見置 カサチロシ右ニモチ
 左モカケ少シサカリニツクツメ拍子トメ 又橋カ、リへ不行 立歸り ツクリモノ見 見置ぐ

ぞ カサアゲ見 跡見置 カサチロシ左ニモチ右リエ

吉野天人

ヲヒカケ 山野あ ヲキ けろく入 友多れや ヲキツメ 見ゆぬ直シ 知る
 知らぬ ヲウケ 相正へ ろろり出カケ 袖あけて ヒラキ 立より ヲキ
 けよや 左へ廻リヌスミトリチモシテ柱 多れく ヲキヒラキ のぎく 正 げよ御
 あまん ヲキ 待玉くツメ 夕と正 月の 正出 乙女の ヲキ ろあらや
 ヲキへ出ヒラキ けりやう 右へ廻リシテ柱先正ヒラキ入 ノチ出羽ノトキライシヨナシサカリ
 ハノトキライシヨアリ ノチ橋カ、リ立ナラビツレシテツレツレ ちもこと 入立
 ナラビ 天津乙女 ヒラキ 花よ 右へ廻リハカ、リ三段舞 乙女い 左右 ちでー 出ヒ
 ラキ 春の花の サシ正出ツクリモノへ袖カヘシ 飛あがり 拍子 飛下る 左ヒキ下ニ居

左ヒヤツキ げよも 立左へ廻リ真中 雲の 脇正面へ雲ノ扇ヒラキ 乙女の姿 正直ニ
霞の ササスミトリ廻リツキザカ 又さく 柱へサシツケ 〳 〵 カサシ廻リ正ヒラキト
メ拍子橋カ、リツレ三人ンテ舞臺ノソレト入 又霞の ササ右ノ方見廻シ 吉のく スミトリ
廻リテモ

半 部

橋カ、リトマリ正 おろろの ワキ 去るがら正 理り也 ツキ 花あてゆ ツメ
げよく 正 名のらすと ツキ 扱と此世 直ニ 名も有るがら ツキ 誠あら
ツメ 五條 直ニ打切ヨリ内へ入 立花の 柱先へ出 隠れ ヒラキ入
ノチツクリモノシテ柱ヨリ少先向出ス 一セイツクリモノ前へ立 △跡とあ ツキ さら
ると 直ニ 草の半部 右ノ手持ヲカケ おし上て 右ノ手上ル たちらつる御姿ツ
ン

リモノヨリイテ正少出トマリ 見るも 真中へ行 △折て社 クツロキ 序ノ舞 ツカた
をがねよ フケ ちのく 左右ヒラカス 花の夕顔 拍子 〳 アトエ打込ヒラキ
らるの ツキ ちのよと ツキヒラキ 夕のけの 正イテ 鳥のね トマリ 鐘のキ
ニアテ出 つけ渡る ヒカキヘケモノ扇ヒカシ見トモ あさあ ツキ あけぬ クリテ
ツキサへ 夕顔の ツクリモノ見 あけぬ先よと スク見付柱方へ行夫と真直ニツクリモノ
方へ 内よ ツクリモノニ入 成あ ツクリモノガユウケンイテトメテ入

櫻 川

男ヨヒ出スマクキハマテ出トマリ 文うけとり 正へ直ニ文開見諸手チロシ なる 男ノ方へ
又文見 是を 諸 名残をく 〳ミテコレ打切ニフミマキソトコロニ入 ちりてとと一
根マテ行トマリ 櫻子とめて ガツロヨ ちりてとと一 内へ入ル ちづねんと 柱先

ニテトマリ ながく〜 シホリナガラカヘリ其マ、入但シシホリカヘシニ入モ

ノチノ松 花のちりゆの ニアレンツメ 何ちり方よ ニアサザカリ 花ちれる 内へ入

花よや ニキナリニ拍子ニツ 櫻花右ノ方ノリ込サカリ拍子一ツカゲリ ちりゆー 正出

水多き空 上チサシ廻マホラキ 思ひゆ 身カへ拍子ニツ 散と 右へノリ込サガリサシ語

のらよせん ニアササカリ 爰よ又ウケ 別れー 直シ 篋 残 ニアシツメ 花

鳥の 二重ヒキ 親と子の 拍子 行衛ゆウケ ひきの 正出 縦達共 七ツ拍子ノリ

込ヒラキ うちとくや 左へ廻リシテ柱キハニトマリ 咲ゆ 左アシ出シ 我子の 又ヒク

是ととるうウキ 夫ハ 直シ さんゆウキ 荒痛はー 直シ さんゆ我古卿 ウキ

神の御名ゆ 直シ 又此川 ウケ見 名ゆなづりーウキ 思ゆなりツメ 謂

を直シ 彼貫之のウキ 末見ゆゆウキ 有と聞て ウキヘツメ 常より 正ヒラ

キスエ拍子ニツ 波の花 大小前行 古き 正ヒラキ 櫻川 サシ右大ク見廻シ 霞うかが

多 右へ廻リ真中へトマリアマカタニカケ左手ソへ うのう〜 七ツ拍子ノリ込直ニ見廻シナ

ガラ少シ出見廻ストキ左手カケ 左ニアミサカニ持也アミウシロカタ カエニニ手サロシハシ

カ、リへ行クツロキ 荒笑止ゆ コノアタリ出掛ケアミホントウニモチ 一ノ松トマリ 流

れゆ先ゆ 内エ入ル △流る〜 正ヒラキジトリニクツロキアミステ扇モチ正 雪を ヒラ

キイロエ大小前ニテトメ

△あ〜ら櫻の カエンカクツロキ扇サシアミ持 散ゆス スミトリ廻リ 多ゆ青柳 真中小

廻リヒラキ 雲と見〜 行カ、リサシ廻シヒラキ アミカタゲ左チカケ 三吉野 拍子フミ

返シ 瀧津波 正ノハシマテ出カケ舞臺ノ外へアミ下シヒラキ ち〜らゆー 見廻ス 又と

右へ廻リ 何れゆ サシハケヒラキウキザへ行右ノ上ヨリシテ柱キハ見下シ シテ柱キハへ行ア

タイノ外チアミニテスクヒ正出ヒラキシナニ左ノ手チカケ見 是も木との 花アケル心アミスチ
我尋る 正ニアシツメサガリ 戀一ヨシテ柱マサガリアンザ兩手ニテシホル 如何よや
ロンキニ扇ヌキ持 何の御爲もワキ 何れ我子 子方へ よくく 見込 櫻子の
チ扇片手ニテヒラキ兩手ニテマチキナカラキハへ行 鶯の 子方ノ肩へ左ノ手カケ 嬉一ヨシ
ホリカヘシ 何くく 柱迄子ツレ行 佛果の 放シ扇ニテ子方チ一ツマチキ 二世安
樂 カザレ左へ小ク廻リヒラキトメ

東岸居士

一セイ内ニテトメ 嵐のあ サガリ 事新き ワキ 柳の 直シ 今又加様 ワキ 扱々
直シ 柳のの ワキ 本より 直シ 何のののら ワキ 進めす 正 こと
も渡々 ワキ 西 ツメ 東岸 直シ出カケトマリ 髪を サレ込ヒラキ 南枝 左へ廻リレ

テ柱キハ 進めぬ ワキヒラキ 又のののの 正直シ 何のや ワキ 御法の 直シ
皆彼岸 ヒラキクツロキ正 遊び ヒラキ右廻リハカ、リ五段中ノ舞 トメ打込ヒラキ扇タ、ミ
ナガラ諸語ナカラ大小前行正直シ 眞女の月 ワキ △クセトメワキ直シ 御見せゆん
ツロキ下ニ居カツコツケマチ右ニモチ正出諸 男女の ワキ 袖を 正へ直シ 何のら入を
ちヒラキ拍子ニツ 何の千鳥 右へニアシ出拍子ニツサカリカツコ舞直ニスミエトメワカ
物とこよ アゲ 何のら 左右ヒラキ正直シ 行を 返シヨリ正出 隔々トマリ
向ひり ツメ向見 此方り 橋カ、リ見 西岸 右ノ手出シ見 何の波り 右へ廻リ大小前
ニテハスニヒラキ 何のら マチ兩手合 打多々々 カッコ打 何のら 拍子 何れゆハ
スニ出サシハケ右へ廻リシテ柱先 聞ひ ワキ身入 族人よ マチザレ出ヒラキ 何のら ヒラ
キ両手合 何の太鼓の 拍子七ツノリ込ヒラキ 何のら の ワキ 何と 直シ返シヨリ正出

氷と隔のらん ム子サレ込拍子 隔のらんぞんあう サシ右へ廻リヒラキトメ 又入う
よヒラキバチ合テモ拍子 △此方と 橋カ、リ見直ニヒラキ両手合テモ

加 茂

夏多き水入カハリ正 是あたりワキ けあよく直シ 扱もむろワキ 又是成正
渴信ゆさセ ワキ げよ有難き正 惣てワキ 昔此正 分雷の神 ニアツツメ
其母御子の正 身あ辨へッレ向合 八百萬代 ワキ 心也 ツメ 能々直シ
けあよくワキ 心うらめて正へ 下の白川 ワキ 又其内 ツメ 石川屋 正月
もウケ すむゆ 出カケ 心ゆて ヒラキ 何うたワキ 年のゆの スミトリ廻リシ
テ柱 絶せぬを正ヒラキ けあよくッレエ 音ある正ヒラキ 水もウケ 嵐の
正へ二足出ヒラキ 清龍川 スミトリ 朝日 廻リ真中ニテ けあよくッレエ 桶の フミヒラキ

右へ廻リ真中へ けあよく 西見 うゆろめ 正ツクリモノ前行下居 神の恵 桶下ニチキ
ガツシヨ返シニサカリ真中ニザスコウケン桶トル 誰とハ ワキ 顯れ出テ イマチ見込
とろのゆいや マチシテ柱へ行 浅間おや ウケニアシ出 よー名斗は 左袖出シワキへ出
神とろのゆいヒラキ 夕てよ 右へ廻リヒラキ入
ノチ早笛一ノ松ヒラキ 分雷の神也 ヒラキ あるひら 拍子七ツ 成て 内へ入 飛行
ー スミトリ袖カヘシ 又は 廻リシテ柱小廻リヒラキ 舞働風 ヒラキ袖カツキ上見 く
サシスミトリ廻リ 光り 大左右 りゆよめ 正ノリ込飛上り下居カツキ 鳴雷の上見
雨と マチ左ヒキハニテニツ打ナガラ正出ヒラキ両手合 けあよく音ハ 拍子 けあよく。
ふろく。とあみ。 拍子角トリ廻リシテ柱 威光 ツレエム子サシ出ヒラキ 御親の神とサ
シ見付方へトビ下居袖カツギ頭トリテモ 飛去くッレ入ヲ見 猶立 橋カ、リ方へカツシ

雲さりりッキアへ行袖マキ橋カ、リヘヒラキ橋カ、リへ行ノリ込ヘキウシロヘナゲト袖カツギ
トメ

鉢 木

一ノ松留リ 袂も朽々内へ入 雪の日やなッレエ しのぐよ渡り 真中へ行ッキ
是より十八丁 正へ 日の暮ゆッキ よあなまッキノ行チ見正へ 左様よッレへ
とめやぐーッキサ方へ行橋カ、リ向 多ふくト諾 袖成夢ぞ 左ノ袖アシライ 古
歌の 正へハスニ向 加様よッキへ向 佐野の 橋カ、リへ行 多ふくのッキ袖トリ
見苦敷 サカリ 泊り ヲギスル げふ是 レテッキ入カハリ内へ入 ゆめより霜や 真中
下居 しのよ申ゆッレへ しのよゆゆッキ 多ふきこーッレへ 惣へッキ
げよやろ 正 多ふ御らんッキ 住うのね 正へ 何思 面サゲ 是を火よ焼てッ

キ しのよ 正 皆人よッキ あの雪持たる イメチツクリモノ見込 是を火よ
焼ッキ しのよ 是の 正 しのよ 唯のなつら 正へ 是をッキへ ぶ
ろゆ 正 我の身を 扇下ニチキ右ノ肩ヌギ立 捨人の ックリモノへ行 雪うち 扇ヒラ
キニツ上ヨリハラヒヨロニツハラヒ しのよせん 少サカリ 先冬木 扇タ、ミナカラシ
テ柱先へ立カへリ 梅を切や 梅見 おりのけ ッケ おーミ ックリモノキハへ行下居扇
サカニモチ 今更 梅左ニモチキリ右ノ下ニチキ扇直ス 櫻を 櫻見 家櫻 左手ニ櫻持扇ニテ
ニツ打切梅ト一所ニチキ 扱松は マツ見 松と本来 扇ニテ松サシ 薪と 梅櫻左ニモチワ
キ前へ持行下居ッキ前梅櫻ヤリ遣ニヲキ 多土の 扇片手ニテヒラキヨコニアラギ 能よりて
手下シッキへ 近比 扇タ、ミナカラタナ真中へ下ニ 御出よより 諾ナガラ肩ヲキル正 しの
や某ッキ 何と 正 此上もッキ 夫は何とて 正 其事よゆッキ 運のッキ

御らんゆへ正見 又あれイダチシテ柱ノ方見 是も只今正 やせりとも腰ヒ
 キ上 馬ゆ扇アゲ 敵大勢 マチ大小前へユキナガフ扇ヒラキ正 一番ゆ分ル正出扇左へ
 トリ向へツキ 寄合 ツカニ手チカケ 打合テ 左ニテ拍子ニツ 此ゆ扇トリ直シ右へ廻
 リシテ柱正へ なんぢ 両手打合下居アツテ打切ニ扇タ、ミ本トウニザス 名残おしあツキ
 御出の マチ 又御入 ツキト入カハリツキへ 御沙汰 シギスル 出舟の 少出 共よ
 名残ゆ 正へハスニ向ニアシサカリ面サゲ
 ノチ一ノ松トマリ謡 東八ヶ國の ウケ 打のれく 正へ 心斗と 二出 勇兼と
 ニサカリ馬見 荒道おをゆ 長刀左ニモチムチヌキ 急げ共 拍子七ツ やせ馬あれゆ
 馬見 打さゆ ムチウチニツ三ツ打 あふれ共 拍子ニツ左右チ打 足よと内入 のり
 ちゆら フタイへ入時ムチウシロエナゲ長刀右ニモチシテ柱先ニテ長刀カタニツケ前へカハリ居

狂言 アシライ頭斗 扱と某が 向長刀ツキ直シ けよく 謡 大床さうてウケ
 今度の 正返レヨ出 さとゆの ウケ見廻シ 扱御前 正見 やうくよ 右へ廻
 リシテ柱ニテワキへ向 参りて 真中迄出下居シギ 修行者よ ツキチ見マテ柱迄タラくト
 サカリ長刀右ノ方ニチキシギスル 常世と 狀トリニ行下居イダマキ打切少シサカリ 二度頂
 戴 イダマキ狀左ニ持 是見玉ゆ 正出し見セ ととめ 右ノ方向見廻シ さを浦山
 右ノ手出ス打切ニシテ柱キハカヘリ下ニ狀カイチウ入長刀持マチ正 其中よく 返マニ拍子六
 ツ見付柱方迄出 此馬よ 橋カ、リ方向馬見 打のりて ノリシテ柱へ行キリリトマハリ正ヒ
 ラキとめ

盛久

幕ギハヨリ諸出ス扱正真中へ行下居グハツシヨ謡 ありてや手下ニ 荒御名残 クモラス心

のらぬ又立 瀬田の 右へ廻り橋カ、リへ行 廻れぬ 立カヘリ一ノ松トマリ 佐夜の
 中山 ウケ ぬのの入海 見廻シナカラ直シ 富士の根 上見 箱根山 正見 猶明行
 内へ入 鎌倉の着よけり 真中ニテトマリ返シヨリ笛ノ上シヤウギニカ、ル 習ひのやク
 モラス きられぬやと ハツキリ 土屋殿とひや シヤウキオチリ下居ワキ向テ 我此
 年月 直シ 今日末 ワキ 土屋も是よて 直シフトコロヨリ經出シヒラキ手下テ 諺 あら
 命や 諺テ夫ヨリ頭上見テ ことごとく ト 諺 げあよく 手下ニ半身ワキ けし頼もーや
 ワキ 種々謹意 直シ經ワキニモ見スルヤウニ 此文の 經サゲ 有難ーと 經イダマク
 命と イタチワキへ直シクモラス打切經マキ左ニ持 よめくらと 面サゲル 荒有難
 や 面サゲル 左ふと 經出シ見 右ふと 右出シ見ル 足よはくと 立 立出る 右ヨ
 リニアシ出ル次第に左ヨリ大ク廻リシテ柱先ニテ正盛久やがて正ツカくと出安座經ヒラキ見

盛久の 經サゲ りんぎやう 經見 經文 經見腰ヒキ上 劔段々 腰左へヒキ經左へヨセ
 太刀ヲ見ル 末世よての 直シ 荒有難の 經イメ、キ打切ニ經マク 急御前よ ワキへ
 面サゲワギハカへ めーあ マチクツロギモノキ ○シテ柱先へツカくと出ルワキ諺出ス下居
 ヲギ 何とワツキ 何とヨリケ ヲギクリ諺ナガラ真中へ行下居 頼朝是を ヲギ正へ
 感涙を シホリナガラ立シテ柱送行 けりよトマリ又真中へ行下居ヲギ 御さつらゝ ヲギ
 へ扇開ウケル 花を 直シ扇タ、ミ けりよ盛久 ワキヘヲキ 盛久 正直ヲキ上ル 唐
 土ケ ツネトリ達拜男舞 △酒多むるぬハ 左右打込ヒラキ 鶴岡の エキカ、リ 松の
 葉の サシ廻シヒラキ二重ビギ 長居と正 く 六ツ拍子 罷り 正直 けり出
 けり 右へ廻リシテ柱先ヒラキ袖カエシ拍子トメ 長居とく 下ニ居ヲギヒサ立カエシテ柱
 へ行カニ形也

通盛

一セイツレ中へノルシテトモへノルサヲコウケンヨリモタスル 月の出壺 正ノ上見ル
ウケ見廻シ 淡路の 向見ル 浮世の 直シ面サゲ 夢の現ウキク 楫音を サヲ見
ウラウラセ サヲノ先ヲ見ル 押テ サヲサシ 聴聞 キクツレ下居 泊り定め 手ヲロシワ
キへ 仰ム サヲサシ 見れタツキ見ル 有難や 手ヲロシ 鳴戸の サヲスタグハツシ
ヨ下居 (ひよ有難 手ヲロシコシノ扇ヌキヒラキ立 浦風の 火ヲ見 吹立テ 下ヨリニツ
マチクヤウニアラギ 聴聞 キ、ナガラ下ニ居打切ニ扇ヌ、ミ 芦火ハ清クツキ なる
御經 見込右ノヲ出シテモ左ニテモツキ諸ニ正 仰のどとくツキ や ツレ見 諸共
ムツレへ向 此海も 扇サシ 主従 シホリナガラツレモタツ 去めても ツレウケ向見
浮ぶらん 打切ニツレ正レ 涙も シホリツレ少サガリシホリ 乳母 右へヒナリツレ見込

思召 少出 御衣の ツレノ右ノ袖見右ノヲニテ袖持左カケ あり切 サガリナガラウケ
入と見て 二三足出向へ下見込 老人も 頭直シ左ヨリ下り真中正面へ 底の ヲツカリト下
居返レヨリ入ル●ツレ後見サヘクツロキ下ニ
ノチ出羽 シテツキヘサレ込クハシヨ謠出スマク上ルツレ立見合ヨキコロ大小前 入佛道の テ
ヲロシナガラ正へヒラキ 通盛夫婦 スミトリ廻リシテ柱 荒有難の 小廻リツキヘグハシヨ
ツレモツキへ向 不思議 正 名計も ツレツキ 小宰相の ツキノ上へ行サス 是ハ生
田森の ツキ 是迄顯れ ツキヒラキ 抑此 大小前行シヤウギカ、ル 志のんでヲチニ
三足出ツレへ向イ下居打切正 痛ハハツレニ たび玉へ 打切ニ扇ヒラキツレ前行下居
うたふね 扇ヌ、ヨ正直シ○又アンザニテモ 又月の光リツレ向合 舍弟の 正 よそ
ハハハイダチシテ柱方見 荒恥のハハ 面サゲ正 他人よりツレ 暇ヤケ 面サゲ

らむと云々 マチシテ柱方向 行ゆシテ柱へ行 うろサキへ行レヌコ、正直シ 髪
拍子カケリ又シテ柱方向シマ、拍子ツレ直シカケリモ 早うたれぬとツキ 扱りのまの正
待所よ 二路程出 オハあれを 見付方ハサシ込ヒラキ 近江の 拍子フミ返レ 木村
の 正ヒラキ ちちと上て 扇上ル 通盛 左へ廻リ扇左へトリツキノ方へツキ出レ ぬ
まうけ 太刀スキ 甲の ツキ方へ出 ちつとを 左アヒヒキ ちやう打 太刀拍子一ッ
のハナサシ右へ出 ちちちぐん クヨソリカニリ太刀ステ 苦やうくら アンザ あら
れとを イエナツキへ袖カヘシ とくいのの スミトリ廻リツキザヨリサシテ柱小廻リ正へ
グハツシヨトメ

八 島

一七イ橋カ、リトマリ正 曉 向合 月の出壇直シ 里近一 向合ツリサホチロシ右ニサゲ

内入レテ柱先留 月の行衛 向合 休まうする サホラロン入カハリ真中シヤウギツレコウケ
ンサへ行サヲ渡シ扇スキ持ツテノ右ノ方ニサス 案内 ツレタチ右方へ少出ツキ 主よ其由
まうするあては ト諾シテへ向下ニ諾 叶ふまトも由ゆゆ マチツキへ 心得ゆゆ
シテエ向下ニ シテ 易さ程の御事 ツレエ 何たひ人とツレエ さらむ御宿とツキ
本来 直シ 曇りゆ ツレエ あまの ヌチ 八島よ 少出ツキ向下居打切ニ正へ直シ
旅人の ツキ 我等ゆ 見込 やがて レホリ返ニ正ツキノ諾手チロシ 安き間の事 ツキ
マチ扇ヌキ床木ニカール 天晴 心 今の様よ ツキ 其時 直シ ちちのけの 雨ヲヨセ
前出シ 引ちぎつて 左右チギル心 左右ハ サシハケ見 是を 面正 御馬を マチ
みまひら 左へクリ見付柱向 矢先ゆ ニキカ、リ 馬より ムチサシ直ニ どうと 拍子
ヒラキ 船よと 正直シ 船と沖へ 正少出向見 陸と 右へ廻リシテ柱へ行 磯の波 ッ

ケ見廻シテガラ出 音さひ ヲキ向真中へ行下ニ打切正 名のり ヲキ けよや直シ 修
羅の時 ヲキ 其時の ヲキ見込 などひ 正ヲチテ柱へカエリ 義經の ヲキエ 夢
ノ一 ヲキヒラキ返シ入

ノチ一セイ内ニテトメ くるーめて 右ニ足出 修羅の 拍子ニツ直へノリ込ヒラキ 我

義經ケ ヲキ 生死の 二足ツメ 愚のやな 正へ 春の ヲキ見廻シ 舟ヒ ヲキ

ナレ ツメ 武士の 正ヒラキ拍子ニツ 本の出カケ 又さよふ トマリ 弓をんの 拍子

七ツノリ込ヒラキ 生死の サシスミヨリ左ノテ出シヲキへ行袖カエシ左ヒキ向 とあ角

右へ廻リシテ柱ニテ小廻リ 力あり ヲキヒラキクリニ真中ニヤウギ のやとよ ヲキ △

勇者ヒ ヲキ 傳へトと 正出ヒラキ おーむは 拍子七ツノリ込ヒラキ 一命多れぞ

スミトリ廻リシテ柱先小廻リヲキヒラキ 又修羅の ヲキ 矢さけ火の 拍子ニツ正ノリ込ニ

ツヒラキ拍子カケリトメ見付柱下へヒラキ△

巴

アイシテ柱先トマリ けよ神威の ンホリニアシサカリ ふーぎ ンホリ返シ 御信

ハ ヲキ さんひ 正 おろのつと ヲキ 一首の 正 加様ふ ヲキ 神の 正 國土

安全の ヲキ おろのつと ツメ ふーぎ 正 古への 真中行下居正 有難がりける

クモラス 旅人も ヲキ 有難き クモラス 去程の ヲキメチ 山の端より上見 入相

の 少シ出カケ 浦のの 見廻シ 我の 左袖出レヲキ向 いらやを 出カケヒラキ 夕暮

の 右へ廻リシテ柱先正ヒラキ

ノチ長刀カツギ内へ入ヒラキ長刀ツキ 今める 直シ 罪も 拍子七ツ 今も 長刀カイ込

スミトリ廻リシテ柱先ヲキヒラキ長刀ツキヲキ諸ニ正 ○長刀カイ込出ル時 直道の ヲキ向

ニ長刀右ノ方ニチキ 荒有難 グワシヨモ 中々ふッキ 有を海のツメ ある津の
正 御供より出ル 女とてワキ 恨めしや正ニアサカリシホリ 身ハ 正直シ 命
ハ 左へ廻リクツロギ長刀コウケンへ渡シ扇持ワキ 惜めぬ ツメル打切ニ真中シヤウギ あり
き世のたりよッキ され共正 所ハとくをッキ ちゆんあん 左ノ手出シ △
○ 只通路と正見 うす氷直シ 深田ふのけ 拍子左エノリ △ 打切あ正 ともな
れをッケ 雪とむら 見付方ヲ見廻シ ○ 田弓手ハ 左足見 ちげて 右ヒキアツ見
おりのたふん 起 手綱ハ 両手前出シヒキ ちちを馬ノ頭ニツ斗打又ウシロウチチモ
ゆる方ハ 起 扣へ玉へり シヤウキニカハル とは如何よ 両手打合 ちりー立
右へ出 見奉とッキ柱ヨリ少ヲ正見ソノマ、出下居 巴ハッギ 其時 起 巴と兎角ハ
ツギ左ニチンホリ打切ニ正メチ 見れば 橋カ、リ見扇コシニサシクツロギ長刀持ッキ正出 ち

ゆる橋カ、リ見 今ハ引とハ正 巴少ハ 拍子七ツ 態と 橋カ、リ見長刀カイ込左
へクリツキ方へ行 切て 橋カ、リ見 長刀柄長く 右へヒキ長刀アゲ左へキリトリ直シトヒ
下ニメチ長刀アゲ 木葉 拍子四ツ 嵐ハ 長刀又トリ直レ又トリ直シアトハライナガラ橋カ、
リへ行 切立トマリ 跡ハ 幕ノ方見 長刀ツキ又見ル 今と 長刀ステ扇ヌキ元ノ
所へ下ニ 御あくら サシ左ノ方見 巴 扇ヒラキ左へモチ 御暇ハッギ立 行共 シテ
柱先へ行トマリ 君の 正見左ノ手右ノカタエツケ正見ル とと 正直ハ扇ヌ、ミ右へ少シ出下居
扇下ニヲキ 上帯切 太刀ヒモトキ 心静ハ 太刀右へチキ 多一打 右ニテヒモトキ 両手
ニテ前ニチキ 引のちぎ 両手エテ袖口ヲモチクツロキ 其さど 太刀左ニトリ右へ持左ノ手
ヒロケ 引のくー 太刀左ノワキへハサミ扇モチ 所ハ クツロギ太刀ハメシ正出 涙とッ
ホリ右へ立歸リツキダワシヨトメ

教 盛ッレ三人草カケノ扇コシニサス

次第コテ立ナラビ地ドリニ扇ヨリテロシ正ヘシテキ 家路 向合 うさふッレト入カハラン
 テ柱先正ッレ笛ノ上 此方の ヲキ 其身も ヲキ 草刈の笛 ヲレ向合 ふーッキ
 ツメ げまー 正 ふうも ヲキ 遊ぶも ツメ 身のどき 正ヒラキ より竹の
 拍子ニツ 小枝 ヲケ 草刈の正笛 是も名も ヒラキ 青葉の ヲキツメ 住吉の
 スミトリシテ柱先 海人の ヲキヒラキ ー クッロキ草捨扇ヌキ正ヘ 何のゆゑ ヲキ
 さつげ ツメ 誠も ヲキ ゆのりと聞 を 真中行下居ノハシヨ 捨さセ 正 毎日毎
 夜 ヲキ やさき メナシテ柱ヘカヘリヲキ 其名は ヒラキ正二重引入ル
 ノチシテ柱先ヒラキ ぬかも ヲキ 何ーも ヲキ 来りぬり ツメ 今も又 ヲキ
 友成けり ツメ 是のや 正出ヒラキ 善人の 左手出シヲキヘ行袖返シ左ヒキヲキ向 有

難ーく 左へ廻リシテ柱先ヲキヒラキクリ真中行シヤウギ どんこも ヲキ 過ぐも ア

タリヨリ出タツ正行カ、リサシ廻シヒラキ 舟ふ浮 拍子六ツノリ込ヒラキ △千鳥の 打込

ヒラキ 我袖も 左袖卷ニ足出下ニ 海人の スミエ扇左ニトリ廻リシテ柱を 立るや ハ子

扇正出ヒラキ えむと扇上ヨリヲロシ見 思ひを サカニ右ニ持右へ小クマハリスミトリ

のころ所 スミ上見廻リ大小前正 かなーさ シホリ 扱も二月 直シ 今ゆうを ヲキ

夫社 ヲキ 音も一ふー正 拍子を揃へッッロギハカ、リ三段舞中ノマイワカアゲ

一門 拍子ニツ 皆々 サシ右廻リ 汀を 橋カ、リ方見 御座舟も 正出クモノ扇ヒラキ

せん方 二重引 あきね イウケン かわりける ヲキザへ行 うちろより 橋カ、リ見

ヒラキ 道かけ シテ柱运行左ヒキ見 敦盛も 正へ少シ出 馬ひき 両手出シ左へ小クマ

ハリ扇後見アヘステ 打物ゆりて 太刀ヌキ上テ見ヲキ方へ出 二打三打 左引ウチ拍子六ツ

馬の上あて 太刀ニテサシニ足出 引組んでクミンリカエリ下ニ居 終あ打れて袖カ
ニシツキ いんがら 左へ廻リ かなさき 太刀アゲツキヘツカくト行サカリ あだを
むグワツン正直シ 終あ共よ サシ右へ廻リシテ柱先小廻リツキサシ込太刀捨ヒラキグワツ
シヨ拍子どめ

田村 ホウキ右ニ持扇前へサス

一セイ内ニテ 花さうり サカリ 見渡さウケ 時をと 出返ニ正 さんひツキ
げよく 正 抑當寺 ツキ むわー正 老翁あり ツキ 彼翁正 さわさツキ
田村丸 ツメ 今も其正 深きウケ 様々の誓ひ 出カケ 國土 ヒラキ 大ひ
の正直シ げよく スミトリ廻リシテ柱先 あふくも ツキヒラキ返ニクツロギホ、キ捨扇
ヌキ持正 さんひ ツキ 先南 南へ 又北あ北へ や 東見 此地主の 頭正へ

先々 ツキ げよく 直シ げよおー秒 ツキ げよ千金 正 今此時 ツキへ行袖
トリ あらく 真中アタリマテ出 地主の見廻し 櫻の 大小前へカエリ正ヒラキ 雪
も上見 さそあ ツキ向 ちるや 右へ廻リ大小前正ニ足出 春の空 拍子 げよ時め
けら 正出ヒラキ 風長閉あさ 左右向正打込ヒラキ角取廻リ左右 御誓願 拍子 みと
りの 打込ヒラキ げよの スミトリ廻リ りぐくの サシ廻リヒラキ 天の 頭トリ上見
あふりや 拍子四ッ左右下居 跡をおーまの ツキ 歸るや 正 たのよ ツキ 我
行方 居立 地主権現 マチ正出 くだるのと ヒラキ くだりそ右廻リ留ノ方へヒラキ
のきゆるや 上見 月の 扇ヒラキアケルヤウニヲシナカラシナ柱ニテ正ヒラキ 入を給
ひけり 扇タ、ミナカラ入
ノチ一セイ内ニテ 誠一河の直シ 他生のツキ どのトの 右へニ足出 是を拍

子ニツ正へノリ込ニツヒラキ 今ニツキ 坂の上の ヒラキ 東井を袖カヘシスミトリ廻

リシテ柱小廻リツキヒラキ 然るも君の 大小前シヤウキ 急ぎ ツキ 粟津の森や ウケ

石山寺 グツツシヨ 頼も直シ 瀬田の サシ右へ見廻シ 長と一ふみ 正直シナ

カラフミ 駒も 右アシヒキ馬頭見込 今てよ 正直シ 弓馬の ナチ のの色 ウケ

花も 正出ヒラキ 土も木も 拍子七ツノリ込ヒラキ 本より スミトリ廻リシテ柱先小廻リ

ヒラキ 鈴鹿の 拍子四ツ袖カヘシ左右打込ヒラキ 去程よ 正出ヒラキ 天小 上見 地

も下見廻シ 萬木 サシ右へ廻リ小廻リカケリヒラキトメウケヒラキ

生田敦盛 扇持作り物ノ内シヤウキ道行之内引廻シ下ス

愚りの人 ツキ のふ敦盛 直シ 袂小 返シニ子方面斗向 りくは 直シ 袂ヲ見多

社子方へ面斗 扱も 子方へ 明神 直シ 親子の 子方へ打切ニ直シ作り物外へ出 花

鳥 ウケ 詩歌 直シ むのくゝゝ 拍子 来りけん 正出行カ、リ 本曾の 大クサシ

マハシヒラキ 主上を ツツカニ右へ三足出 花の 拍子七ツノリ込ヒラキ 習はぬ 小ク廻

リスミトリ 渡り廻リ 又立歸る 正出ヒラキ 須摩の 右へ廻リ 程近一と 正ヒラキ

一門の 左右打込上羽 如くみて 拍子 りき弓の 打込ヒラキ 矢たけ 右へ廻リシ

テ柱先 皆散々よ サシスミトリカサシ廻リ子方へ向 嬉しやあ直シ 親子 正ヒラキ

名残 扇タ、ヨクツロキハカ、リ二段五段ニモトメ小ク廻リスミエヒラキ 心得守 身入

多ん王 ムチサシヒラキ 言のこ 正ヒラキ ふーぎやあ 拍子 ふーぎやあ 正行カ、

り 黒雲 サシ右へ廻リシテ柱先 其數 右大クウケ正ヒラキ 天地を 上下見廻シ 又

其數 大クウケ見廻シナガラ四五足出ルモ 物々一扇左ニトル向へツキ出シ太刀ヌキ見 さら

このさー スミトリ太刀ヲ上ルモ 爰や廻リ めくり ツキ座向 火花を 太刀ト拍子ニツ

一所アト拍子四ツ 暫くサシ右へ廻リシテ柱先 きへ失て ヒラキハツキリ正見 月分々
ウケ上見 とぐりーや 太刀ヲトシ扇トリ直シ 急きムチサシ子方へ出 歸りて ヒラキ
下居 泣々シホリナカラヌチシテ柱迄行 立たるサシ右へ廻リ小廻リヒラキ袖カエシ拍子トメ

小 督

ワキヨビ出シ謠ナカラ出 是と宣旨 下ニワキワキ狀持來ル左ノ手ニトリワギ 扱さげナ
キ 今夜と正 くらーワキヘツギ やがて チヤル打切ニチチ内へ入 急心の行
シテ柱ニヒラキ返ヨリ入ル
ノチ一ノ松ヒラキ 夜の歩ぞ馬ノ頭見 小鹿あくウケ 詠めけらツメ 嗟峨野
の正へ頭斗直シ くらを直シ むちを上げて ムチアゲル馬ノ頭ヲ見ル又馬ノアト打モ
急がんツメ ちや左へ出 駒を内へ入地ノ方へ行 かけ寄て 見付柱ノ方へ行

ひのくく サカリキク 月あや 真中へ行作リモノ前ニテ正向 琴社 右アシヒキキク
ぎよけり 其マ、正ヒラキ 峯の嵐の 見付柱ノ方上ヲ見 松風の 橋カ、リへムチ出シ
見サシ橋カ、リ見テモ あらぬりシテ柱へ行橋カ、リ見 尋ぬる ツクリモノ前へ行キク
ゆるゆるよてひ クツロキムチステ正出シテ柱先ツクリモノ向イ しのめ 謠正へ 門
はなれてぞ ツクリモノへツカくト行 とろをど 左ニテ戸チサへ 是は トモツレへ向
うりくまや シテ柱邊マテサカリ しのツレ 笛仕のツレ 勅定を真中マテ出
むくらひの 角向 今宵は 少シサカリ兩袖カへシ安サ 月よ 上見 主は頭斗ツレ 畏て
ひ トモへクツロキ此ウチ作物入扇持真中へ行ワギ謠 迎の 正直シ扇ヒラキ左ニモチ狀フトコロ
ヨリ出シ上へノセ 赤あくも ツレノ前へ行扇向ムケ下ニワキサカリワギ扇ロンキマテ其マ、
又ツレ狀トル直ニ扇トリサカリテモクリ正 中々成りツレヘワギ 身あぢめるツレヘツギ

宿まゝツレシギ 是多々々 マチツレ前行扇狀ノセアルヲトリ左ニモチ 御暇やシギ 立

出る 真中へ行正向狀右ニモチ下ニ扇下ニチキ狀トコロニ扇タ、ミツレへ 御暇申 サカリテ

モ むかんの イマチ やがて社 シギ 酒宴の 扇ヒラキウケル 多々々々 扇タ、ミ

マチ 月夜より クツロキハカ、リ男舞 ワカ 笛の音 上扇 引とと 拍子左右打込ヒラキ

こととの 出カケ 我等が 角トリ廻リナガラ扇タ、ミフトコロシテ柱へ 今と歸りてツレ

向出 唐衣 左袖アシライ右モアシライ 袖打合 打合下居ヲギ 急ぐ マチ見付柱方へ行馬

見 ゆらりと 左袖カエシ右ガノリ橋カ、リへ向其マ、橋カ、リへ行 都より 正ヒラキとめ

龍 田

ヨヒカケ 渡り給とど 留リヲキ 渡り給へワキツメ げあ今 内々入 紅葉と

申とツキ りまゝめ ツメ けまゝく 直シ りやゝツキ 其のまゝめ ツメ

紅葉の歌の ツキ 又其後 直シ 重々 ツキ 限る々からず ツメ 氷よも直シ

錦織わくウケ ふゆ河も直シ 紅葉 正出ヒラキ 渡らん ツキへ 心多や ツメ

はあさだ小 左へ廻リシテ柱先ニテ正直ス 是いらん ツキワキ語 ゆらう アタリヨリ脇

正へ少出ツクリモノ向 是社能々 ツキ語ナカラ真中へ行下ニ正直ス さんゆ ツキ 有難

や 正 立田の峯と 笛ノ方ノ上見ル 川音の キキナカラ正直シ打切ニツキ向 りざ宮

マチ 名よおふ スミトリ 取ら小 廻リシテ柱ニテ 見へのるが ハス少出 我と左袖

袖出シワキへ出 立田姫と ヒラキ 名のりも 正直シ扇ヒラキ 光りを 正へ出トマリ

はあちと イウケン一ツツメ 紅井の 右へ廻リツクリ物行カ、リ ありひらき 扇ニテヲ

シヒラキ扇タ、ミナカラツクリモノへ入ル

ノチ 千秋の御影 ツキ打切ニツクリモノヨリ出ル 山風も 静成けり クセトメワキ向直シ

きねの 出カケ 敷至り々 ヒラキ 月も霜も クツロキ扇渡シヘイ両手ニテモチ正出 ぎ
んとや ヘイフリ さの拜 ヘイイタ、キ 神樂 トメワカ 龍祭 アケ 波の 左右ヒラ
キ直シ諸 ちるひ サシ込 則 ヒラキ 立田の サシ廻シ 颯々の スミヘ行扇左ニ持廻
リシテ柱 白ゆふ ハスニ向 神風 三ツハチ扇シナガラ正出トマリヒラキ 紅葉々 右見廻
シ 夕つけ 扇右ヘトリ右ヘ廻リ ぬさも スミトリ ゆるめぐる 袖カツキ廻リ袖ヲロシ
きん上 ツキサヨリサシ橋カ、リヘサシツケトマリ 山河 カサシ左ヘ小ク廻リ打込ヒラキ
トメ拍子

卷 絹

ヨヒカケ 人輪 トマリ 其繩 ヘイ出シワキヘ とけや 手ヲロシ直シ とちめの 入ル
此手と ツレノキハヘ行細見 何とわ シオリ返シナカラサカリ 此者々 ツキ とく

く ツメ 猶も ツキ 上の句 ツレ見 此上も直シ 句のさりをや ツキ なまき
物と ツメ 本より直シ 直多る 正へ出 今と早 トマリ うたの ツキ 歌人を
鳥渡ツレ見 ゆるさや ツキツメ 又も 正直シ 神の クツロキヘイ後見渡シ正向ツレウシ
ロヘ行下居 打とけ ナハトキツレ笛ノ上ヘ行下ニ 此繩を ツキ方ヘナゲルクリニ立扇ヌキ
大小前ヘ立カエリ 眼をさる ツキ トーやうの月 ウケ △クセトメ左右 神を上手
さねゆふ シテ柱ニテクツロキ下居扇ステヘイ両手ニモチ真中ニ出下居 きん上 ヘイフリニ
ツイタ、キヘイヲロシ右ノ手ニモチヒザハツケ諸 さねえ右ヘ廻リシテ柱先 とつとんウケ
正出ヒラキ 有難や 序ナシ神樂達拜 不思議 左右ヒラキ さゆあら サシ込 出
ケ ヒラキ 神話 クツロキ扇ステヘイ持正出イロエスミトリトマラス廻リ真中ニテ正ヒラキ段右
廻リ真中小廻リヒラキ打返シナシ ーやうく殿を 拍子 あみた五逆を 正出身入 中

の御前 ム子サシヒラキナシ直ニスミトリ 薬と成て スミトリ 二世を 左廻り 十万具
 中ニテ小廻リヒラキ 數々の エキカ、リサシ廻シヒラキ 彼めんあき 正ヒラキヘイカダゲ
 ル 御幣の 出カケヘイニツ左右へフリナカラエキカ、リ 空の ムチサシ上見 切けり 右
 へノリ込 うけりて 左へノリ込 地のみ又 へイカダケ右へ下ニ おとり ウシロへクツシへ
 イラロシ持直シ 數珠を タチシテ柱へ行 袖を サシ分右へ廻リレテ柱先 是迄 ワキへ出
 神を へイ頭へ上ニ足ツメ 給ふよ へイウシロへナゲ右へ下居安ザ 聲の ダチ右へ廻リヒラ
 キ拍子どめ

唐 船 シテムチ 子方ムチコシサシ引綱右ニ持

如何の トマリ 早々家路の 正 牛引星の 向合 秋さく 正 老の 向合 荒古郷
 面サゲニアシ下リ ころくて 二足出 夫の 面サゲ 又是の 子方へ 一方あらぬ 正

老木の シホリカエシ打切手下シ あれを 正ヌムチニテサレ見廻シニアシ出 我身ながら
 ニアシ面サケ のぎや 子方へ 是花の 子方へ 唯今 子方へ のやとよ 子方へ 切
 たり 内トメシテ柱先子方地ノ前 着のけり 向合返シヨリクツロギ夫が正出ワキ向下居 罷
 歸りては 面サゲ 此方へ タチシテ柱先へ行橋カ、リ見 餘りよ ワキ笛ノ方クツロギ
 下居カタ下シ夫がシテ柱先へ行橋カ、リ見 是を ニアシ下リ 明やせんツメ 春宵 扇
 上ゲウシロへサシ夫が真中へ行ツレ向下居 唐士を 正 ふうとや グワツシヨ けいよ
 ワキ 御歸國ひん タチ 荒わあや トマリ子方へ くるくる來りひん 橋カ、リ向
 暫 トマリ正 よぶ子もツレへ 取とむる 子方へ 中よ 正 ふうきめ シホリ
 下居 どのとんま 正 何中々 面サゲ 船よの コシ引上ゲ扇サシ 岩わよ タチグワツ
 シヨ なげんとす 正ツカく出トマリ さすが サカリ安座向シホリ あまりの 手ナロ

シ 是もツキ 有難の 少シ出下居グツシヨ 此子を 子方見面サゲ りくぐツキ
暇ゆて 面サゲメチクツロギツレ二人子方二人ト舟ニノルクツロギウチハ持舟ノリ 舞樂よサ
シ込ヒラキ樂

錦 木 右ニ持

次第内立向 くやーき 入替リ 是も錦木とてツキ 是々 キ出シ左ノ手ソエツキエニア
シツメ けふの正 何とてツキ 見奉れむツレ向合 此錦木や ツキ 理り多り
ツメ 荒面白 直シ 中々の事 ツキ 又細布も直シ 恨めゆツキ よむ歌のツ
メ 錦木と 正 けふのウケ さーゆ 正少出 とさざりのゆツキ とらゆのーやニ
アシ下リクモラス けふのや スミトリ 松の 廻リシテ柱 宿りよ ツレへ返シクツロギキス
テ扇ヌキ正 御物語りゆへ 真中へ行下居 錦木といふツキ 去程ゆ直シ 立ーゆ

よつてツキ 是も錦木塚とやゆ ツキ さらや正 あふいでツキ 夫婦のメチ
少シ右へ出 彼旅人 ツキ けふの正 心の岡よ スミトリ 人の廻リ真中 求めた
くぞ 左右打込扇ヒラキ 夕間暮 アゲ扇 嵐 左右 物さび 打込ヒラキ 松桂よ 上ラ
サシ廻シヒラキ 蘭菊の 右へ廻リ 紅葉を ツクリモノエヒラキ見 是そと ツキへ の
と捨て 右へ廻リツクリモノ右ノ方ニテヒラキ扇メ、ヨツクリモノへ入 又言捨て 右へ廻リ扇
タ、ミナカラ入テモ 尾花が ツクリモノヨリ出シテ柱 御らんせよツキ けふのや 少シ下リ面サ
斗正へ拍子ニツ せのりゆ 左エノリ込ヒラキ あらツキ せのりゆ 少シ下リ面サ
グ ゆめ現とはツキ よー正 のでー ツキ 夕陰草の月 クツロギ錦木左ニ持
おつとは 正出ツクリモノへ向出 さーなる 左ノ手出シ たしけどの錦木ヲ扇ニテニツ
タ、キ 内より手ヲロシ はた物の 少シ下リ正 聞をキツ きりはたり 両手出シ

錦木ヲ打少シツゝ出ル ぎりどたりちやうくどふおり松虫 拍子六ツ ぎりくす
下ヲサシハケ右へ廻リシテ柱 細布 真中へ行ワキへ下居クリニ正錦木前ニヲキ 夢中よッキ
打切正錦木左ニ持立 おのりととッレへ行下居ッレノ前ニ木下ニヲキ くのひよ 正直シ
夜ハ 東見 すぐくと マチクツロキ △此錦木を 左右ナシワキへ向 ○年紅井
身替ヒラキ 千度ゆ 右へ廻リ見付柱方ヨリツレへ向 錦木と共よ ッカートッレノ前へ行
安座 袖の涙の 錦木左ニトリ 多とや イ立錦木ニテム子サシ さてりりッ 錦木ナグス
テ正へ安座シホリ 錦木は 立シテ柱へ行正向 人よ サシ込ヒラキ 嬉しや多 ヌウケン
雪を廻らす 扇タ、ミクツロキハカ、リマイ 舞をまの 拍子一ツ 左右正先へ打込
ヒラキナカラ扇左ニトリ 立ちま 下居扇立ル 織るま ンテ柱へ行ウケニアシ出 取々 扇
ハ子ナガラ正ヒラキ扇上 うつり々 下テ見 有明の ッレへ行 はづかーや 扇カホヘア

テサカリ 浅はふや 右へ廻リ正ヒラキ ちるもの ウケ正へノリ込飛上リ下居ウシロへグハ
ツン 夢も破れて サシ見付柱カウケシテ柱へノリ込飛下居袖カツキどめ 此錦木を 錦木
へサシテモ又左右打込本形

善知鳥

呼掛 手向て吳よとッキ けえ慥成 一ノ松トマリ 加ひ有まト 面サゲ 思ひ直
木曾の 左出し見 袖をととて 右ノ手ニテ左ノソテヲヒキキリ両手ニ持 是を ヲキへ
出シ見セ 涙を 袖ニテシホリ返シニツキトリニクルヲタシ 立別れ マクノカタヘカエリ
妄者々 ヲキ向シホリ 行方えら申 サカリ中人
ノチシテ柱先トマリ 善知鳥安方 面サゲニ足サガリ 殺しニ足出 ちゆさるッ
キグワツシヨ 所は 直 奥よウケ 末引ーゆる 直シ正出 とまやわら 正へニ足ッ

メ打切ニ左へ廻リシテ柱先 心有ける 右見廻シ返ニ直シ又返シニサカリ杖ニカ、リ見ルモツレ
謠ニ直シ 何しよ 右ヒキ面サゲ 思らめど 子方へ 千代童り 左ノ手ニテナタル様ニシ
テ子方ヘシツカニ出ル 云ふとすれ ツカくト出 業障の 真中迄サガリシホリ打切ニシホ
リ返シ 今迄見へし 子方ノ方向 子隠れ笠 笠見 和田の 左へ廻リ 我が袖よ 正へ
向時左袖出シ見 直や 拍子六ツ 誰 右へ少シ出 三の笠 笠見 松島や 右へ廻リ真中ニ
テ 濱千鳥 右見廻シ出サガリ 泣より シホリ下居正直シツエ下置 末の松山 スミノ方
見少シ立 又も直シ 身を 面サゲ 忘れけり 両手打合又ヒサ斗打テモ安ザ兩手シホリ
抑うとふ ツエ持立シテ柱へ行正 愚ある哉 出 水々の 頭取上見廻ス 浪の スミ
見角トリ 平妙よ 下見廻シ 落丁の 廻リシテ柱行 よとれて トマリニ足サカリテモ
子は 正直シ 取れや今 拍子 うとふ ウケカケリ 親もをら 頭トリ上見 又 ヒラキツ

エニカ、リ上見ルモ打切ニツロギンエステ正へ くらせと シテ柱方手アケ行笠兩手ニ持右へ
廻り大小前 笠をのけ 笠アゲ 爰左へ出 ちのとの 右へ出 隠れ笠 見付柱ニ
テ下居笠頭ニ上 隠れとの 右ニ笠持立右へ廻リ 猶あり サシ角トリカザッ ちの涙よ
上見廻リ 渡るい 笠見付柱方へホ、リ ちのさき 角方見又笠下エヲトシ角見テモ打切
ニ右へ小ク廻リ扇ヌキ大小前へ正 とへし 拍子ニツ返シヨリ出 化鳥とあり 別ニ二足出
罪人を ウケニツ追ナガラ出ヒラキナカラ扇ヒラキ あらし 扇ニツ打合 羽をたき
拍子 あつねの 左ノ手ウエヨリ出シ正出見 ちのさき サカリ左右ノ目ツカミ ちのさき
サシ小ク廻リ角トリ ちのさき 扇カホニアテ廻リ よけん 笛方ヨリ見付柱へツカくト行
立多ぬら サカリ下居 羽ぬけ鳥 グワツシ正へ安ザ 我の 居立ハツキリ のぐれ
難 立正ヒラキ 空の恐し 頭トリ上見 地をこゝる サシスミトリ廻リシテ柱へ行 安き

隙あきヲキムチサシ出 玉々御僧 拍子直ニサシ右へ行ヲキサヨリウケシテ柱へノリ込ヒ
ヲキどめ

葵 上

一セイ一ノ松ニテトマリ謠 夕顔のウケ やる方直シ 悲しけれシホリ返シナカラ
内入ル手ヲロシ次第如常地返シニ正 顯それ出さり ツメ 荒らぐめや ニアシサ
カリ 立よりうきを正ニアシ出ル あつさの キナガラ右へ少出又正へ少出 姿あけ
れをシホリサカリ さめくシホリ返シ 御名乗ひ々 真中へ行小袖見下居 是と六
條のツレへ 我世よ正へ 是迄顯れツレ 思ひえらふや 直ニ右ヒキ居立小袖キッ
ト見打切ニ直 何を歎え 居立小袖見上ヨリ下へ見ル つまきまき返ニシホリナカラ直シ手
ヲロシ 今と打たて 居立小袖キツト見 つかいのめ 左ノ袖出シツレへ居立向 打たて

マチ小袖キワへ行下居 ちやうど扇ニテ打 此上立シテ柱へ行正 えらふや 小袖へ
ムチサシ 思ひのれ 拍子 恨めしの心や 跡四ツマキテム 人の恨 スミトリ 浮
子あ 廻り扇ヒラキ 水聞き 大小前ヨリサシスミエ行小ク廻り扇カサシ 澤邊の 見廻シ
影よりも 正下ヲ見 光る直シ さらばサカリナカラエウケンニツ もとあらさ
りー右へ廻リ それさへ正ヒラキ ゆめあなよ 拍子六ツ 我ちきり 大小前へ行
猶も思ひの 小袖見廻シナカラ出 増鏡 トマリ 其面影 ツレ方へ行 そづかーや 扇
カホエアテサカリ 枕も 右へ廻り扇後見ザへホ、リッボ折ハナシ兩手ニモチ少シアゲ小袖ノ上ノ
方へ行 隠れ行ふよ 小袖カツキウツムキニ足出ニ足サカリ返シニクツロキ下ニ 行者は 諸
出ス立出ル小袖カツキナカラシテ柱先ニテ兩手アゲワキ見又カツキワキノ右方へザスウツムキ 祈
つゝね 兩手アゲワキ見 あまぐら 又右へウツムキ立小袖腰ニ巻折 トメ小袖ノ上ニ手ヲカ

ナルワキヲサヘル右へ廻リワキへ下居謠 おーゆんで 安ザナシニモタチテ 東方より東見

南方 南ヲサシ見 西方 右へ廻リ打杖へ左ノ手ツへヒラキ 北方金剛 拍子六ツフミ返シ

なゆのくさ スミトリ廻リワキザニテ左ヒキキメシテ柱へ行 ちやうがせのーや ウチツエア

ゲワキヘツカくト行メラくトサカリ 則身成佛 シテ柱先安ザ 荒々 打ツエ捨ミニへ両手

アテル 是迄を 手チロシ 此後又も 頭斗ワキへ どのくーゆ 後見打杖ト扇カヘテチク扇

ヒラキ返ニユッケンニツ やらけ 立正出カケ 菩薩も ム子サシ 來こうを 拍子

成佛 サシ右へ廻リヒラキグワツシヨトメ 又 扇ナシモ 惡鬼心を 立正出 又惡鬼心打

杖前へツキ左ノ手カケ よんよく 立正へムチサシ拍子サシ右へ廻リ正サシ込打杖捨グワツシヨ

阿 漕 ツリサヲ右ニカメケ

一セイ内ニテ 限らまーニサカリ 殺今事の サカリ面サゲ 浮世の 掉下シ右サゲ右

へ二足出 此方の ワキ 伊勢の 直シ さんゆ ワキ 扱承正 あらやさーの

ワキ 彼六條の 直シ 加様よ ワキ けよや正 住ちワキ 聞玉々ツメ 物の

名も正 難波の 出カケ 濱萩の トマリ 音をワキ ぬーややと正 月みん

右へ廻リシテ柱先 敷島よ ワキヒラキ 御物語ゆへ 真中へ行下居掉下ニワキ 網を引

所多り ワキ されを正 是をゆるさワキ 阿漕とのふ正 受るや ワキ

やよよでの正 かーやとワキ 吊とせ玉へや 面サゲ せりりーや正 責一

人よ ワキ面サゲ打切ニ直 御身も ワキ 日夕たれ 正掉右ニ持立 影ゆウケ

とや 掉持ノバシ左ニテヒモトキ くり返ーくー ヒモヲ掉へカケルニヘンカケテ掉ニテヒモ

ヲ卷付 浮ぬ 両手ニ持右へ廻リ笛ノ上 俄ち 右ヨリ見廻シナガラ出 早手吹 トマリ

海つら 正ヨリ見廻シナカラ正出 きん失てトマリととをゆ サヲ両手ニテウチツケサカリ

さけぶ聲の 兩手ミ、ヲサへ面サケナカラ右へ廻リヒラキ中入
 ノチ一ノ松 よき際ありと ウケ 道をうへ 面サゲ左ヨリクリ一ノ松キワへ行 沖よ
 も 正ハツキリ見 磯よも マク方見 唯我 正 あとぎ 内へ入見付柱少シ前ニテ 網お
 りん 下居左ノ手カケアミ下シヒモ丸クダグリ下ニ置カケリ 立ウケ見少シサカリアミヲ見夫ヨリ
 橋カ、リへ行真中アタリニテマクキハトクト見一ノ松へ行頭トリ網見込少シサカリ内へ入シテ柱先
 ニテ左方下見左ノ手出シ追心右右ノ手出シ手ヲロシ網方へ向兩手出シニツウチテモ網キハへ行下
 居左アシニテ網ノ竹ヲフミヒモ兩テニモテ誦チ 耳よと 面サケ 猶心よと アミ見 唯つ
 とヒモヲヲモクニニドヒク 波と アミノ上兩手ニモテ左後へホ、リ 猛火と 向見荒あつや
 兩手ミ、ノアタリへアタル安サ打切ニ扇ヌキ持ツツロキ正へ 又荒あつや ニウケンニツ打切ニ
 二重引 夜るのゆめ 拍子ニツ 彼と アミナケ立扇持右上リ

紅葉狩

次第ナラビ向合地返レニ正直シ けよやなつらゆと 向合 餘りさびしき正 件ひ
 出る向合 先木の本ニテワキザへ行ツレ地前ナラビ ちんちん ちやウキニカ、ルツ
 レ下居 ちのぶもちすりワキ 一河の立 りのくのワキへ行 はづのー右ヒキ
 心 袂よ 下居ワキノ袖持 ささぐ 立少シサカリワキト入替り真中へ行 何りら 下居ッ
 リニ直シサシノ打切ニ扇ヒラキワキ向立ワキノキハへ行 うけーとら 下居 盃よ ワキヘッ
 ク 向へを 手ヲロシワキ向打切ニ扇タ、ミ立大小前へカへり正へ ことよ 出カケ 諸共
 み スミトリ 乱れ廻リ ささぐ 嵐 サシ廻シヒラキ片左右 是とても アゲ大左右 色
 みんて 拍子 ちけくぞ 打込ヒラキ 契るも サシスミトリカサシ廻リ 立らつらくる
 ワキ打切ニ直シ 雲よ ウケ 神の 二三足出正直シ 月の ヒラキ 雪を廻す右へ廻

リ扇タ、ミハカ、リ中ノ舞五段 ヲカ青たげのち上ケ たん々 左右ヒラキ 雨打をくぐ
 扇ニテマチキナカライデ 夜嵐の サシ右へ廻リシテ柱ギハ 月待程の 脇正ノ方扇左ノ肩
 へヨセ上見ル かなーくッキへ ゆめそーッキヒラキ返シニ作物入
 ノチ 又もあぐうよ 作りヨリ出 感陽宮の 作り物ノ右盛ニ上リ 七尺の 打杖逆ニ
 持左ノ手カケ 角ハ 右ノ方向頭斗 面をむくべき 頭斗ヲキヨツト見ル 舞働 又ナシニモ
 待のけ玉々々 打杖モチ直シ みーんよ 拍子飛ヲリカラ打トヒ替リ む々と組 左ノ
 手ヲ出シクムワマノ前帯ヲツカミ 鬼神の 少シ右へヨリ笛ノ方チ後ロニスル 頭をつらん
 左ノ手ニテワキヲツカミ作物ノ方へ引 切をらひ トビ 劔よ ヲキ太刀出スサカリ 岩
 わく 臺へ左足上作物ニ両手カケル 引やろー 臥シ真中お安ザ 忽 立笛ノ方ヨリ作物入
 舞三段目をろー アトスミトリ廻リワキ前ワキヲトクト見テ 常ノ通り扇ニテシテ柱ノ方サシ

是ヨリハヤクナル 拍子替ヲトナシニフム 舞働 臺ヨリ下リスミトリワキザニテキツト見シテ
 柱へ行打杖上テワキへ行ノリ込飛上リ下居ワキへッワツシ立右へ廻リ臺ノ横ヨリ上リトメワキチ見
 居ル打杖アゲワキ謠ニ打杖ヲロシ

小袖曾我

次第立ナラビ地返シニ正ツレ下居サシニ立向合道行濟テ後見サヘクツロキ立衆橋カ、リヘクツロキ
 弓矢捨シテツレ橋カ、リ行ツレ先へ行マクギハ向合謠シテ柱先へ行ツレ正直シ 狂言カケ合カケ合濟
 テ真中行下居ヲキ さんん ヲキ 思ひあぐら ンテ正ツレ舞臺ヲ見 高間の ニツ足出
 ノヒ上リ見ル打切ニ正 ちゅレテツレヘ向 たんん 正 ちゅんん 立橋カ、リへ行
 隔く有とそ ツレシホリ〇入替リツレシテ柱先へ行 のうふ春日の 狂言へ りつーの
 正 時宗が 狂言へ〇 母 時宗とのふとツレへ や正 おーてツレへ 伊豆箱根

正 御近とよ母へ 立そく 二足下り正 うたてや母へ 荒左ヨリニアシサカリ
母正
正へシホリ 中門を 扇ヒラキツレテニツマチキ ちねのりて シテへ向扇タム 泣々
シホリ橋カ、リへ行下居 猶此上の ○入替り正向夫ヨリ二人共内へ入真中下居ツギニツレ并
母へ母正斗アシライナシ 惣一て 二人共正へ 中々俗よと シテ斗母へ 狩場や 二人
母へ 其上 二人正 父の 二人母へ 御心あめ 二人イ立母ヲ見込 泣々 二人シホリ橋
カ、リへ行ツレマクギへ迄行 母へ レテノ方向 泣々 シホリナガラ立二足出ル シテツレ橋
カ、リニテ留リ 兄弟の ト内へ入母ノ前ニ下居安サシホリ 見入人も 母シホリナガラ
下居 祐成やよよりヲキ二人共シギシテ斗ヲキツレ見話 去よくも 正へツレモ 母の
情 二人母へ 餘りの シテ扇ヒラキ母へシヤクシツレへモ同断 うとふ聲 扇タ、ミ大小前
へツレモ立ナラビ 雪の廻らふ 半クツロギハカ、リ男舞 ちねの 三ツ拍子左右ヒラキ

兄弟 二足出向合 是や スミトリ廻リ 小鹿の 母へヒラキ下居ツギ 歸る山 正サシ込ヒ
ラキ 富士野の 拍子六ツ 年來の ニウケンニツ ちねの 向合 ちねの ウケ正へ
チロシ扇出右へキリト廻リ正へ雲ノ扇 清見の シテサシワキサカシテ柱へノリ込ツレサシ橋
カ、リへ行 兄弟 二人ノリ込正ヒラキ袖カへシ拍子とめ

源氏供養 フカイ

ヨビカケ 名の形見 ヲキ 彼源氏あ正 此事やさん ヲキツメ 是の思ひの入
とよ源氏を ヲキ ちねのーや 正直 夕日影 ヲキ少出ヒラキ ちねのけす 二重ヒ
キ △廻リテヒラキテモ
ノチ橋カ、リ 名も紫入 色よ出て ヲキ みくむ姿 正 ちねのーや グモラス
うづろひ ヲキ 紫の 正 ちねのらすと ヲキ △ねもせて 正出 月も少ウケ

紋 上扇ウシロニサシメゴカメゲツニ右ニツキ

一セイ橋カ、リ向合二句正 詠めよ 向合ヲクリ込シテ柱先 荒面白の 二足ツメ あそ
 沖舟 ヲケ 今一歸りも ツレエ打切ニ正 千賀の ヲケ のり正 阿漕の 少シ出
 汲のたし トマリタゴ前ヘヲロシタゴ竹ト杖一所ニ持左右ノヒモヨセテ一所ニモチ のさゆ
 のさゆん 向ヘ出下見クミ少サカリ桶直シ杖立タゴケケ上エノセル とふ人をらそ カツキ
 ツエツキシテ柱先ヘ行タゴチロシ下居杖モ一所ニチキ立 塩屋ヲ歸リ ツレヘ夫ヨリ真中ヘ行
 安サ左ヒザカ、エツレクツロキ桶後見トルシテノ右ヘサス さんゆ 頭斗ワキヘ のや左様の
 頭斗 御宿を召り 正直 見苦敷 コシアゲツキ向 今れを正ツレワキ一 今めいあ
 さワキ 彼蟬丸 正 今此君 ワキ 逢を嬉し心 海も少 左少ヒキ正見 波さ
 キク ふーいー 師ヘワキ語ニ正 とひとひて ヨリキク や何とてワキ のめよう

はッレヘ頭斗 やさふんと 立扇マキミテ柱ヘ行 今つとよま 二足出 塩ダまの 真中
 へ行 寄居のさ下居キク のかみ主 正 さんゆ ワキ 今社 正ヘ直シ ひとこと
 の師ヘ 思ひもふらぬ 正 おいてワキ おとと扇ヒラキ持安サ 何旅人のコ
 シアゲツレエ扇タ、ミ 物うーこ 立 とーりより 師ヘツカくト行袖トリ下居左手カケ
 夜もまた 立サカ、リワギ 何ーよ シテ柱先ヘカニ正 今も何おの 師ヘ 夫婦也
 ツメ 御身の 正出 とどめん 爲 師 とあんの サシ込ヒラキ 思ひ出も 見残し右ヘ
 廻り正ヒラキ中入ライシヨ
 ノチ内ニテヒラキ 村上の 師ヘ 其せの代 正 以て召出一師ヘ さんく
 リ出マク方ヘ左引見ル早苗大小前シヨキカ、ル あまるとらてん 立シテ柱先正ヒラキ早舞
 召ららん 拍子返シヨリスミトリ廻リ 引ひ玉へを 正ヒラキ 師長も 正出左ノ袖巻橋カ

ハリヘヒラキシテ柱小廻リヒラキどめ

師長 御ひを遊さねゆへ ウケ扇ヒラキ左ニモチ諾 くらひんのさとり 扇タ、ミ

直シ 師長思ふやう直シ 忍びて立クツロギ下居 やとり人の立ハスニ出ル 御

袖ヒ シテ向中入諸濟テ元ノ所へサツキ後ビハウケトル されこそ始よりシテへ龍神早

笛ニ出ルビハ兩手ニ持ハシカ、リヒラキ 師丸うのむと 拍子返シヨリ入 彼御ひを師

ヘトリ直シハタシ 師長給り 右へ廻リ あらひは波の シテ柱先袖カヘシサシハケハシカ

ハリヘヒラキ袖カヘシ入

鞍馬天狗

真中ニテナノリ違拜左ヘクリクツロギ下居

狂言小舞ニ立シテ柱ニテ狂言チヲト見小舞一ハイニ見付柱迄出安サ

思ひよらまや 子方へ半身 花よ正 のつゝ申ゆ 子方へ 松嵐正 鐘もキク

奥も右ノ向見 花ぞ 立子方へ行下居兩手カケタ、セウケ三足程出 扱の サカリ子方へ

有時と 中へカヘリ ひらや サシ廻シヒラキ 野初瀬 見廻シナガラ右へ廻リシテ柱

正へ 今も子方へ 大天狗 ヒラキ 君 正直シ正出 玉あぶさ也 子方へ 明日參會

サシ込ヒラキ下居 さらはと シギ立 大僧正 サシ右へ廻リ小廻リヒラキ中入ライシヨ

ノチ大へシ出ル一ノ松ヒラキ 大天狗 ヒラキ 彦山の豊前坊 拍子 白峯の相摸坊

大山の伯耆坊のりあの 直ニ右へ廻リ 邊土の シテ柱キハマテ出袖カヘシ 比良 左ヒ

キ見サシハケノヤウニ 横川 正サシ込ヒラキ 如意が嶽 上見直ニ内入角トリ 高雄の上

見廻リ 霞とウケ正ノリ込トヒ上り下ニ袖カヘシ 月は 上見 僧正の 立橋カ、リ行正ヒ

ラキ 嵐あぐらゝ 兩手マキニツ内へ入ノリ込ニツ拍子袖カヘシ つかよ 子方 さんひ

正 荒のとあゝの子方 語のて 真中へ行シヤウギ 其のせよとりふ 頭子方へ
左り 左アシ見 右りの 右アシ見 やあ 頭正へ 猶安らるる 正直シ 落たる 下見
下居 両手ニテスクウヤウニ持 張良くのを 段々小シツ、上ル 馬の上成 頭正へ 其のせ
両手ズツト出ス 心とけ 立シヤウギニカ、ル 傳へける 頭子方へ 其こととくわ正
あゝ天狗を 拍子 師匠や 子方へ しのよも 立右へ廻リシテ柱先子方へヒラキ正へヒラ
キ 抑武畧の 七ツ拍子舞働 抑 三ツ拍子

野 守

一セイ内ニテ 若菜の切 二足サカリ 翁めく 二足出 天の原 ウケ 春日長閑き
出返シ正直ス 何事 ヲキ 野守よて 正 是社 ヲキ 荒面白 正 我ら ヲキ 何と
て 正 晝も ヲキ 夜も 作りモノ向ツエ前へツキ 是成 作見上 されを ヲキ 謂

を 正へ 野守ヲ ヲキ 御らん ツメ 立寄も 正 影を ウケ 老の波 正出 見
いぢの トマリ 切りの 右アシヒキクモラス 實や 左廻リ 例のや シテ柱先正
さんみ ヲキ 御物語ひら 真中へ行下居正へツエ下ニ置 一人の野守 ヲキ 翁も 正
有へきぞと ツエサカニトリ どのと 正ツカくト出左ノ手ツエカケタモ 見れぞ 下見
込 有とと 少シサカリツエトリ直シ ともくく 正出下見 木の下の 下見廻シ 影を
り見込 鷹を サカリツエ左ノ手カケ身ヲモタセ 木居よ 少シウケ上見打切ニシテ柱へ行正
思ひ ウケ うつきのゆへあり スミトリ 誠お 廻リシテ柱 あり慮あ ヲキ 世語
を 真中へ行 やせを シホリナガラ下居正へ扇ヌキ持 しのよして ヲキ 扱や 正 鏡
は ヲキ見込 見くと イ立ヲキ見 誠の 正立シテ柱へ行ヲキ 水鏡 サシ込ヒラキ 塚の
二重引返ニ作物へ入又ツエステズシウモチ二重引ツエハナシ入モ

ノチ 鬼神よりツクリモノヨリ出ルシテ柱先へ行 野守の鏡の 右足ヒキ鏡上ル 恐れ玉
 とく 鏡サゲ頭斗ワキ 鬼神の ツクリモノへ向 入んとて ツクリモノへツカくト出ル
 暫く トマリ正へ鏡上ル 重て 鏡サゲ頭斗ワキ 雲のの雲ののの 拍子六ツフミ
 返シ 一とく スミトリ鏡上テ廻リ 一とくから 真中ニテサシハケ右へ廻リシテ柱先小
 廻リヒラキ 東方 ヒガシ向鏡上ル おう三世 サシ込ヒラキ 此鏡の鏡出ス 又と見廻
 シナガラ右へ廻リ 八面玲ろと ウケ正出ヒラキ 明らゆの鏡見ル 天の 鏡兩手ニ持正
 出上へ上ヒラキ下居鏡見 天まで隈多く イ立鏡見込立鏡ホントウニ持 扱又 ウシロヘトビ
 立テイル 大地を 下サシ見廻シカミミ下ヲムケ下見 鏡見れを 拍子一ツ 先の地とく
 の有様を顯へす一面八丈の 正サシヒラキ 鏡を成つて鏡上ル つきの サカリシテ
 柱先ニテウシロエトビ下居 さわ人の 右ノ方トチク見 打や 扇ニテ三ツ打ワキ向鏡左へ

ヒキ上 とくとく見くさり 扇ニテ鏡へサシ頭ワキへ 扱とて ワキエ出サシ込ウシロエ
 トビ 明鏡の ワキヘクワツシ立 せとや 拍子六ツ小く廻リ角ニテ右へノリ込廻リワキサヨリ
 ふとやぶらて 飛ノリ込飛下居立トメ又ノリ込正ヒラキ安サスルモ橋ガノリニテモ

大佛供養

次第道行 ナノリニカサスギアワレヤトキルツキセリフ濟テクツロギ下居笠シシウキテイルツレ
 謠出ス立正出ツレエ向イ謠 暫 二足ツメ 渡りゆへ 真中へ行下居正直扇下ニ直笠ヌギ右ニチ
 ク さんゆ ツレエ や所へ 直シ のりゆの ツレへ 寝もせで直シ 景清ダ
 ツレへ打切ニ直 せりんゆ クモラシ 早夜の ツレへ 御暇 ヲギノ心 雨露 打切ニ笠
 チキル 涙うな 打切ニ立一ノ松迄行 景清の ツレへ 涙と共よ クモラシサカリ返シヨ
 リ入

ノチ一ノ松ニテヒラカズ 我ハ夫よも 二足ヒキ 恐七兵衛 少左クツロケ よもふゆ
ウケ 姿ハ今も 直シ 浮身の クモヲスニ足ヒキ 宮人の 内へ入 神たよも シテ柱
先正ヒラキ 散ゆ 左ヨリホウキニテニツハキナカラ出 頼朝 ヲキツト見サガリシテ柱ニテ右
ヨリニツハキナカラ見付柱へ出頼朝キツト見ホ、キステツカ〜ト行 こも何者 トマリ少サカ
リ真中 是も春日の ワキ 春日祭 直シ のふ ワキ 何〜あツメ め〜むと直
シ 顯れけるゆ 左クツロケ あらばれたりと 二足サカリ さらぬ 右へ廻ル心ニテシ
テ柱ノ方へ向 又人影 後見サヘツカ〜ト行下居 皆一同ハ アタリヨリ立一ノ松へ行正
大音上て 右クツロケ あざ丸を 拍子ニツ きるりと 太刀ヌキ下テ見 立向の 頭ノ
上へアゲ 大勢も 内へ入キリチカイワキサへ行 四方へ 橋カ、リ見 中ハ 太刀アゲ
と〜りゆ〜りゆ 上下ニテ合左へキリナガラ下居又右へキリチガヒ下居立下ニテ合飛チガヒ足

ハラヒ切 今も景清 右へ廻ル心大小前行正直シ ぎ〜 下居敵又立ナカラモ 彼あざ
丸 正サシ込ヒラキ太刀ト左ノ手アゲ きり立 グワツシ橋カ、リへ行一ノ松ニテ 飛入 トヒ
上り下居一足ニトヒ下居テモ 落けるが マクギハ行ヒラキ太刀カタゲトメ
又きり立 ヒラキ橋カ、リへ行テモ

頂羽

一セイ内ニテ 秋毎ハウケ あふワキ 叶ひぬま〜直シ あふ〜ワキ とく
のり給〜 サヲニ右ノ手カケルワキノリ下居ル手チロス 月をゆ ワキ見 みあれ掉をサ
ヲサシ 船りつゐては 頭斗ワキ手カケ乍諸ワキ上リテ手下シ 扱舟賃を ワキ 何れハ
てゆ ワキ出ル時サチチトシ真中マデ出諸ナガラサガリ草ヌキ 不思議や多 直シ さんハ
ワキ 是は頂羽の ワキ ちら〜のためて ワキ向真中へ行下居直シ花下ニ置扇ヌキ持

のつとはせんとッキ 又ぢううん直シ つるぎをぬりて扇出シ見 我と我首
頭ハサシ ぢき落 面サゲ 此原のッキ ほううん 正 さのみ 立シテ柱へ行 頂
羽のッキヒラキ返シニ正ヒラキ中入

ノチ一ノ松ニテヒラキホコツキ とけふんく ッケ 天津乙女の 正ヒラキホコカイ込
各々 拍子七ツ 四面よ シテ柱へ少出袖返シサシワケ右へ廻リ 又執心 マクノ方見 荒

くらゝの ホコツキカタヘカケル 身をなげ ツレ見ホコカイ込シテ柱へ行袖返シ見込 働

内へ入ダイヘトピ上リホコノエニテ左ヨリ一ツカキ右ヨリ一ツカキカイ込ダイノ左ヨリナリ 大小前
小廻リヒラキ段又ダイヘトピ上リトメ 頂羽ハ 拍子六ツ 成行草葉の ダイノ上スミトリ

消果一 クモラシ廻リ右ノ方ヨリトリ直シ又左ヨリトリ直シ下テ見 皆あげ捨て 右へホコス

テ 身をたゞ 兩テクミツリカヘリ下居 ゆめ物語 袖カヘシワキ見 あわれなる安座

あわれくらゝき 返シニ扇ヌキ立 味方を 其マ、橋カ、リヒラキ見 高祖よ 拍子六ツ

荒ら聲と イウケン けつ物 ムチザシヒクウダイ右ヨリ二足コトピ下リ くのしきや

ニツマチキナカラ出ヒツツカミ あけ捨 正へナゲル 又とひきあせねぢ首 上ヨリ左手ヲ

ヲロシ下居伏ル 糸そろゝ スミトリ廻リワキザヨリサシシテ柱へノリ込トヒ袖カヅキ下居とめ

鶉 飼 扇サシ

一セイ半越松明アリナカラ出ル内ニテトメ 傳々聞 ッケ 今の直シ よろこへと二足

ツメ 悲一けれ クモラス二足ヒキ 是程 ッケ 叶はぬ 出ル返シニ正 けつもの 諸

ナガラ松フリ少出ワキ方へ松上ッキ見テ諸 さんゆ 手ヲロシ正 けあゝッキ 覺々

余ゆ 正へ さんゆ ッキ 扱はくるゝらぬ 正 仰尤よク ッキ とまぐづ

直 扱ハ ッキツレへ をねハ ッキ 心得ゆゆ 真中へ行下居正直シ松下ニ置 今仰ハ

ワキ よなく 正 其時左右の グワツシヨ ふうふう 手チロシ 其鷓ののひの
 ワキ 言語同断 正 荒有難 ワキ 心得ゆゆ 正 ちめる松明 松明持立 振立て
 ニツ三ツフル 藤の衣 笛ノ方へ行扇ニキ開三段目のヤウニ持サゲル 此川波の 見付柱方見
 ぶつと 左ヨリ横ニ扇出シ少シ出ル直ニサゲル 面白の 松フリナガラ出 ところよゆサ
 シシテ柱へツカくト行 けり火の 下見 追廻リ扇ト松ト打合進ナガラワキ 正へ出り
 ぎあけ 扇ニテスクイ上ル 隙多く 右へ廻リシテ柱へ行正へ せなれ果て 扇ニテヒヤ打
 面白の 頭斗ワキ 漲水 正 玉島川 松フリ正出 ちあゆまゝなる サシ下見廻り少サ
 カリ 不思議ゆを 松上松見 蔭の 左ノ下見 思ひ出り 東ノ上見ル なりぬる扇
 松捨サガリ 悲一さよ 兩手シホリ 鷓船 右へ廻リシテ柱へ行 名残おーさと ワキ
 ののあせふ 二三足ツメ返シニ見残シ入

ノチハヤ笛一ノ松ヒラキ 抑直シ 事も多く 扇立左足引 無間の 拍子ニツ ぶさ
 右へ出拍子ニツ 一僧一宿 左出シ袖カヘシワキ見 急佛所 左足引ワキ見 悪鬼心 袖
 フロシ正 法華の 内へ入シテ柱先又真中迄 箒火の サシ右ウケ出ヒラキ 迷ひの スミト
 リ袖返シ廻リ 實相風 大小前小廻リヒラキ袖カズキ 雲晴々 上見 真女の 見付柱方上へ
 サシ右へ廻リシテ柱小廻リ打切ニクツロキ正 摩道よ 拍子七ツワキノノリ込ヒラキ 實有難
 ち スミトリ廻リ それほ 廻リ大小前 經とと 小廻リヒラキ 夫聖教のどめいよて
 あつもの フミ返シ正 只一乗の 正出ヒラキ 沈果て 安ザ 浮み難き イ立 佛果
 を 左手出シ袖カヘシワキ見 是を見 イウケン立 成てゆ スミトリ廻リ真中 僧多
 ワキムチサシ出ヒラキ 實往來の サシ右廻リシテ柱小廻リヒラキ拍子どめ

海 人

△此御經 上ヨリサゲテ見ル 八才の子方 猶々 ヒラキ △經渡シニ足サカリ立歸リシ

テ柱大臣へ二足天天ヒヤウラウ正ヒラキナガラ建拜 今此經 大臣へ

善 畏

次第内大小方向地トリニ正建拜打切ニウケ出ル返シニ大小方へ行正へ 案内をりさそやと存

ハ 諸ナガラ左へクリ橋カ、リ一ノ松正向諸 山の姿 右引上見廻シ 所にてゆへ マク方向

諸 御入ゆへ ッレト入替り内へ入真中安ザツレ向合 蟻螂ケ 正 大小の 半身向合クリ

正クセ打切前アゲ前クセトメ向合打切正ツレ立チ顔斗ニテ見立シテ柱へカへリ正 雲の ヒラキ

らけはー 下ヲ見拍子一ツレヒラキナシサシ見廻シテモ 我名ゆ 正出東方見 横川の サシ

込ヒラキ 南より 南サシ右へ廻リシテ柱先小廻リヒラキ中入

ノチ大ベシサシ出ル一ノ松ヒラキ 荒物々ーや 右ニヒラキ見 夫若きあゆうけ 内へ入

荒のたどー ヒラキ 欲畏の スミトリ袖カへシ廻リ大小前小廻リヒラキ 不思議や 七ツ

拍子ノラズ 本より 正出 ほんゑやう 袖カへシサシハケ右廻リシテ柱先小廻リイロエスミ

トリワキ前ニテ行カ、リ左引見右へ廻リ橋カ、リ一ノ松ニテ頭トリワキ見段サカリ内へ入シテ柱先

大クウケワキチキツト見ワキマへノリ込ヒラキ袖カへシ見 うんさらたのんまん サカリ真

中ニテ兩袖返シ安ザ明王顯はれ コシ上正見 とんがら 立ウチハヨユニシテニツ打行カ、リ

各 サシ右へ廻リシテ柱小廻リヒラキ兩袖カツキ おひーあまヒラキ 舞働直ニスミへ

行 みささどへららて 兩袖ハチニ重開 たわんまん サカリヒキアゲ一足ニ安サニテモ

春日龍神

一セイ内ニテ あらたまり サカリ 神の代より ッケ 三笠の 出ル返シニ正 △さ

れぞ上人をハ 正 日本のさり サキ △三笠の森の 直シ 風も ッケ 春日山

直ニ出ヒラキ打切ニ直シ 皆くくくウケ左ヨリ三足出 上人セウキヘヒラキ打切ノ
内ニスミトリ廻リワキ前 とも武藏 トマリワキ見 只返をく 廻リシテ柱 おま
あせウキヒラキ返シニ具中下居 物語ゆへ 正直シホ、キ下ニ置扇ヌキ持 △ 鷲峯の説
詣居立 双林の立ワキ 待玉くッメ 木綿四手の 右へ廻リシテ柱ヒラキ中入
△ ちあーゆら王 セツノリ込ロラキ 恒沙の 右ウケ 引つれく 二ツ打ナカラ正
出ヒラキ安座打切ニ扇サシ打杖ヌキ持 白妙 イ立打杖ツキ 空色も 袖返上見 冲行 立サ
シ右へ廻リ小廻舞働

舍利

諸ノ内ヨリ出ル 月雪の 正 庭の松風 ウケ 更行 正出カケ 心耳セ トマリ右ヒキ
キク けよきけや 左へ廻リシテ柱 唱ふるん 正直ニ返シヨリ真中へ行下居 今何セ

ウワキ 猶此舍利よ イ立舍利ヲ見 ゆらー直シサス 舍利殿も イ立見 きんり
ん立 寶座セ ヒラキ 梅壇 拍子六ツ返シヨリ橋カ、リへ行真中アタリ正出 上よ立上
る 頭トリテ上見廻シ 光よ サレ内へ入シテ柱先ヒラキ 尼早き 拍子六ツ 舍利殿よ身
替臺上へ飛上リ くるくくと廻リ 見る人の サシ見廻シ 其あきれよ 舍利見
下居 け舍利セ 下ニ舎リ兩テニテトリ立 け破り 舍利臺ヲフミヨハシ舍利右ニカ、へ盛
ヨリ飛下リ入

ノチ早笛ニテモ橋カ、リニテマク方見カヘリウキサへ行モテハシテ柱ニテ橋カ、リ見込早笛ニ成ル

竹生島

一セイニテ出ル舟ニノリサテ持ツレ先へ出舟ニノル中立テ居ル 心のなッメ 浦山あけて
ウケ打切ニ直シ あふふふふサチサス しのふ 正 是の渡 ヲキ 實此所は

ワキ さらさら直シ 都人のワキ 御船よ サヲサス打切ニ直シ さらりウケ 直さ

沖漕 正見 ため直シ 同船よ ワキ見 竹生嶋 向見ツメ 月海上

サチ出シ うさぎも サチサス 舟のワキ 此せうが サチ落シ舟方出真中下居

是社 ワキ 夫もワキ 女人とて ワキ打切ニ正 りーゆうワキ 實々直シ あら

磯 ツレ立見付柱へ出 我も人間 ワキエヒラキダ井ノキハへ行 戸ひらぎ扇ヒラキ戸ア

ケルヤウニシテツクリモノエ入 翁も 立シテ柱へカヘリ 立ち入りワキへヒラキ又正へヒ

ラキ入ライショ

あらはせ ヒキマハ下シ 音楽聞へ カヘシニダ井ヨリ下リ 花あり 正出ヒラキ 月

ツエトリナガラ右へ廻リシテ柱 返も ウケ正ヒラキ三段舞違拜 夜遊の 左右 月すみ

正出ヒラキ 浪風 サシ橋カ、リへ雲扇早苗フェノカミ下居

早苗橋カ、リ 龍神 拍子七ツ打切入 光もウケゆく 正ヒラキ 彼多れ人 ワキへ行玉下

ニ置 有難 右へ廻リシテ柱正ヒラキ舞 さらとの誓ひ 拍子一ツ く スミトリ廻リ

あるひえ 天女エムチザシヒラキ うづみの 正ヒラキ 又も 拍子六ツ 國土を サシス

ミへ行トビ下居 天女も 天女入ヲ見 龍神 大小前へ行スミ見行 波を 拍子 水を下へ

サシ廻シ 天 身入上見 地よ 左引下居ウシロエヒサ立カへ袖カへシ橋カ、リへ行ノリ込トヒ

下ニ袖カヅキトメ

安達原 後へ行トメヒキマハシ下ス

そも如何成 ワキ面斗 さらさら正 さらさらの 面斗ワキ ともや正 さすが思

んを立 さらさら 作物ノ戸チアケワキ正面ノ方へ少出作り物ノ方へ向スグニ戸ヲ見セヌヤウニ

タテル 立出る ワキ向下ニ居打切ニ正 さら草もアメリニワツカセ目付柱正面先へ後見出ス

ふひねの床ぞ ヲキへ 今宵の正 さんひ是も ヲキへ あら面白 正ヲキ諸切る
立ヲキ正ノ方へ出テ左へトリテカカセテヨク見テ出下ニ居ヨキヤウニワクカセテ直シテ上ケス
ラリト面ヲ正へ直シけにど諸テ まそりの糸 イトチ左ノテニトリ共テチヒサノ上ニヲキ右ノ
テニテイトマキヲトリマク但シヅカニマクナリコノトコロハクカセテ兩方ヨキヤウニ見テマクナリ
悲しけれ マキヤメ左ノ手ノイトチテトクカセノクシヘカケル兩手ハナシ あらまゝや
クワラリトスル 身を苦る 左ノ手ニテシヨリ とかなの ヲロン 佛果の ヲキへ打切ニ
正 あた成心 ヲキへ打切ニ正 いとけの イトトリマク兩方ヨキヤウニ見テ卷イル 糸す
き 右ノ手ヲハナシ但左ハ糸ヲ持テイル 月よゆるをや 月ヲ見ル 侍ぬらん イトマク但
次第ニ巻様早メルナリ 浦千鳥 マキヤメル 音ぞのまひとり 左ノ手ニテシテル 如何
よ客僧 ヲキ さらばやけに 立クツロキレテ柱ノアツリニテヤトアシトメ左へトリヲキへ向

如何あやひ ト諸 のまゝて ヲキへツメ 此方の ツレヲキチ見ル 心得あひ 夫ヨリ
面ヲノコシ右へトリ中入 ノチマクキハへ出正を見廻シヲキチ見ツケテいかにわれ成容僧とされど
こそヒトへ身ニナリツカく トシテ柱迄ニテトメル むねをこがす アトへメラノトサカリ
ヒヲキ

玉 葛

一セイ半越舞盛ニテトメ けい哉 ニアシ下リ 猶浮ふね ヲケ つなで悲し三
足出返ニ正直シ 是は此 ヲキ 又此河正 其河の邊 ヲキ 不思議ニ足ツメヲキ諸
ニ正 いや河事 ヲキ 折ゆらよツメ 物の見へて正 さそ多ウケうらハの三
足出ル 面白や トマリ 河音 正へ直シナカラキク 奥物深き 向ラトチク見ル くら
成のき 正三足出 霧間よ残き ヒヲキ返シニ正トチク見ル打切ニサチヲトス扇ヌキ持 くら

御堂 出下居合掌 ふた樂せんゆ 立四方の ウケ二足出トマリ 紅葉の色 左へ小ク
 マハリシテ柱キハニテ大小ノ間ニ二本ノ杉有ル心ニテトマリ返シテ 着よけり ヲキ 是社
 諸ヲキ詞ニ正 光源氏 ヲキへ 共ふ哀れ ヲキ見真中へ行下二居 能吊ひ ヲキチシツ
 カリ見ルクリニ正クセ前ヲキクセ中打切前ニヲキ打切ニ正上前ニヲキ上諸ナガラ正クセトメニヲキ
 へ打切ニ正 只頼ぞと ヲキへ 吊ひ給へ 立二足ツメ 涙の露 右へ廻リシテ柱先ニテ正ヒ
 ラキ返シ中入

ノチ一セイ本越シテ柱先ニテトマリ 尋ねさぬらん 二足サカリクモラス 尋ねては直シ
 心引るゝ ヲキ 乱るゝ 二足ツメ くらゐのや クモラスニ足サカリ正 つくもか
 み 拍子右へノリ込四ツカケリトメシテ柱先ニテ小廻リヒラキ 立やあなる 扇ヒラキ正出
 へらへと ヌウケシナガラ前へ出 長きゆみーや アトへサカリ 黒髪 左ノ手ニテガミヲ

モチミ左チ引 あかゆや 扇ニテ髪ヲウケ角へ行キリトマハリスミトリシナニ扇チハ子カザシ
 テ左へ廻リシテ柱先左右ヒラキ又カザシ廻リ大小前ニテモヨケレト 身も朽果ね 大小前故へシテ
 柱ノキワヨロシ思ひ哉 シホリテモヨシ此形ハチモシ打切ニ二重ビキ 實忘ーう スニ拍子ニ
 ツ 迷ひ 三足出 ける ノ字ヨリ右ヲウケ扇チアゲ正先へサラノトイテ 山嵐 扇チヲロシ
 とけーく落て 跡へ二三足下リサシ 露も 下チシカトミナガラ右へ廻リ大小前ニ正ヒラキ
 朽果ね 打合 恨めーや シチリ下居 恨みは 諸ナガラメチ返シニ拍子 思ひ思は
 ー スミ廻り右へノリ むくみの ヲキへシツカリ 浮名あ立ーゆ ヲキへ行ヒラキ あ
 るひそ 正サシスミへ行キリト廻リ角ヲトリ 思ひあむせひ 面へ扇ヲアテ あるひそ
 左へ廻リヲキササシテ柱へ手チ上行扇左へトリウケツメ ぼたるふ乱れつゝ ハネ扇シナガラ
 出ヲキへ行 とづりーや 扇チカリ返シヲモテフセサカリ直ニ角トリ左へ廻リヲキサヨリ右へウ

ケシテ柱へノリ込 真女の玉葛 正ヒラキウケニ足ツメ拍子どめ

難波 シテ杉ハ、キ 中入語間違り物不出

シテ一セイ常へ 難波津ふ 正ツレ打切ニ笛ノ上 今春邊 ウケ 吹とも 正直シ出

御代とゆや ヒラキ けあや スミトリ廻リシテ柱先ワキへヒラキ 真中下居ハ、キステ

扇持正 △ 咲や此花 ワキへ 百濟國の イ立正直立 今も此花 正三足ツメ 百さ

へすり シテ柱先へカヘリ 夜もすくら ワキへヒラキ 花の下臥 正ヒラキ中入

ノチ出端ツレ先ニ立内へ入シテ柱先ニ立シテ橋カ、リ一ノ松ニヒラキ 向ふ難波の ウケ違ク

見ル 夜の舞 正 夢ハ一 ワキへヒラキツレノ語ニ正ツレワキへ 我は又 ワキ 相人

なり ヒラキ 昔仁徳 正 言の葉の ヒラキ 難波の内へ入シテ柱ノキワニテ下居ツレ

ノ舞ヲ見ル ツレツユトリ右へ廻リウケ正ヒラキ大小前ニテ連拜マイ三段ワカ上ル直ニフエ上へ

ザス あけ共 直ニ正向立 掛一鼓 正先ニテ左ノ袖マキ込 時守の 下居面ツセル さむ

ると 立角チトリ 鐘の キク心左へ廻リ大小前ニテ正へ二三足出 入江松風 右ヒキ橋カ、

リ見 村あーの葉音 何れを サシワケ廻リシテ柱サキウケ正ヒラキ連拜神舞四段スミクツ

ロギ正直 ムよりてそウケ出ノリ込ニツ かねりてそキリ、ト廻リ左ノ袖カヘシ 此

音楽よ ヒラキ四ツ拍子 せの人 ワキサへ行兩袖マキシテ柱先小廻リトメツレ三段目扇ハチ右引

常之如クニ取直しサシ角へ行小ク廻リ角トリカザシ左へ廻リ大小前ワカ

女郎花

ヨヒカケ ありてや 正直 ヲさしの旅人 正面 よー知人 ワキ ゆるーやありニ

足ツメ 一本おとせ 左ノ手ヲ出ス打切ニ正 うーろ ウケ 女郎と 正出ル ちきりけ

む ヒラキ 彼郎郎 左廻リ 誠あるべー シテ柱先ニテワキへヒラキ 此尉こそ ワキ

此方へ正二三足出足トメ 山下の人家 ヲケ 和光 正直ス 比と八月 少シ出下居合
 ヲ打切ニ立 さゆけきッケ 紅葉も 正出 石清水 ヒラキ 苔の衣 角トリ 三つ
 の袂 左廻リ 法の神宮寺 大小前ニテ正ヒラキ又ヒラキナシニワキへ向テモ 有難かり
 ワキ打切ニ正 岩松 ヲケ 山をひへ 遠ク見ル 諸木枝 面ヲツガイ見廻シ 鳩の 直シ
 真中正面先ツカくト出 見れを 足ヲトメ 三千 二足ツメ下ヲ見 千里も 右へ廻リ
 のこけ シテ柱先ニテワキへ向 御暇ゆひへ 面ヲ少シサゲ右へトリクツロキ 多ふ
 く 足ヲトメ正 荒何共なや ヲケ 女郎花 正 又此山の ヲキ 此方へ正二三足
 ヲケ 是成も男塚見 又此方 正 此男塚 ヲキ △ウー人 二足ツメ もづり
 面ヲ内へトリ正直ス 語も 直シ 中々ね ヲキ 誰のあれも ヲキへ出 便り
 ヒラキ 更行 右へ廻リシテ柱先ニテ正ヒラキ迄ニ中入

ノチ出揃不越又本越ニモツレ先ニ立舞臺へ入中ニ立正シテ一ノ松ニテヒラキトメ諸 歸らば正
 出 りもせの波 ヒラキ きのよー玉の女郎 七ツ拍子舞臺へ入ヲキ向 あらそれた
 リ ヒラキ合シヨツレモツキへ 影の 正ツレモ正 わらハッツレワキへ 都を 正へ
 出 身をまぐる 下居シテノ諸ニテワキ座へ行ワキ正ヲ下居 頼風是 正先ツレノ下ニ居メ
 ル所ヲ見ツカくト出 行見れを 二足ツメ あへなき 面ヲサゲシホリナガラシテ柱先へカ
 へリ正 頼風心 少シ右ヲ引面ヲ内へトリ 扱は我妻 直シ 草の枕 左ノ袖出シミ左ノ足
 ナ少シ引 我袖 袖ヲ見 露ふれ 正見出 氣色よてトメ おのこの 二足ツメ 又右
 へキ、リト廻リムチザレ 本のことゝ爰よよつて貫之も男山 右へ廻リ大小前ニテ 水
 くま 正直シ 跡の世 シホル打切ニ正 むぎん 正出 ひとへや ヒラキ 拍子
 一ツ あつー 左へシツカリト廻リ大小前 成んとて 足トメ りつて ウケ正先へ扇ア

ケノリ込 河よ身 拍子ヒラキ先ニ下居 とゆよ 右へ廻り真中ニテ 又男山 扇ヲ左ノカ
タアケ上見 其塚を 角ニ出見込トマリ 主をツキ ちぢろー出 跡吊ひ ヒラキ
あら閻浮 シテ柱シオリクツロキ正ヒラキかけりトメ小廻リヒラキ扇ヒラキ 邪淫の 拍子三
ツ左右打込ヒラキ 其念力 サシ正真中出 道もさのーも 右引見 つるぎの 正上見
うんよ 正ノリ込跡へ飛上り下居ナカラ雲扇 人を見へるり 上ヲ見 やとて 立 行登
れを 正上へニツクワツシ つるぎを 立左へ小廻リニツクワツシ扇ムチヘアテ 骨をくたく
ととそも シテ柱へ行ウケ扇ヲ上正先出チロシ くとつ サレ右へ廻リシテ柱ニテヒラキ よ
ー多かりける 打合 花の一時を ツキムチサシ出フミヒラキ 露の 右へ廻リレテ柱
ニテツキ合シヨ 罪と ヲケ袖返シとめ

驚

一セイ半越掉左ニモチ舞臺ニテ 亡心何よ ヒキツメタモ とがれてウケ 忍びもつ
正 ちまそま 二足ヒキ △さよてき 正 現の夢ウケ ところ 正出 海人人の
ヒラキ 心のやま ツキ とひ玉へ 面ヲ内へトリ 心の闇 ツキヲシカト見 世をの
り孔 左へ小ク廻リシテ柱ヲキ向 法の力 ヒラキ返シ中へ行下居打掛ニサチチトシ扇ヲスキ持
△頼政さりと 居立目付柱ノ方ヲ見 失とつて 目付柱ノ方へ扇ヲ左トリナカラ直シ
南無八幡 面ヲサケ さねんーて 扇ヲ上ケ弓ヲ引 放矢よ 矢ヲハナツ心 あらるマ
テシカト見 あらりや 扇ヲサカニ右持シツカリト立 めつと寄テ ヲカくト行両手ニテシ
カトツカミ右ノコシチ入レ又右ノコシチヒキ下居 とくの力 シカトササヘニツサシ 扱火を
立扇本ノトヲリ持アトヘタラくトサガリ 頭を猿 右チヒキ扇ヲ上見此時扇ヲ松明ノ心 尾
とくちちと 左チヒキ左ノカタヘ扇ヲアテ 足手は 其マ、ヒラキ下ヲ見 多く聲 右へ

シツカニ小ク廻リシテ柱ノキヲヨリワキヲ見中へ行下居打切ニ正 沈ハうの切ワキ けよ
や 正此時後見サチ左ノ手ノ下ニチキ 多き世の 扇ヲコシニサシ 掉取直一サチ見左ニ持

のると立 夜の波よ 正二足ユツソリツメ 浮ぬ沈ぬ アシチカケ橋カ、リへ入

ソチ面小飛出出端不越橋カ、リ太鼓座ヨリワキヲ見込トワキ 一佛 ト諸出スシテ柱先ニテ開

合シヨ 有情 ト諸 頼々々々 ワキヲ見諸ノ内手ヲロシ 頼々々々 正ヒラキ 五十二類

拍子六ツ角トリ袖返シ左へ廻リシテ柱キワワキへヒラキ合シヨワキ諸ニ正 扱も我 ワキ

王城 ヒラキ 東三條 橋カ、リ一ノ松ニテ正 ういゝつ 舞臺へ入シテ柱先ニテウケ正先へ

ノリ込 上ノ飛 拍子ニツ直ニヒラキ手ヲサゲ 則御憐 拍子六ツ 玉々の 角トリ左へ廻

リ目付柱ノ方ヲ見 我多す 雲ノ扇ノヤウニヒラキ くのりど 四ツ拍子 思ひも 身ヲカ

へ角へヲヨ込左チヒキ扇ニ左ノ手ヲカケ 矢先よ 扇ヲ右ノ方服へツキ立タラくトサ下リ下居

ナカラアング 思へを頼政 チモテチアゲ 天をのど 扇ニテシタチ一ツ打 今社 チモ

テアゲ 其時 立クツロギ扇ヲコシニサシ打ツエヌキ持大小前へトリ中へ行正 ぶさのり

ヒラキ ぶさ橋 拍子フミキリ左ノリ込ヒラキ 大臣とりあへずウケ 仰られ 正直シ

頼政 ツカくト出右ノヒザチチキ 左の袖 左ノ袖ヲ前出シ見直シ 月を 正少右ノ方ウエ

チ見 いるよ 立正出下居打杖左ノ手ヲソヘイタマキタラくトサガリ此トキ打ツエ右へトリ下居

正シギ ありり ヒサ立カへ右へ廻リ角ノ柱へムチサシ其マ、角へ行身ヲ入レ打ツエエリニカケ左

ノ手モソリカヘリ よとひみつ 地ノ方へナカレ行又ソリカヘリ橋カ、リノ方へナガレ シテ柱ニ

テ安サツチノ形ナリ シテ柱ノキヲニテ又足ヲカケナカレサカリ橋カ、リへ行安サ此形チモシ

打杖ステ扇チヌキ持角ナトリ左へマハリワキザニテ橋カ、リノ方へ雲ノ扇返シニ兩手ニテマチキウ

ケ橋カ、リへ行ノリ込拍子ニツ飛上リ袖カヅキ下居袖ハチ立ウケツメトメ 但扇ヌキタルトキ扇ヒ

ラクベシ

殺生石

ヨヒカケ △かく恐しき 正 もどめ給ふる ワキ そとツメ △那須野の正
 苔よくちウケ ふうん 正出 草の原 ヒラキ打切 物冷き 正直ス ふくろふ角
 トリ 枝もあきりね 左へ廻り 秋の夕べ 正クリニ大小前下居 △今も何よおろッ
 キ あらばづのや ワキ ひると淺間の居立 立歸り 正直立返ニカヘリ さゆ
 けの姿 ワキ 夕闇の ウケ正ヒラキ上見 此夜も 正出 我爲 ワキ向出 恐給とを
 ヒラキ 石も 右へ廻り 失ふけり ンテ柱先ニテ正ヒラキ返ニ作物へ入
 ノチ出端不越シヤギニカヘリ 玉もの前とと ワキへ面斗 我王法と 正 御憐とを
 る ワキ面斗 阿部の 正 玉もよ 扇ヲ左へモチ地ノ諸ニテ拍子 苦めて 打切 頓て御

躰を苦めて くのぼくを 扇ヲ見トリ直ニ 飛空の 一丈臺ヨリ正トビヲリ 雲井とサ

目付柱ヨリシテ柱ニテ小廻り正ヒラキ 其後 返ニテ拍子六ツフミ返シ 繪旨と スミトリ

那須野々 左へ廻り 勅をうけて 中ニテ正ヒラキ 野千と 目付柱ヨリシテ柱キワニテ

小廻りワキへヒラキ 是犬追物 正二重引拍子一ツ 兩介 角トリ返ニ左へ廻ル 草とを

りて サシワケ右へ廻り目付柱へ向ヒラキ あらわれ テチアゲ目付柱へ行扇左へトリアトニ

ツニツ廻り 追の 弓矢ノ心角マテ行 矢の下よ 扇ヲハラへアテソリカヘリトヒ下ニ安サ

即時よ 扇ヲトリ直シシテ柱ノキワへ行 那須野の 一丈臺へ飛上リ 此野も 兩袖カツキ

殺生石と 六ツ拍子フミ返シ 今あひ 袖ヲハチ正飛下リ 此後 ワキへ出ヒラキ下居 あ

るぶからず シギ 約束 立サシワキ柱ニテ小ク廻リフエノ方へウケシテ柱ノキワへノリ込柏

子ニツ袖カツキトビ下居 鬼神の 立袖ハチツメどめ

俊成忠度

初同打切ニ出ル橋カ、リ長キ時とくくちて打切アリ 何のさうれの引 △のふる
 のよてツメ さう波や 正ハツキリトヒラキ拍子ニツ むのさうの 正出 山櫻
 哉と ヒラキ よこーの 左ノ手チササウニシテツレノキハへ行左ノコシチ入袖返シ ちま
 れを 左ノコシ引ツレチシカト見 けや 袖ハチナガラ正直シ 小蝶の 角トリ うたへ
 や 左へ廻リ うが包せ シテ柱キハ小廻リツレヘヒラキ返ニ中へ行下居正 旅ねて立
 明石の 二足出ヒラキ よみちめ 打込上扇大左右拍子一ツ打込ヒラキ 松の サシ廻シ
 ヒラキ まさの 右へ廻リシテ柱先 鳥の跡 正ヒラキ 世ものき 拍子六ツ右へノリ
 歌よき サレ角トリガサシ左へ廻リ大小前ニテ 此歌の ツレへ あら名残 扇タ、ミナカラ
 シテ柱へ行正ヒラキカケリ △あれこらん ウケ 修羅王を 行カ、リ 本の ムチザシ

●右
 おろ下す ヒラキ ちとてき人 拍子六ツ返ニ扇ヒラキ大左右正打込 あら磯の スグニ扇
 拍子

左へトリ 波の 太刀ヌキ 切てあされば 角トリ 銚を揃て 左へ廻リシテ柱キヲヨリツ
 レノ方へ行左ノコシ入引 打とくくち 拍子一ツウシロヘトビ下居 あされて 正立 天よ
 りと 右ノ上見 地よりと 正下へ太刀下下へムケ拍子ニツフミトビ上リ下居ウシロヘグワツシ
 正一ツ直シ太刀ステナガラアンザ とも如何や 扇ニテヒザヲウチ ちとあつて 返ニ扇石
 へトリ立 志賀の シテ柱先へカヘリ あれあふち 正出ヒラキ ちんてん サシ角ニテ小
 ク廻リ くらやみ 扇面へアテ ともし火 左へ廻リ 眞夜の月 正ヒラキ 花と 右ク
 ツロケ正出ナガラ扇ツマミ上ノリ込拍子ニツ 少年の 右へ廻リ 早ーらー 東へ雲扇
 ありのる サシ角ヨリシテ柱キヲへ行小廻リ正ヒラキ袖カへシウケ拍子とめ

花 月